Vol.77通巻888号　平成8年3月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

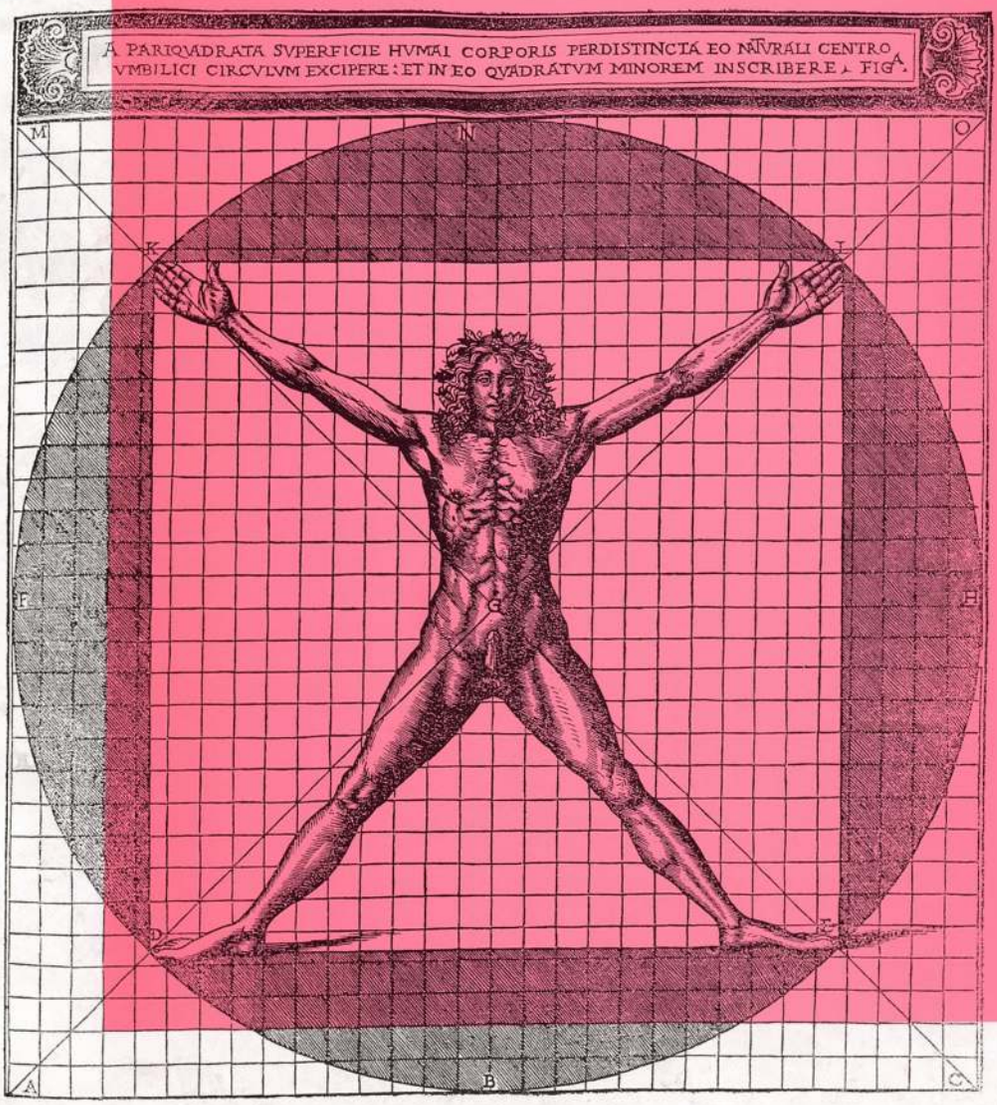
ARCHITECTURE AND SOCIETY

日本建築協会

1996 3 MARCH

〈特集〉

遠江―その地域振興と文化

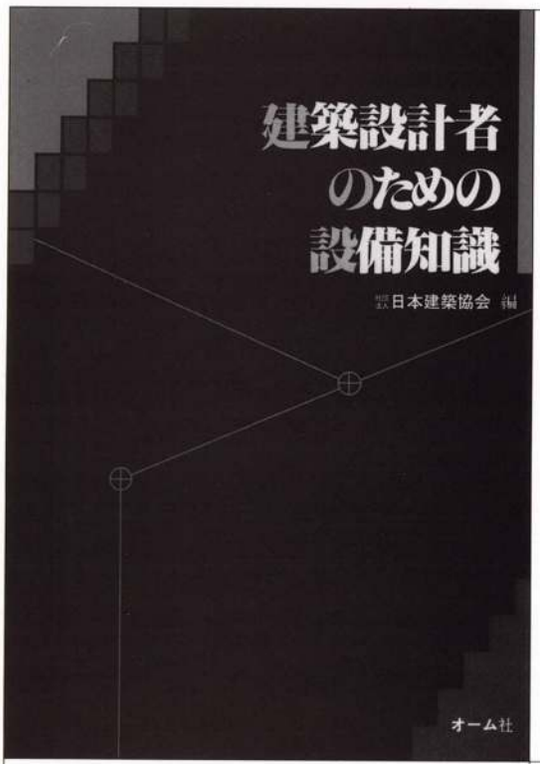


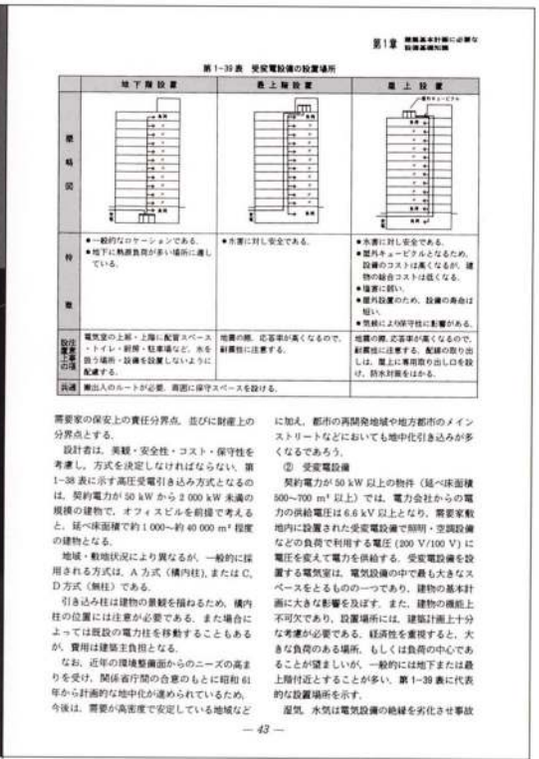
㈳日本建築協会編／オーム社発行

建築設計者のための設備知識

——増刷しました！——

B5判　220頁　上製本　定価5000円(本体4854円)　'95・6月30日 第2刷刊行




第1章

第1-39表　受変電設備の設置場所

	地下階設置	最上階設置	最上設置
概略図			
特徴	●一般的なロケーションである。 ●地下に熱源負荷が多い場所に適している。	●水害に対し安全である。	●水害に対し安全である。 ●屋外キュービクルとなるため、設備のコストは高くなるが、建物の総合コストは低くなる。 ●騒害に弱い。 ●屋外設置のため、設備の寿命は短い。 ●気候により保守性に影響がある。
設置上の注意点	電気室の上部・上階に配管スペース・トイレ・厨房・駐車場など、水を扱う場所・設備を設置しないように配慮する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。配線の取り出しは、屋上に専用取り出し口を設け、防水対策をはかる。
共通	搬出入のルートが必要。商面に保守スペースを設ける。		

需要家の保安上の責任分界点、並びに財産上の分界点とする。

設計者は、美観・安全性・コスト・保守性を考慮し、方式を決定しなければならない。第1-38表に示す高圧受電引き込み方式となるのは、契約電力が50 kW から2 000 kW 未満の規模の建物で、オフィスビルを前提で考えると、延べ床面積で約1 000～約40 000 m² 程度の建物となる。

地域・敷地状況により異なるが、一般的に採用される方式は、A 方式（構内柱）、または C、D 方式（無柱）である。

引き込み柱は建物の景観を損ねるため、構内柱の位置には注意が必要である。また場合によっては既設の電力柱を移動することもあるが、費用は建築主負担となる。

なお、近年の環境整備面からのニーズの高まりを受け、関係省庁間の合意のもとに昭和61年から計画的な地中化が進められているため、今後は、需要が高密度で安定している地域などに加え、都市の再開発地域や地方都市のメインストリートなどにおいても地中化引き込みが多くなるであろう。

② 受変電設備

契約電力が50 kW 以上の物件（延べ床面積500～700 m² 以上）では、電力会社からの電力の供給電圧は6.6 kV 以上となり、需要家敷地内に設置された受変電設備で照明・空調設備などの負荷で利用する電圧（200 V/100 V）に電圧を変えて電力を供給する。受変電設備を設置する電気室は、電気設備の中で最も大きなスペースをとるものの一つであり、建物の基本計画に大きな影響を及ぼす。また、建物の機能上不可欠であり、設置場所には、建築計画上十分な考慮が必要である。経済性を重視すると、大きな負荷のある場所、もしくは負荷の中心であることが望ましいが、一般的には地下または最上階付近とすることが多い。第1-39表に代表的な設置場所を示す。

屋気、水気は電気設備の絶縁を劣化させ事故

— 43 —


第6章

第6-3表　空調システム例（3）

方式	系統	特徴	評価
E 空調機＋ファンコイル方式（冷水配管）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はファンコイルで負担する。空調機の送風量はペリメーター分だけ少なくすることができるので、納まりはよい。温度制御は、ゾーニングができているためよい。商面の冬季の日射負荷対応には、ファンコイルの配管を冷水・温水の4管とする必要がある。	保守 ◎　騒音 ◎　温度制御 ◎　スペース ○ 運転 ○　コスト ○　プランとの制約 ◉　外気冷房 可

エネルギー	電気またはガス	熱源設備	屋上設置機器	方式Cと同様
熱源機械室	不要			
空調機械室	1フロア 1 000×800×1方点			
PS	ファンコイル2000×200、機械室兼用			
DS	不要			

方式	系統	特徴	評価
F 空調機＋パッケージ方式（冷水配管は外気処理用）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はウォールスルー型パッケージで負担する。ダクトサイズは、E 方式同様小さい。ゾーニングができているため、温度制御性はよい。商面の冬季日射負荷には、個別対応が可能。時間外には中央熱源を運転しなくても、パッケージで冷暖房が可能（窓面より6 m程度）。	保守 ◎　騒音 ◎　温度制御 ◉　スペース ○ 運転 ○　コスト ○　プランとの制約 ◎　外気冷房 可

エネルギー	電気・電気またはガス	熱源設備	屋上設置機器	方式Cと同様
熱源機械室	不要			
空調機械室	1フロア 1 000×800×1方点			
PS	機械室兼用			
DS	不要			

—157—

■目次

序　論　建築設計のための設備

第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備

第2章　事務所ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備〈＋ごみ処理〉／空気調和設備／電気設備／昇降機設備

第3章　商業ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備〈＋ごみ処理〉／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／貸方基準

第4章　集合住宅の設備基礎知識
給排水衛生設備〈＋ごみ処理〉／電気設備／昇降機設備／電気エネルギー設備／ガスエネルギー設備

第5章　意匠設計者による設備の打ち合わせ
現地調査／官庁打ち合わせ事項／建築主打ち合わせ事項／法規チェックリスト

第6章　事務所ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／モデルビル設備概要

第7章　商業ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備／モデルビル設備概要

第8章　建築と設備の接点
外壁，屋根／ドアガラリー／機械室／屋上，屋外／天井／DS，PS／EPS／フロアダクト／設備更新／騒音・振動の防止／住宅用メーターボックス／各種機器の納まり／配管スペース

本著書は、㈳日本建築協会機関誌「建築と社会」に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の技術情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、編集委員会で推敲を重ねました。
第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こしその解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書のお求めは、全国の書店で!!
㈳日本建築協会（〒530大阪市北区梅田1-1-3-2100TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）では、割引価格（＋送料実費）で販売しますので、本会までご注文下さい。

会告

監事並びに本部所属評議員の当選

平成８年２月28日開催の通常総会において、監事並びに本部所属の選挙を行いました結果、下記の方々が当選されました。（敬称略）

●監事（１名）

尾亀清四郎（三晃空調）

●本部所属評議員（27名）

中川　徹（清水建設）
平岡　博（大阪市計画局）
下村　健治（修成建設専門学校）
坪田　英明（近畿地方建設局）
谷口　一郎（豊國建設）
三木　敏男（サングローブ）
村上幸三郎（東芝ライテック）
大塚日出夫（淺沼組）
芝山　昭（藤木工務店）
楠　正世（戸田建設）
柴田　邦彦（間組）
吉村　昌明（安藤建設）
藤崎　安弘（奥村組）
塩脇　昭司（錢高組）
川口　順弘（竹中工務店）
金田　宏（大林組）
今西　邦夫（今西組）
阿部　文彦（東洋土建）
浅海　伸之（浅海電気）
矢野　卓生（中央電気工業）
田崎　至成（日比谷総合設備）
近藤　勉（英商会）
打垣内尚雄（東洋シヤッター）
畠山　祐治（シンコー）
藤井　英夫（大日本土木）*
任田　勉（西松建設）*
松本　浚嗣（須賀工業）*

＊は補選

名誉正会員８名が推挙される

平成８年２月28日開催の通常総会において、次の方々が名誉正会員に推挙されました。本会に対する永年のご支援、ご協力に深く感謝申し上げますとともに、ますますのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

●新名誉正会員

林野　全孝氏　岡田　利一氏
香取　禮三氏　近藤　正志氏
藤井　重信氏　八十島健二氏
山田　義行氏　中島　一氏

近代建築見学会（第５回）

旧古河邸本館と法務省赤れんが棟を訪ねる

春たけなわの週末の一日、東京に足をのばして、明治大正期の代表的な二つの近代建築を訪ねます。

一つはコンドル博士最晩年の邸宅建築として名高い旧古河虎之助邸（大正６年竣工）で、平成元年に本館の修理、庭園整備工事を終えたものです。重厚な英国カントリーハウスの構えと、内部の特色ある和座敷が見所の西洋館で、加えて大正８年に整備された広大な和洋両様式の庭園を擁しているものです。

午後は、昨年春に霞ヶ関の一角に蘇った壮大な赤れんが建築の旧法務省庁舎です。これは明治中期に建築家エンデ＆ベックマンによる官庁集中計画を基に建築されたもので、数少ないドイツ派の近代建築遺産として重要なものといわれています。

今回は特にドイツ建築に詳しい堀内正昭先生と、再生工事を担当された澤永好章氏より、再生計画の趣旨と特色について、現地で説明をしていただきます。

また、時間が許せば、丸の内にDNタワーとして再生された旧農林中央金庫ビルと、近く立て替えが伝えられている丸ビル（大正15年）も巡る予定です。

（山形政昭）



法務省赤れんが棟

旧古河邸本館



日　時　1996年4月26日(金)
　　11:00-16:00
見学先　A 旧古河邸本館及び庭園
　　B 法務省赤れんが棟
講　師　A 山形政昭/大阪芸術大学
　　助教授
　　B 堀内正昭/昭和女子大学短
　　期大学部助教授
　　B 澤永好章/建設省官庁営繕部
　　建築課営繕設計官
集　合　A 旧古河庭園正門10:45
　　＊東京都北区西ヶ原1-27-39
　　JR上中里駅下車７分
　　B 法務省赤れんが棟正門13:45
　　＊東京都千代田区霞ヶ関1-1
　　地下鉄霞ヶ関駅下車５分
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選

参加費　会員 4,000円、一般 5,000円
　　＊含、旧古河邸入館料 665円
申　込　４月15日(月)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名（近代建築見学会）
　　②氏名
　　③個人・団体会員、一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を４月16日(火)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第３ビル21階
　　FAX 348-0634　TEL 348-0633

大阪府立
門真スポーツセンター(仮称)
見学会

古の時代、この地は大阪湾の一部の〝河内湾〟と呼ばれる入江になっていました。時代と共に湾岸線も変遷し、〝潟〟から〝陸〟へと変わり、大阪湾も現在のような整った楕円になりました。
形態的には、この大阪湾の楕円(長軸：短軸＝2：1)を基本に、それを5°傾けることにより、大阪の夢を柔らかく包み込む〝楕円の船〟が〝未来〟という大海に向かって飛び立とうとする姿をイメージしています。

この施設は、平成9年の「なみはや国体」夏季大会の開・閉会会場、競泳、飛込競技会場に使用され、メインアリーナは、多目的な利用を前提にプールの床を可動することにより、冬季はアイススケート、春・秋季はフロアにしてスポーツの他イベント・コンサート会場として利用できるように計画されています。

(松田善弘)



●建築概要
所在地　門真市大字三ッ島308-1
設　計　大阪府建築部営繕室
　　昭和設計
監　理　大阪府建築部営繕室
　　大阪府建設監理協会
　　昭和設計
施　工　竹中・鴻池・淺沼・住友・東海JV
敷地面積　45,795.38㎡
建築面積　25,461.40㎡
延床面積　37,660.81㎡
構造規模　RC・S・SRC、B1・3F
構　法　パンタドーム構法
外　装　タイル打込炭素繊維強化セメント板
工　期　1993年10月～1996年3月
オープン　1996年6月(予定)

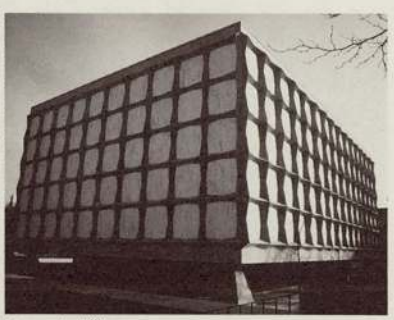
日　時　1996年4月9日(火)
　　13:30－16:30
講　師　松田善弘／昭和設計主管
　　添野建一／竹中JV総合所長
定　員　50人
　＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
　＊地下鉄鶴見緑地線「鶴見緑地」駅下車徒歩約20分
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申　込　4月2日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　①催し名(門真スポーツセンター見学会)
　②氏名
　③個人・団体会員、一般の別
　④職場・学校名
　⑤参加証郵送先
　⑥連絡先電話番号
　をお知らせ願います。
　＊参加証を4月3日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第3ビル21階　〒530
　　FAX 348-0634 TEL 348-0633

スライド・レクチャー
ぶらり海外建築見て歩き
第7回
アメリカのキャンパス

日　時　1996年4月23日(火)
　　18:30－20:30
会　場　日本建築協会サロン
　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　杉本真一/大阪芸術大学講師
定　員　30人
　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円
　(学生は半額、飲物付、税込)
申　込　4月16日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　①催し名(スライド・レクチャー)
　②氏名
　③個人・団体会員、一般の別
　④職場・学校名
　⑤参加証郵送先
　⑥連絡先電話番号
　をお知らせ願います。
　＊参加証を4月17日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第3ビル21階　〒530
　　FAX.348-0634　TEL.348-0633



プリンストン大学



イェール大学

●次回の予定
1996年5月28日(火) 18:30-20:30
「アメリカの実験都市」
アーコサンティー、サン・アントリオ、コロンバス等を紹介します。

「キャンパス」という言葉は、既に日本語としても広く使われていますが、どこから生まれた単語かご存知でしょうか。実は、アメリカのプリンストン大学から生まれた言葉なんです。今回はそのプリンストン大学を始めとするアイヴィー・リーグの大学(東海岸)やスタンフォード大学、カリフォルニア大学(西海岸)等のキャンパスの建物や学生生活を紹介します。
このスライド・レクチャーシリーズでは、スライドを使って、海外の建築及びその周辺の風物を紹介しています。大学の授業のような堅苦しい話ではなく、建築に関係のない方にも楽しんでいただけるような内容ですので、気軽に聴きに来ていただければ幸いです。

(杉本真一)

建築と社会

1996 **3** 1917年創刊 第77集／通巻888号

ARCHITECTURE AND SOCIETY

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

今月の表紙

表紙デザイン：立川悦夫

ヴィトルヴィウス著
「建築十書」イタリア語版初版

完全な形で現存する唯一の古代建築理論書「建築十書」は、1486年にローマでラテン語版が出版され、ルネッサンス期の進歩的建築家の必携書となった。後に出されたイタリア語訳（コモ版）は、ミラノ大聖堂の平面図、立面図など中世ゴシック建築の図面を載せ、最初の西洋古典建築書、また当時の科学技術の百科全書としての役割を果たし、その後の様々な版、様々な言語への翻訳の足がかりともなった。

3月号の表紙の絵には、このコモ版の図版を引用した。

表紙制作協力：関ヶ原石材

■特集予告

4月号／立体駐車場設備

5月号／災害／非常時に生きる法体系

編集委員会（平成7年度）

■副会長
金多　潔
桑袋　公明

■編集理事
青柳　司
◎荒井　清
荒巻　恭士
井上　豊
小島　雄
竹中　練一
深江　實
松村　慶三
溝神宏至朗

■編集顧問
東　孝光

■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊礒　惠幸
梅村　宏尚
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
松川　敏正
横関　真紀
※吉村　英祐
☆建築計画系
荒井　博
磯村千恵子
上杉　秀隆
※江副　敏史
荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
塚本　史郎
刃金　国男
山本　匡
☆インテリア・住宅系
石川　佳子
岡本　昭子
加藤　力
※角方　利幸
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
高橋　文吾
中村　孝之
畑　康之
福田　由利
松田　隆
山上　恭子
渡邊　秀俊
★構造分科会
太田　寛
西郷　慈師
鈴木　勝博
多田　元英
※長瀬　正
平野　富之
北條　稔郎
松本　孝弘
宮本　光則
★設備分科会
岩本登志男
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
※田ノ畑好幸
西岡　道雄
水谷　昇
村上幸三郎
横平　光伸
★施工材料分会
※有光　利治
植田　実
小椎八重猛
志水　史典
十倉　毅
野口　和宏
吉田　茂二
★法令分科会
乾　康雄
※入江田吉仁
樫田　攻
城戸　史郎
中西　孝子
水田　志郎
■作品作風小委員会
赤木　隆
小笠原絵理
小野　正人
尾崎　久純
川上比奈子
倉澤奈千子
杉原　繁
田中　均一
○富田　昌義
藤城　義丈
前川　治彦
前田　幸宏
増田　敬彦
増田　俊哉
松田　善弘
宮地雄一郎
■会員企画小委員会
伊藤　郁郎
○稲木　裕子
槽谷　浩史
毛谷村英治
小板橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野　洋
高岡　伸一
高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
増渕　昌利
松石　千秋
山寄　章子
■広告企画小委員会
池渕　俊男
上井　善一
勝　一弘
○河原　正雄
菱田信八郎
藤田　孝吉
山下　修司

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成8年3月20日
発　行　平成8年3月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1165円〕

CONTENTS

特集● 遠江—その地域振興と文化

［作　品］ 愛知県東三河総合庁舎／伏見ライフプラザ（中消防署複合庁舎） —— 28
犬山国際観光センター
岐阜県図書館／神戸町立図書館
森町文化会館
東海学園大学／浜坂町立久斗小学校／メニコン総合研究所
豊橋市民病院／石井医院・疾病予防運動施設／松坂市民病院
春日井市福祉の里レインボープラザ／サンデルタ香良洲
特別養護老人ホーム藤美苑
かめやま美術館
御園座（リニューアル）
北日本スクエア／株式会社クマヒラ名古屋ビル／東桜ビル（NEC中部ビル）
中部花王販売㈱岐阜支店／同和火災名古屋ビル
中部電力多治見営業所・電力センター
豊田自動織機製作所碧南工場事務・技術棟
サンハイツ中央台（EF）棟
岐阜ルネッサンスホテル／志摩観光ホテルグループ賢島「宝生苑」
ジヤスコ岡崎南店／マイカル桑名
NS21

［Skctch Book］ 東海の新建築6点 —— 88

［本　文］ ■遠江—地域振興の施設づくりと文化
遠州の風土・気風と文化 ● 鈴木正之 —— 90
浜松市の都市づくりの展望 ● 金子治夫 —— 94
浜松らしい都市文化の創造 ● 金子治夫 —— 96
■遠江—地域の作品紹介
アクトシティ浜松の施設概要 ● 山下堅司 —— 98
アクトシティ浜松の運営と今後の展開 ● 山下堅司 —— 100
アクトシティ浜松の設計にあたって ● 米川龍夫 —— 102
浜松市楽器博物館 ● 佐藤　剛 —— 104
フォルテビル ● 浜松都市開発㈱ —— 106
フォルテの設計にあたって ● 原田鎮郎 —— 108
施設利用体験記—フォルテホール— ● 上保節子 —— 110
旬の味・採れたてバザール—フォルテにて— ● 黒柳康江 —— 111
NTSシステム総合研究所の設計について ● 水谷碩之 —— 112
ひとと自然が調和する静岡ファクトリー ● 横山研介 —— 116
ロック・フィールド静岡ファクトリー ● 安藤忠雄建築研究所 —— 118
■東海4県建築MAPと掲載作品概要一覧 —— 120

会告　監事並びに本部所属評議員の当選．名誉正会員8名が推挙される．1
近代建築見学会（5）旧古河邸本館と法務省赤れんが棟を訪ねる．
大阪府立門真スポーツセンター（仮称）見学会．スライド・レクチャー（7）アメリカのキャンパス．

作品作風　大阪市環境事業局八尾工場
ホテルグランヴィア岡山　4

gallery　Self Interview（小山隆治）● 川上比奈子　8

ブックステーション　短評4題 ● 伊藤郁郎・稲木裕子　10

法令コーナー　建築物の耐震改修の促進に関する法律 ● 岩城和喜　11

W　Watching（14）都市の風景：Osaka Jurassic Park ● 糟谷浩史　12

大先輩に聞く　富安秀雄 ● 佐野　洋・高田光雄　14

GBRCニュース　神戸市内で工事用材料試験を始めます—4月に神戸試験室開設　17

建築の眼　ベルリンの樹 ● 鈴木良介．まちづくり協議会方式 ● 垂水英司．18
心にしみる塔 ● 瀬戸本淳．外壁を美しく保つために ● 田中正司．

座談会　支部活動への期待とその展望　19
市川　宏（会長）／岡本行善（副会長）／三品哲夫（副会長）／井手正己（京都支部）
古林敏郎（中国支部）／雑賀幹央（和歌山支部）／森口雅文（東海支部）
小宮三辰（東海支部）／野上淳二（常務理事）／林　金之—司会—

構造の頁　超微粉末混和材を用いた高流動コンクリート ● 梶山　毅・平　弘毅　123

設備の頁　香りと空気質 ● 梶井宏修　124

information　『ル・コルビュジエ—水の記憶—』展．125
『自然の素材を生かす生活のかたち』—HRフォーラム"WAZA（和座）"—．
旧朝鮮総督府庁舎保存・再生を．'96建築専門学校卒業設計作品展示会．
中之島の中央公会堂保存・再生、設計者決まる．堺市、5月1日に新用途地域を施行．
平成7年度「ひろしま街づくりデザイン賞」表彰作品・活動．第27回中部建築賞入賞作品8点．

月報　平成8年1月分　127

管理棟・東面外観



全景・右側旧工場

作品風

設計監理 ■
大阪市都市整備局営繕部
東畑建築事務所

施工 ■
熊谷組・錢高組JV

大阪市環境事業局八尾工場

当工場は、大阪市と八尾市の行政協定に基づき、八尾市内に大阪市が建設・運営し、両市のごみを焼却処理する施設で、1966年に建設され老朽化した旧工場を、21世紀に向けた最新鋭の「環境にやさしく、公害の無い、市民に親しまれる工場」をめざして建て替えられたものです。

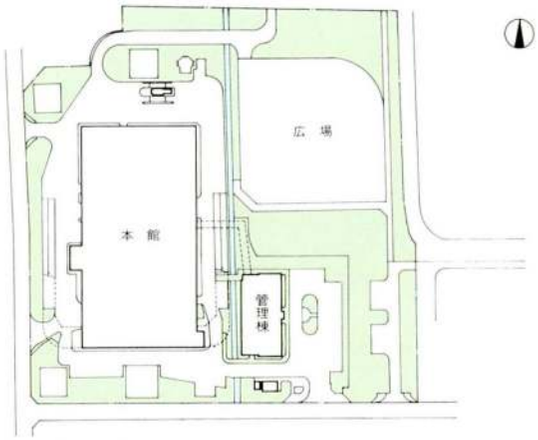
配置計画では、南および西側の道路から工場棟を離して充分な緩衝緑地を設け、景観に潤いをもたせるようにしました。

外観は、あまりにも巨大となる工場棟のボリュームを、持ち出しとなっている見学廊下と横連窓による水平ライン、マスの組み合わせおよび曲面などで和らげるとともに、旧工場跡地の広場に面する東面の巨大な防音壁には四季折々の金剛連山を映し出すミラーを設け、親しみと楽しさを演出し、配置計画と合わせて周辺環境との調和を図りました。

内部は、機能的で安全、快適、清潔な作業環境と見学ルートの整備を図り、特に防災・避難面の充実と、換気、防音、防臭に充分な配慮をしました。

玄関ホールの陶壁面「かけがえのない地球」は、「環境を守る」という環境事業が全人類の今日的テーマ「地球環境を守る」に結びついていることを、気象衛星から見た宇宙に浮かぶ美しい地球によって表現したものです。

(尾崎光彦／東畑建築事務所)



配置図 1:4000

所在地 ——— 大阪府八尾市上尾町7-1-1
敷地面積 ——— 43,646.00㎡
建築面積 ——— 9,777.24㎡
延床面積 ——— 24,674.23㎡
構造規模 ——— SRC、RC、S、B3F、7F、PI
工　　期 ——— 平成3年12月～平成7年3月
最寄駅 ——— 近畿日本鉄道・河内山本駅
撮　　影 ——— 島　修一・伸和



1階玄関ホール



東面外観

▼外観ディテール



外観



メインロビー

作品
作風

設計監理 ■
西日本旅客鉄道・日建設計

施工 ■
鹿島建設・広成建設・大本組・間組JV

ホテルグランヴィア岡山

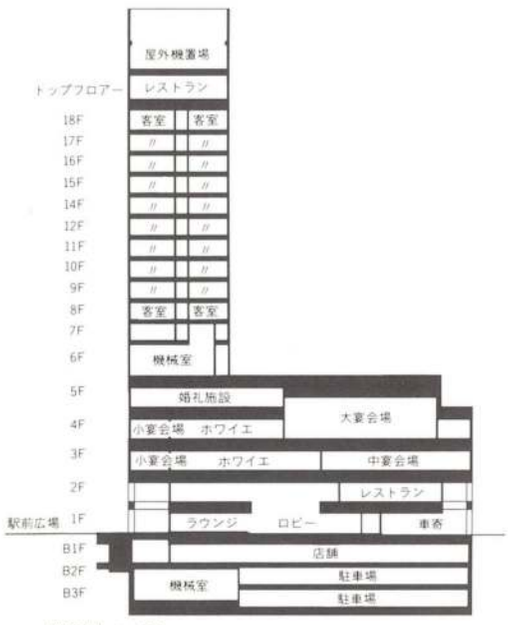
岡山駅前広場の土地区画整理事業に伴い、岡山ターミナルホテルが建て替えられ、「ホテルグランヴィア岡山」として昨年春にオープンした。敷地はJR岡山駅前で、旧岡山ターミナルホテルの後背隣接地である。本建物竣工後に旧ホテルは取り壊され、駅前広場の拡張が進んでいる。最終的には新しいホテルが、整備された新駅前広場の正面に位置することとなる。

328室の客室数、34㎡の客室面積(TW)、1000㎡の大宴会場、83mの最高高さ等、岡山一の規模をもつホテルとなるとともに、グレードについても旧来のビジネスホテルから中国地方一のシティホテルへと生まれ変わることを目指している。

巾広い客層をターゲットとしているため、オーソドックスで飽きのこないデザインを目指し個性的であるよりも落ち着きと品格のあるスタイルとなることを心掛けた。

駅前広場側は、1～2階部分を全面セットバックしたピロティ空間とし、外装も人々の集まる1～2階部分に質感のある大型割肌タイルを使用するとともに、植込み、照明器具等の計画に力点をおき、アメニティを高めている。

(宮川　浩／日建設計)



断面図　1:1200

所 在 地 ——— 岡山市駅元町1番5号
敷地面積 ——— 5,895.00㎡
建築面積 ——— 4,033.20㎡
延床面積 ——— 42,070.10㎡
構造規模 ——— S、SRC、B3F、19F、PI
工　　期 ——— 1993年10月～1995年1月
最 寄 駅 ——— JR岡山駅下車徒歩1分
撮　　影 ——— 登　宏太郎



トップラウンジ



客室（ツイン）

▼中宴会場



gallery

SELFINTERVIEW
PROJECT NO.4.5.6.7.8

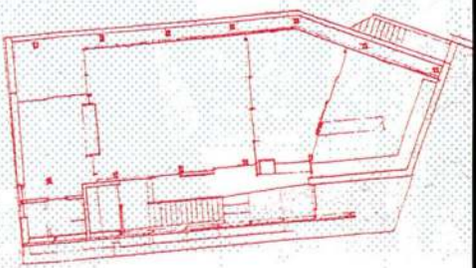
設計
小山　隆治

「人は資質としてリビドー的快楽を求める」といった人がいる。これは必然以外なにものでもない。
さまざまなイデア論はあまり語られなくなった。それはあまりに難しくなった現在があるからだ。
つまり情報という被膜の厚さをより分けている間に、人は惑わされてしまうからだ。それよりは、ビジョンとしての思考に頼る解釈らしき理由づけをしている方が容易い。
時には創り上げたドグマチズムとさえ感じるが、そのような話を人はそう長くは聞いていないだろう。
全てを認めなければならない。歴史も現在も技術も個人も。未来を予測することは条件にはないのだ。
現在の生命体は、それらをより弱くピアニッシモに奏でる旋律を聴くがごとく肉体に感じている。
私は、それらの旋律が新たな技術と絡められ、吟味された混成として、又は排泄するかのごとく消化することにより未来に隔世し、真の快楽を形成することを期待している。

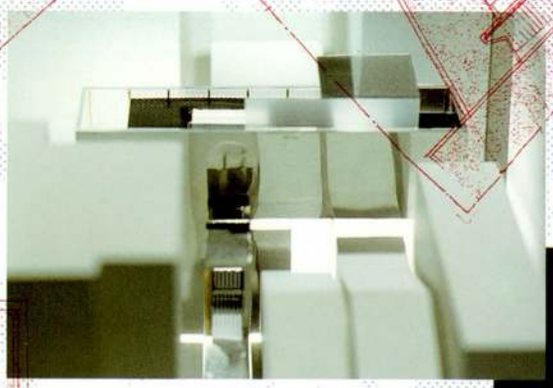




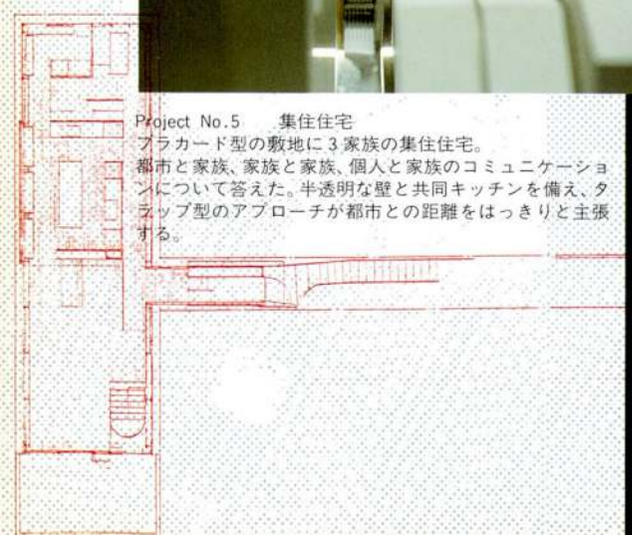
Project No.4　RH-2,RH-3
借家として構成される概念。
そのテイストを、建物と外部との関係のみを操作して変えることにより、自由に位置づけることをもくろんだ。
RH-2は、斜面に差し込まれた2枚のスラブを地盤と考え、住居としてのテリトリーを開放しつつ外部を積極に取り入れる。木造で組まれた大屋根の下には、サッシが任意とも思える様に取り巻き、ファサードにはスクリーンとしての壁を介して時空の表情をもたらす。
RH-3は、生活する領域を丘を切り取る壁と屋根により包み込み、闇を創り出す。中心に設かれたパティオからの光で内側から闇を照らす。壁沿いに配されたトップライトは、存在の啓示と癒しを暗示する。

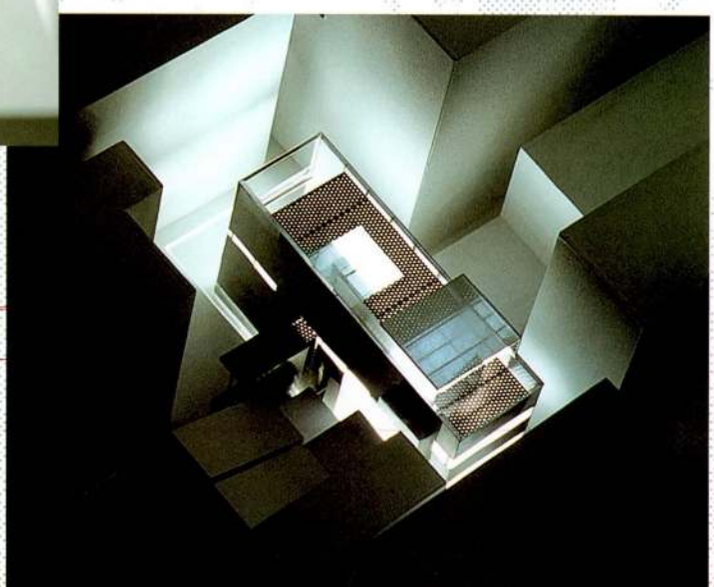


小山（こやま）　隆治（たかはる）
1963　兵庫県生まれ
1985　無有建築工房
1992　小山隆治建築研究所設立



Project No.5　集住住宅
プラカード型の敷地に3家族の集住住宅。
都市と家族、家族と家族、個人と家族のコミュニケーションについて答えた。半透明な壁と共同キッチンを備え、タラップ型のアプローチが都市との距離をはっきりと主張する。

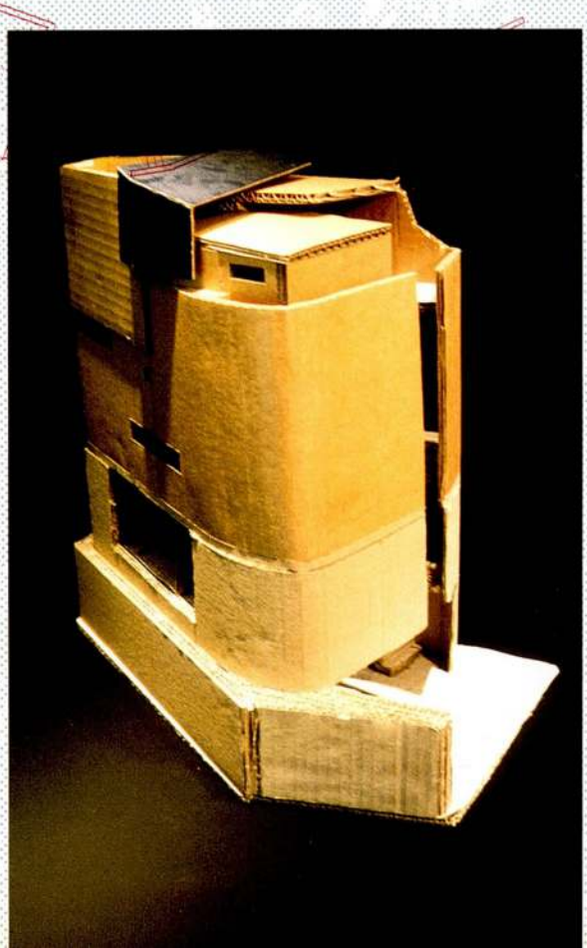






Project No.7　無菌住宅
基準（常識）この曖昧なモノを打ち破るため、必要と許容という単なる判断行為により必要になった単位を再成、構築する。この場合、これまでのプランのヒエラルキーは、概念として中心を持たなくなり、必要にいたった必然のみが建築を形作る。平面的に中心となる家族室と称された場所では、「心身の代謝」を考え、「憩う」ということをも代謝と捉えて同質に包摂するために無菌な空間とした。

Project No.6　カクセイ住宅
マンションの間にあるこの住宅は、寝るためだけに作られた小さな部屋が2つ、入れ子構造となって居間の上部に浮かぶ。V型に差し込まれた窓は、触れる人間に自然との親近感を与える。最小限に留められた条件は、最大の可能性を引き出し、住む者の感覚を覚醒させる。ここで育まれる小さな命は、その建物からの働きかけにより、本来の身体性を隔世されるだろう。



Project No.8　未完の住宅
「建物が敷地に内在化する」こんな言葉は果して形態化するか。各床は、生活に必要な単位として、平面的にも断面的にも一番相応しい場所を選んで置かれる。床は敷地からのなめらかなスロープによって繋げ、屋根は「覆うもの」と考える。単位と単位との狭間から垣間みる敷地（外部）が、直接的に内部に届く様試みた。



BOOK STATION
ブック・ステーション

タイプ別に見る
暮らしの収納法
●場所別編●
林　葉子 著

評伝社
1995.5.8刊
B6判　175頁　1,500円



住宅の収納に関する本は、数多くあるが、どうも似たり寄ったりのようである。隙間を見つけては収納を押し込んでみたり、チマチマした改装で納めてみたりと、専門家から見ると、耐え難い方法が多いように思う。そのような中にあって、本書は、住宅設計を数多く手がけてきた著者が、施主からの相談や体験をもとに生み出した収納の工夫やアイデアで満載である。収納のタイプを「ため込み型」と「捨て型」に分けそれぞれのタイプ別に収納法を提案している点が画期的である。イラストも豊富で、これなら設計段階からの収納の提案に使えそうである。読者対象はあくまでも一般向けだが、建ててからも美しく住んでいただくには、造る側も本書をもって先手を打つ必要があろう。　(Y.I)

街の色・壁の色へのアプローチ
街の色研究会・京都'95年報
街の色研究会・京都 編集

街の色研究会・京都
1995.10.7刊
A4判　119頁　無料



「はじめに」として「街の色研究会・京都」も発足してから早くも4年が過ぎようとしています。この冊子は、先年来の「景観色彩」、「瓦の色」につづく3冊目の年報です。この年報はこの1年間取り組んでまいりました「壁の色」に関する講演、国際フォーラム、調査研究や会員からの寄稿、さらに創造的芸術活動とも言える東山高台寺夜景の照明演出に係わる報告のほか、会の活動報告記事からなっています」とある。京都の街の色・色彩を様々な角度から取りあげ調査・研究する中で、京都の街の姿のありよう・景観の問題を認識し考え、その成果を広く市民に広めていこうとして、様々な職業・立場の人々が参加し、学び、活動している会の姿が読み取れる。京都らしさを守り、或いは取り戻すための「景観照明」「景観色彩」という切り口は魅力的であり、報告のすべてが興味をひく内容である。　(I.I)

建築の歴史
ジャン＝シャルル・モルウ 著
藤本康雄 訳

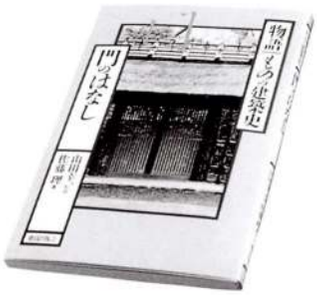
白水社
1995.10.30刊
B6変判　136頁　980円



本書は、建築の歴史を今までのように、建物の記述や年代が主体となるような建築史ではなく、いかなる方法で人間が、重力という力に対抗して建物を造ってきたか、そしてどのような構法を編み出していったか、次いで、時代や場所や文明によって、建物の機構や構成がどのように変えられ、どのように環境に適合していったかという切り口で、建築の歴史を語っている。さらにそこから、建築を〝美の表出においてものを建てる芸術である〟ということが考察されている。フランスのクセジュ文庫の一つであるが、日本建築についても触れられている点が興味深い。何より、B6判という手軽さで、世界の建築の歴史が手軽に読めるのも楽しい。ただ、〝切り口〟の関係から、写真の図版が少ないのが残念であるが…。　(Y.I)

物語ものの建築史
門のはなし
山田幸一 監修
佐藤　理 著

鹿島出版会
1995.12.25刊
B6判　118頁　1,399円



このシリーズは日本の風土に密着して長い歴史の中で育まれてきた日本建築の各部位や材料のルーツ・変遷をありのまま記述しようとするものである。対象は日常生活でなじみの深いものばかりであり、これまで日本壁、建具、台所、便所、屋根、畳、風呂、窓、床の間、和瓦をとりあげてきた。平成4年に亡くなられた故山田幸一氏の監修のもと、シリーズ各冊の執筆者は多岐に亘る。今回は、住まいの顔といわれる門について、門の語源・歴史をはじめ門に関する種々の話をまとめたものである。「このシリーズの内容はあくまで歴史に重点をおいており、ここであえて将来の建築のあるべき姿を描くなどといった大それに野心はない。しかし優れた伝統への憧憬は必ず実りある未来を開拓するであろう」と山田氏が言うように、日本建築のよき伝統への理解は、これからの建築を考える上で、必ずやよき指針となるに違いない。　(I.I)

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・稲木裕子

法令コーナー

301 建築物の耐震改修の促進に関する法律

法律制定の背景

平成７年１月に発生した阪神・淡路大震災では建築物に多数の被害が生じ、多くの尊い人命が失われた。建築物の被害原因の究明と対策のため建築震災調査委員会が設置され、平成７年７月には中間報告が出された。これによると、特に昭和56年以前に建築された、現行の耐震基準を満たさない建築物の被害が顕著に見られ、一方、現行の耐震基準による建築物には被害が少なく、現行の耐震基準は一部の構造形式を除いて、おおむね妥当であるとされた。

このため、現行耐震基準を満たさない建築物の耐震診断・改修が重要な課題であり、これを推進するために、建築基準法の特別措置や金融上の支援措置を含む法的な枠組みの整備が必要であると考えられ、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が平成７年10月27日に公布、12月25日から施行された。また、法律施行のために、本法に関する施行令、施行規則、告示が定められ、同様に12月25日から施行された。

なお、現行耐震基準の一部見直しとして、鉄骨造の柱脚部についての安全性の確保、ピロティ形式等の建築物についての安全性の確保のために告示の改正が行われている。（昭和55年告示1791号、1792号の改正）

法律の概要

(1) 特定建築物に係る措置

❶特定建築物の所有者の努力義務（法第２条、令第１条）

法で規定された学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所と、施行令で規定のボーリング場、診療所、映画館、公会堂、卸売市場、ホテル等多数の者が利用する階数が３以上で、かつ、床面積の合計が1,000m²以上の建築物で、耐震関係規定について建築基準法上の既存不適格建築物であるもの（以下「特定建築物」という）の所有者は、耐震診断を行い、必要に応じて耐震改修を行うよう努めなければならないこととしている。

これらの建築物は、所有者以外の多数の者が利用するため、建築物の耐震性の確保について所有者に社会的責任があると考えられるからである。

※i) 耐震改修とは、地震に対する安全性の向上を目的とした増築、改築、修繕、模様替をいう。
※ii) 分譲共同住宅は、利用者が基本的に建築物の所有者のみのため、特定建築物とはならない。
※iii) 複合用途建築物については、建築物全体が規定の規模以上であり、規定の用途が過半を占める場合に特定建築物となる。（指示対象建築物の場合も同じ）

❷建設大臣による耐震診断及び耐震改修の指針の策定・公表（法第３条）

建設大臣は、耐震診断及び耐震改修の指針を定め、これを公表することとしている。

具体的には、建設省告示第2089号として指針が定められている。この指針の考え方は、㈶日本建築防災協会から出ている鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・耐震改修設計指針と同様である。

※i) 告示は第２次診断、第３次診断に基づくが、第１次診断も大臣認定された。（平成８年３月12日付通達）
※ii) 鉄骨造建築物については、指針の考え方に基づく基準書を作成中であり、指針の運用はその刊行後となる。

❸所管行政庁による指導及び助言（法第４条第１項、令第２条）

所管行政庁（建築主事を置く市町村の長または都道府県知事のことで、建築基準法上の特定行政庁と同じ）は、特定建築物の耐震診断及び耐震改修について必要な指導及び助言をすることができることとしている。

❹不特定多数の者が利用する特定建築物に対する措置（法第４条第２項、令第３条）

所管行政庁は、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店等不特定多数の者が利用する特定建築物（当然、階数は３以上）のうち床面積の合計が2,000m²以上のものについて、必要な耐震診断または耐震改修が行われていないと認めるときは、当該特定建築物の所有者に対し、必要な指示をすることができることとしている。

特定建築物の中でも不特定かつ多数の者が利用するものについては、公共的な性格が強く、それらの利用者の安全性を確保する社会的要請が特に強いと考えられるので、指示、つまり、個々の事例に応じて具体的な指摘を行い、適切な耐震診断または耐震改修を行うよう求めることができる。

(2) 住宅をはじめとする建築物全般に対する措置

❶耐震改修の計画の認定（法第５条、規則第２条・第３条）

建築物の耐震改修をしようとする者は、建築物の耐震改修の計画について所管行政庁に認定を申請することができ、所管行政庁は、当該計画が耐震関係規定等に適合していると認めるときは、認定をすることができることとしている。

イ．耐震関係規定に準ずるものとして建設大臣が定める基準（法第５条第３項第１号・第６項、規則第２条第２項）

建設省告示第2090号で、特定建築物の耐震診断及び耐震改修に関する指針による耐震診断を行い、地震に対して安全な構造であるということが確かめられた場合は、現行の耐震規定について適合しない部分があった場合でも、計画の認定ができることとし、また、耐震関係規定について既存不適格建築物であるものが計画の認定を受けたものは、工事後も引き続き既存不適格建築物として取り扱うこととしている。

❷計画の認定を受けた建築物についての建築基準法の特例

イ．既存不適格建築物の制限の緩和（法第５条第３項第３号・第６項、規則第２条第３項）

耐震関係規定以外の不適格部分を含む既存不適格建築物について、耐震性の向上のために必要と認められる増築（ピロティ部分等に壁を設ける場合に限られる）、大規模の修繕または大規模の模様替をしようとする場合には、建築基準法第３条第３項第３号及び第４号の規定にかかわらず、工事後も引き続き既存不適格建築物として取り扱うこととしている。

※この場合、改築は認められない。

ロ．耐火建築物に係る制限の緩和（法第５条第３項第４号・第７項、規則第２条第４項・第５条）

耐震性向上のために耐火建築物に壁を設け、または柱の模様替を行う結果、耐火建築物に係る規定に適合しないこととなる場合において、火災の早期覚知のための措置を講ずること等、一定の条件を満たすときは、当該規定は適用しないこととしている。

ハ．建築確認の特例（法第５条第４項・第８項、規則第２条第５項）

計画の認定をもって建築確認または適合通知があったものとみなし、建築基準法の手続きを簡素化することとしている。

❸住宅金融公庫の資金の貸付けの特例（法第10条、令第５条）

計画の認定を受けて住宅の耐震改修を行う者に対する住宅金融公庫の貸付金の利率は、新築の場合と同様の基準金利（貸付から10年以内につき年5.5%以内で政令で定める率、平成７年12月25日の時点において年3.1%）とすることとしている。

※住宅以外の建築物については、日本開発銀行等の政府系金融機関の長期低利融資制度が設けられている。

(3) 罰則（法第14条～第16条）

特定建築物の耐震改修は、あくまで所有者の努力義務であるが、法第４条第３項の報告徴収及び立入検査、法第７条の報告徴収を適切に実施するため罰則を設けている。

大阪市既存民間建築物耐震診断費補助制度

大阪市では、住宅等の既存民間建築物の耐震診断・改修を促進するため、耐震診断費用の一部を補助する制度を平成７年12月１日から㈶大阪建築防災センターを窓口に実施している。

岩城和喜 大阪市計画局建築指導部審査課構造強度係長

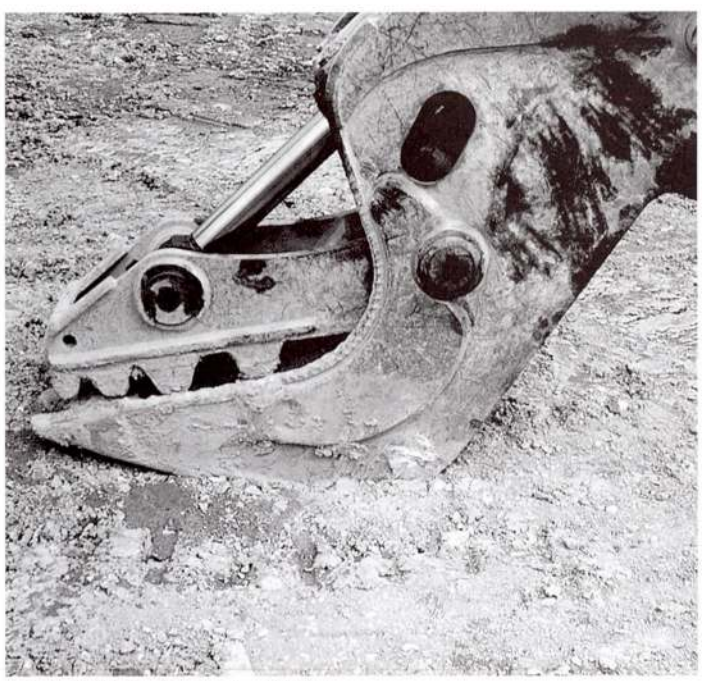


1. ミナミミッティラノザウルス

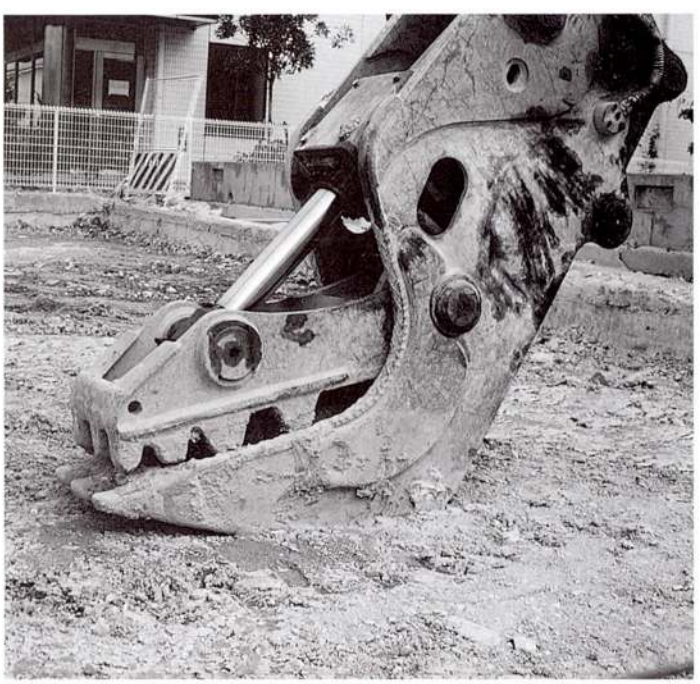


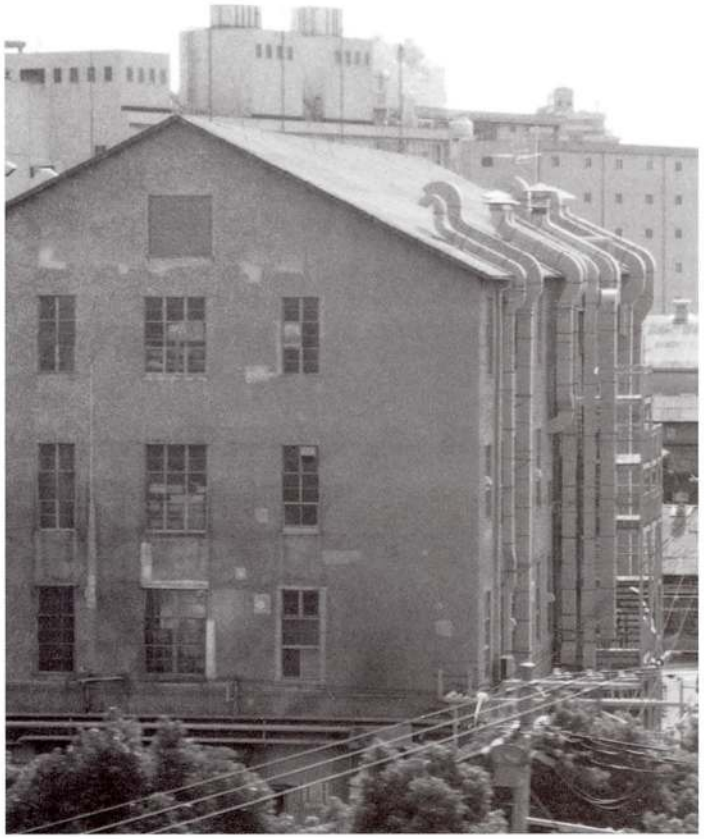
3. 発掘された3羽のムカシクジャク

Osaka Jurassic Park



2. ひと息入れるスーパーフッコーザウルス







4.工場を襲うモンスタースネークの群れ

姿を変えて生き残る古代動物



5.梁を支える化石ワシ





6.岩をも砕くプテラノドンドン



企画／会員企画小委員会　Director/H.KASUTANI

大先輩に聞く

富安　秀雄



おいたち

昭和３年、５人兄弟の末っ子として長崎県に生まれました。幼い頃、家は東京の浅草や上野といった下町に移り、饅頭屋や食堂を経営していまして、私は繁華街のまん中で育ちました。その頃、私はよく店に出て子供好きなお客さんの所へいってはいろんな話を聞いたり、当時町に沢山いたルンペンの叔父さん—中にはとても教養の高いルンペンがいるんですよ！(笑い)—から世界中の面白い話を聞いたりしました。きっと当時は人見知りをしないとてもおませな子供だったんでしょう。幼い頃にそうやって色々な人から話を聞いた経験が今の仕事に大変に役にたっているように思います。

小さい頃は体が弱く、すぐ扁桃腺が腫れて学校を休むこともしばしばでした。身長もクラスで一番低く、気の弱いおとなしい子供だったのですが、そんな私が肉体的にも性格的にも人間が大きく変わったのは15歳頃だったと思います。それまで低かった身長もぐんぐん伸び、快活な性格に変わっていきました。

小学校は東京中野区の新井小学校、中学は立川市の府立２中(現在の立川高校)を経て、中学４年生の時海軍兵学校を受験し入学しました。

私は水泳が得意なのですが、水泳は海軍に入ってから覚えました。子供の頃、水の中に石を投げて潜って取ってくる遊びをやっていましたが、息継ぎができず泳ぐことはできませんでした。海軍では、実に合理的でシステマチックに泳ぎ方を教えてもらいました。最初、お風呂でバタ足をして、それから50mの海水プールで練習します。そして50mが泳げるようになったら、いきなり海に出て何キロも先の潜水艦まで泳がされました。でも不思議とそれが泳げるんですね。昭和21年武蔵高校に入学しました。水泳部でインターカレッジに参加、古橋、橋爪といった大選手と一緒に自由形長距離競技に出ました。タイムは彼らに遠く及びませんでしたが、私の青春時代の思い出です。

学生時代のこと

幼い頃から絵を描くことが好きだったので、大学は美術学校に行こうと思っていました。しかし、兄が戦死し、父も戦後すぐ他界した。母や姉の生活の面倒を私がみることになると思い、絵の道に進むことを諦めました。そんな時に、兄の友人に建築の方面への進学を勧められ、建築の道へ足を踏み入れることになりました。

昭和26年東京大学工学部分校建築学科に入学しました。この工学部分校は今の生産技術研究所(その前は第二工学部)です。私は第二工学部の最終卒業生ということになります。その当時、建築学科には小野薫先生、坪井善勝先生や浜口隆一先生、関野克先生らがいらっしゃいました。

浜口先生は西洋建築史を、関野先生は日本建築史を教えておられました。浜口先生は好奇心旺盛でとてもおもしろい方で、西洋建築史を人間の歴史から紐解いて説明されました。分校の先生はフランクな方が多く、それが第二工学部の校風なのかもしれません。

外部の非常勤講師では、小坂秀雄先生や前川国男先生に設計演習を教わりました。

また、ちょうどその頃は最小限住宅などの研究が盛んな時期で、池辺陽先生が熱心に住宅の研究に取り組んでいらっしゃいました。

学生時代の思い出に、構造の坪井先生には怒られたエピソードがあります。私は歴史が大好きだったのですが、数学は大嫌いで、数学の授業を受けずにその時間、数人でヌードデッサンをしていました。ところがその内、数学を受けていた生徒が授業をさぼって私のヌードデッサンの方に来るようになり、そのことが知れて構造の坪井先生にきつく怒られたことがあります。でも何故か小野薫先生には可愛がってもらいました。

入学してしばらくした頃、小野先生から自分の好きな建築について論述する課題が出された時、ちょうど戸山原で公営住宅が出来てきた頃でしたので、私は白い４階建てのバルコニーのある集合住宅

を取り上げて、社会的な平等感や群としての建築の美しさについて書きました。他の学生はル・コルビュジェなどの有名建築家の作品を題材にしていたのに、私一人だけが建築的にあまり評価が高くない公共集合住宅を取り上げたものですから小野先生に、「建築の学生の中にも、変わったやつが出てきたものだな。」と言われました。しかし、その時はまさか自分が将来、公共住宅の仕事にかかわることになるなどとは夢にも思っていませんでした。

入社当時の思い出

私は学生の頃、就職するなら前川先生の事務所がいいなと思っていました。ある日、市浦健さんが小野先生の所に学生の求人の相談にこられ、その時先生が私の名前を出されたのがきっかけで、市浦建築設計事務所に入社することになりました。ところが、私が入社する直前に市浦事務所は解散し、30人いた所員が7人になってしまいました。私はその7人の市浦建築設計(現在の市浦都市開発建築コンサルタンツ)に入社したのです。当時市浦事務所は米軍の宿舎の仕事が多かったのですが、おそらく講和条約が出て、米軍の仕事が激減したことが解散した背景にあったのではないかと思います。

その頃は、学生運動が盛んな時期で、私も学生運動に参加したこともあって米軍の仕事をすることに抵抗がありました。入社当時、生意気にも市浦さんに「これからうちの事務所は住宅でいってはどうですか」と言いますと、市浦さんもわたしの意見に賛成して下さいました。そんなこともあって私は公営住宅の標準設計を担当するようになりました。

住宅設計について

私が最初に手伝った仕事に公営住宅の標準設計54C型(スターハウス)があります。つい先日開かれた三つの公立美術館を巡回した「戦後文化の軌跡」展(1945～95)の展示にこのスターハウスが選ばれまして、当時の古い資料を貸してあげました。当初、公営住宅は2DKの12坪、風呂なしが標準だったのですが、日本住宅公団はこれを基に2DKの13坪、風呂付きで設計しました。55-4P-2DK(通称ポイントハウス)と言われていたものがそれです。

当時は、公営住宅の使い方をプランに反映させようと各大学の研究室を中心に使われ方調査が盛んに行われ、私達も吉武泰水先生、鈴木成文先生たちといっしょに公営住宅の調査や研究に取り組みました。この時代は、公営住宅の設計に研究の成果が直結していた時代でした。ところが、20年程前から実態調査に基づく設計のやり方について批判がされたのを機に、最近ではほとんど住まい方調査が行われなくなってしまいました。しかし、私はこれはおかしいと思います。近頃、様々な高齢者住宅の提案がされていますが、その後の系統的な実態調査がされていないために、作られたものの何処に問題があるのかわからないままになっています。そういう意味で、もう少し実態調査がされてもいいのではないでしょうか。

ニュータウン計画について

住宅団地の計画としては、名古屋の千種台が私の最初の仕事でした。これが私のニュータウン計画の原点とも言えます。この計画では、丘の上に、地形を残しながらスターハウスを6棟配置したのですが、その評判がなかなか良く、自分にはこういう仕事が向いていると思い、以来、ニュータウン開発の仕事を手掛けるようになりました。その時、造成はオオバが実施計画を担当したのですが、私もいっしょになって造成計画の作業を行い、造成のノウハウを勉強しました。これは余談ですが、その千種台の仕事が終わって設計料を貰いにいった帰り、列車の中で偶然隣の席に座っていた女性が今の家内です。

昭和33年に、東京で住宅公団の万世橋の高層足貸し住宅を設計しました。当時建築設計監理協会(今の新日本建築家協会)が、建設省の委託で「高層アパート研究」を行っていて、鈴木成文先生、岡田新一氏、久米事務所の是枝慶一氏や私などが、建設省の澤田光英氏や前田勇氏などと、今後日本でもとめられる高層住宅の調査、研究をしていたのですが、万世橋は、この成果を反映しています。晴海の高層住宅の、一寸あとに完成しました。

また、イランの住宅調査団の一員として昭和33年イランで調査をしました。当時、イランのパーレビ国王が日本に来て、多摩平の開発を見てイランの住宅開発に丁度良いと感じられて日本が住宅地開発に協力することになりました。聞いた話では、日本を手本にした理由は、アメリカやヨーロッパの住宅地開発の水準は進み過ぎていてイランの情勢にあわないが、日本の水準はそこまで進んでおらず手本にするのに丁度手頃だったからだそうです。褒められているのやらなにやら少し複雑な心境でしたが。

昭和36年の夏から千里ニュータウンの仕事が始まりました。私が大阪入りした最初の夜はなんと釜が崎騒動の最初の日だったのですが、私はそんなことも何も知らずに釜が崎に泊まってしまいました。夜中になっても外が随分騒がしいので、「大阪という所は賑やかな所なんだな」と勝手に思って、翌日、大阪府の人にその話をしますと、「よくそんな時にそんな所に泊まりましたねぇ」と言われ、後になってびっくりしたという思い出があります。

私は千里ニュータウンの西半分を基本計画から基本設計まで担当しましたが、基本構想の段階からタッチしたものとしては、泉北ニュータウンが最初です。学会でも絹谷祐規先生が基本構想の検討をされていましたが、オランダで交通事故にあわれ他界されました。昭和40年の初めのことです。



蘇州寒山寺付近の風景（絵：富安秀雄）

昭和37年にはカナダに渡り仕事をしました。当時、カナダからは大量に木材を輸入しているのに、日本人がカナダで仕事ができないのはおかしいと、日本人への労働市場の開放が問題になっていました。

やがてカナダの移民法が変わり、日本人にもワーキングビザが出るようになりました。カナダの建築界が、一人の日本人を受け入れることになり、日本では、設計監理協会が窓口になって、希望者を募りました。試験には計画能力と、語学の二つがありました。計画の試験官は市浦さんや、松田平田事務所の松田氏などがおられました。実は当時市浦さんは設監協会の理事で、「うちの事務所から誰も手を上げないのは具合が悪い」と、私に応募させたのです。英語の試験は事情があって、突然東京で行われましたが、応募者の中で大阪にいた私だけが、その日受験できず、後日一人だけ試験されました。カナダ大使館で行われた英語の面接の試験官は、何と私の知人であり、緊張することもなく、日常会話支障なしと判定され、運よく私が選ばれました。そんな訳で私は他分野の２～３人の方と共にワーキングビザの第一号になりカナダで働くこととなったのです。当時、カナダはニュータウン建設の全盛期で、私はカナダの設計事務所で約一年半働きました。その後、スウェーデンに渡り仕事をしたのですが、家内が足にケガをしたこともあって三ヶ月で日本に帰ってきました。

昭和38年から39年にかけて、日本ではまだ車が少なく歩車分離の考え方がなかった頃、私はカナダ・スウェーデンでの経験を生かし、日本で初めてニュータウン全域を結ぶペデストリアン網を計画しました。大阪府の五百蔵氏が私の考え方に賛同し、その支持によって、計画を実現することができました。

私がニュータウン開発の仕事を始めた頃は、丘陵地の開発は、ブルドーザーを使って丘を平坦にして、売れる宅地を沢山つくることが常識化していました。しかし、私が計画した泉北ニュータウンをベースにした多摩ニュータウンの西部地区では30％を緑地として確保しています。大阪府の五百蔵氏が住宅地の自然環境をつくることに熱心であったことや、当時の美濃部東京都知事が多摩ニュータウンの建設に批判的で自然を残せ、といったことも自然が残った大きな要因だと言えます。また、厚木の森の里は、某銀行が長年開発を検討していて、調整区域の解除のための条件があまりにも厳しかったために、開発を諦め、宅地開発公団が土地を買い受けて開発を行いましたが、緑地を随分残した開発です。

このように、ニュータウン開発の潮流もその時代の要請を受けながら徐々に進歩してきていると思います。

若い人へのメッセージ

好きなこと、好きな仕事をやるべきだと思います。好きな事を続けていると必ず世の中の役に立つし、しあわせに暮せます。周囲の条件に振り回されることなく、自分の好きなものを見つけて、それを続けていって欲しいと思います。

特技

大学時代から大きなノートに人の話を書くようにしていたのですが、一緒に仕事をした役所の人が丁寧にメモを取るのを見てから、一層しっかりとメモを取るようになりました。重要な事を洩らさずに完全に書けるようになったのはここ10年ぐらいのことかと思います。

趣味

幼い頃から絵を描くのが好きで、クレヨンで襖一面に絵を描いて父に注意されたことがあります。今でも時々時間を見つけては絵を描いています。

文責：佐野　洋（編集委員／日本設計）・高田光雄（編集委員／京都大学）

とみやす　ひでお

1928　長崎県にて生まれる
1954　東京大学工学部分校建築学科卒業
1954　市浦建築設計事務所（現在の市浦都市開発建築コンサルタンツ入社）
1961　大阪事務所開設に当り事務所長となる。1981年社長となって後も1986年まで兼職。
1993　代表取締役会長となる。

1961年以降の主な業務歴（ニュータウンをN.T.と記す）
千里N.T.、泉北N.T.、多摩N.T.西部地域、成田N.T.、原木N.T.、平城相楽N.T.芦屋浜などのN.T.の構想・計画・基本設計を行う。
1996年現在、大阪府阪南N.T.及び千葉県幕張新都心住宅地の開発計画・事業化などの業務を行っている。

GBRC ニュース

GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391　FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15

神戸市内で工事用材料試験を始めます――4月に神戸試験室開設――

昨年1月の兵庫県南部地震で、阪神・淡路地区を中心に多くの建築物、道路、鉄道、港湾等の施設や、電気、水道、ガス等のライフラインに大きな被害が生じました。これらの構造物の被害の実態から、適正な設計・施工はもとより、コンクリート・鉄筋・骨材等の工事用材料の品質管理の重要性を再認識させられました。

現在、神戸地域では復興工事が着々と進んでおり、今後も多くの施設が建設されることと思われます。その際、工事用材料の適正な品質の確保、品質管理の励行が極めて重要で、「適正な試験の実施」体制の整備が望まれています。

そこで、当試験所は、兵庫県、神戸市など関係行政庁のご指導をはじめ関係各界のご協力とご理解を得て、神戸市内に試験室を開設する運びとなりました（案内図参照）。この地区は以前から建設材料の公的試験機関が少なく、試験室設置要望が強かった地区であり、当試験室の開設はご関係の皆様のご期待にそえるものと確信しております。

来る4月1日より業務を開始する予定で、現在鋭意準備を進めております。当試験所の他の試験室同様、おおいにご利用いただきたくご案内申し上げます。神戸試験室の概要は以下の通りです。

□所在地

神戸市東灘区御影浜町4番地

☎ 078(841)2976　　FAX 078(841)2977

□施設の概要

- 敷地：483m²
- 建物：軽量鉄骨造平屋建175m²
- 主要試験機：

1000kN	油圧式耐圧試験機	2台
1000kN	油圧式万能試験機	1台
鋼材曲げ試験機		1台
歪測定機器		1式
骨材試験機器		1式

□主な業務内容

〔コンクリート、コンクリートコア、モルタル等〕

圧縮、曲げ、引張試験、
ヤング係数、ポアソン比測定
中性化、塩化物量試験など

〔鋼材（素材、圧接材、溶接材）〕

引張、曲げ試験、質量、形状寸法測定など

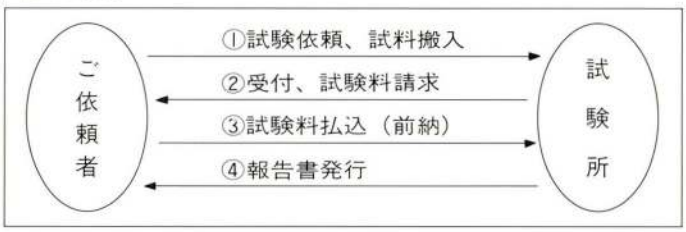
〔骨材〕

細骨材、粗骨材の品質試験
（塩分、洗い、粘土塊等）

〔その他〕

溶接工技量検定付加試験
簡易塩分計の検定
シュミットハンマー試験、鉄筋ガス圧接部
超音波探傷（UT）等現地調査
工事用材料各種試験、骨材のアルカリ反応性
試験のご相談にも応じます。

□申込手続



※試験依頼用紙はお電話下されば郵送いたします。
※試験依頼書は郵送でも受付けます。
また試験体や試料は宅配便でもお受けいたします。

□業務時間　9:00～17:15（但し12時～13時休憩）

□休 業 日　土・日・祝祭日
夏季特別休業　8月14日～8月17日
冬季特別休業　12月29日～1月4日

□道　　順

- 車の場合　国道43号線東御影交差点を南へ約1km
- 電車の場合　阪神電車「住吉駅」下車南へ約1.3km
徒歩約15分

□案 内 図



ARCHITECT's EYE

ベルリンの樹

鈴木　良介

ドイツ語が苦手であることもあり、また近代建築をみるにしてもその的をしぼりにくいということもあって、これまでドイツに足を踏み入れたことがなかったのだが、始めてベルリンを訪れる機会を得た。第二次大戦の事が幼なかった私の記憶に残っていて、運河沿いに建つ古い建物の壁に残る弾痕を、つい探すような目で見てしまうスタートであった。予定していた建築のいくつかを見て廻りながら、改めて緑の多い街であることを実感した。中心部にあるティアー・ガルテンは勿論のこと、たまたま足をのばしたベルリン西方の保養地 WANN SEEに至る沿線も緑におおわれている。逗留したホテル前の街路は両側の歩道と中央分離帯、それも10メートル程の幅のあるそれに大木が生えていて、窓から見る向いの建物はそれらの樹々の枝の間に見え隠れする程にしか見えない。ベルリンの中心部を別にして、周辺部の住宅地は殆んどこのように街路樹でおおわれている。ヨーロッパの他の都市に比べて建築にみるべきものが少ないとはいうものの、これらは美事なインフラ・ストラクチュアーとしてこの街を特徴づけている。これに比べていろいろな理由があろうと思うのだけれど、私の住んでいる京都の街路樹が、毎年紅葉も待たずに枝葉を切られてしまうことを悲しく思う一人である。

福井工業大学教授

まちづくり協議会方式

垂水　英司

神戸では今100以上もの地区でまちづくり協議会が活動している。これは画期的なことだ。もともとまちづくり協議会は、1970年ころ都市計画の転換期に区画整理事業の反対運動を巡って、行政と住民との対立の中から生まれたことにルーツがある。そして、まちづくり協議会方式として「神戸市まちづくり条例」で体系化、多くの地区で実践され、まだまだ未成熟な点もあるが、ユニークな「協働」の街づくりが育ちつつあった。

そんなときにあの地震であった。そして、地震直後の街づくりを巡る葛藤の中からさらに多くのまちづくり協議会が結成された。しかしこれまでと違って破壊された家や町を前にした切羽詰まった状況に、行政と住民も一段と緊張した対応を迫られている。

やるべき課題の多さと圧倒的な資金やマンパワーの不足の前にまちづくり協議会方式も前途は多難であり、その危機を唱える人さえいるほどだ。確かに平坦な道ではない。しかしこれまでのまちづくり協議会方式の経験や蓄積の上にたって、紆余曲折はあっても必ずこの転換期を克服し、新たな地平を切り開いていけるものと確信している。それは、なによりもこれだけ多くのまちづくり協議会ができたのだから。

神戸市住宅局参与

心にしみる塔

瀬戸本　淳

昭和11年に建てられ、映画を通して人々の夢を育くんできた三ノ宮阪急会館が解体されて１年が過ぎた。２つの大きなアーチが特徴的で、電車が力強く入ってゆく様は妙にエロティックだったし、北東の塔はまるで天と地をつなげた宇宙軸のように見えた。今、心の一部が喪失したような気がしている。

ところで、イスタンブールのブルーモスクのように、回教寺院の塔はなぜあそこまで不安定に高いのだろう。尖塔（ミナレット）の先に神が宿っているのか。人々と神はそれを通して交信しているのか。遠くからでも見えるその視線を集中させることによって、共同体のひとりひとりに一体感が生まれてくるのか。とにかく塔は素晴らしいコミュニケーションツールになっている。

また一方では、地面にへばりついてしか生活できない人間の存在がいかに小さいものであるかを教える威圧的教育者にもなっている。えらく精神が複雑に多様になってしまった現代には、塔のもつ価値はすでに暴落しているのかも知れない。

しかし、塔にかわる私たちにふさわしい共同体と自己確認のための何かを、今こそ見つけなければならないと感じている。

建築家・瀬戸本淳建築研究室代表

外壁を美しく保つために

田中　正司

御堂筋を歩きながらその町並みを見て気づくことがある。それは年月を経ているが外壁が比較的美しく、歴史の重さを示す風格がある建物と、比較的新しい建物であるが汚れが目立ち品位を落としている建物があることだ。外壁は人身に例えれば顔である。顔色が悪い建物は何らかの内部疾患をもっており、ともすると入居している企業などの体質を反映しているかのように解釈されがちである。汚れの原因を追求していく過程で、歴史とともに変遷してきた建物形状の変化にも大きく影響を受けていることに気づく。日本の風土は温暖であるが多雨であること、そのために古建築では、外壁を雨から守るために、深い庇や下見板張りなど色々な工夫がされている。近代建築ではまだ庇のある建物が多かったが、現代建築では庇がなくなり、ポストモダンといわれる建物では屋根と壁の区別がつかない建物がある。このように考えて来ると、庇のない建物では、壁面を伝わる雨に対して十分な配慮が必要である。即ち、水切れの良い建物の形状とディテールの工夫や、吸水率が小さく浸透拡散汚染の少ない素材の選定、付着汚れや化学的汚染の少ない表面仕上げが必要となる。

一方汚れは、外部環境にも大きく影響を受けるため、保守管理によりいつも顔色の良い建物を保ちたいと思っている。

鹿島建設関西支店建築部専門部長

建築の眼

東海支部復活35周年記念座談会

支部活動への期待とその展望

出席者（順不同・敬称略）

市川　　宏（日本建築協会会長）
岡本　行善（　同　上　副会長）
三品　哲夫（　同　上　副会長）
井手　正己（　同　上　京都支部長）
古林　敏郎（　同　上　中国支部副支部長）
雑賀　幹央（　同　上　和歌山支部副支部長）
森口　雅文（　同　上　東海支部長）
小宮　三辰（　同　上　東海支部副支部長）
野上　淳二（　同　上　常務理事事務局長）
司会・林　　金之（　同　上　東海支部副支部長）


市川　宏 氏


岡本　行善 氏


三品　哲夫 氏


井手　正己 氏


古林　敏郎 氏


雑賀　幹央 氏


森口　雅文 氏


小宮　三辰 氏


野上　淳二 氏


林　　金之 氏

と　き　1995年12月14日（木）午後1時－3時30時

ところ　社団法人　日本建築協会会議室

協会、支部のあり方について考える

森口　本日は、東海支部の企画いたしました座談会にお集まりいただきましてありがとうございます。東海支部は1947年に、京都、中国両支部に続いて設立されました。さまざまな事情で一時支部活動を休止し、1960年に復活して、1995年10月で復活35周年を迎えました。その35周年の記念事業としまして、支部のあり方、ひいては協会のあり方について考える機会をつくろうと支部の役員会で話し合いました。東海支部では、３年前から会員委員会を常置しまして、会員増強運動をすすめてまいりましたが、その運動をとおしても協会のあり方や、支部のあり方についての議論が支部内外でなされてきました。そこで、支部内だけにとどまらずに、できれば本部役員の方々や、おそらく同じ問題を抱えておられる他の支部の方々のお知恵も拝借したいと考えたのが、本日の座談会開催のきっかけでございます。今日の司会は「建築と社会」東海特集特別編集委員会の林副委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

司会（林）　よろしくお願いいたします。それでは、まず会長、副会長、常務理事さんから今回の企画につきまして一言、お話いただきたいと思います。

市川　今日は、本座談会のために、ご遠方からお忙しい中をおいで下さいましたことを改めてお礼申し上げます。現在のような景気低迷の長びく情況下では、このような団体の活動というのは特に難しい面がございますが、そんな中で、各支部の皆さんは本当に活発に支部活動をやっていただき、また会員の皆様のためにさまざまな事業をしていただいております。そのような実際の支部活動をとおして、会員や会員外の皆様の直接の声をきいておられることと思いますので、今日は、そうした率直なご意見をお聞かせいただいて、支部だけでなく協会全体の将来についても何か糸口が得られるのではないかと期待しております。よろしくお願いいたします。

岡本　私は、いままでさまざまな団体に関わってまいりましたが、本会の特徴は会員構成や会としての考え方が非常に幅広いことだと思います。会員それぞれの職域も異なりますが、それを超えて会員相互の交流もかなり活発に行われているように感じます。ただ残念なのは、いままで本部、支部間で活発な交流がなく、このような一堂に会しての会議は、非常に意義あることだと思います。本日の会議に際しまして考えましたことですが、例えば大阪も本部機能と、各支部と同様の大阪支部に分けて、支部と本部が同居するという形態をとり、本部として全体的な業務を行い、また支部としては他と同格で活性化に取り組む、あるいは各支部とのおつきあいをさせていただくというのもあると思います。

三品　協会について、将来を危惧する見方もあるようですが、私自身はむしろ将来、非常に明るい方向に向かいつつあるのではないかと思っています。本部での各会合での発言も活発になっていますし、各支部の動きを本部でかなり意識するようになって、これらもよい傾向の一つだと感じております。今日は各支部の代表の方々からお話を伺い、少しでも会員全体のお役にたつような発想ができればと思っております。

野上　本部のことをこなすのが精一杯でございまして、生来微力でございますので、各支部のお手伝いをほとんどできておりません。日頃から大変申し訳なく思っております。以後、よろしくお願いいたします。

支部の現状と問題点

司会　それではまず、各支部より支部活動の現状と問題点について、簡単にご紹介いただければと思います。支部の設置されました順に、ご発言をお願いします。

井手　京都支部は、協会創設者の片岡安先生が京都の方々を集められた、むしろ京都から大阪の本部に出ていった役員が多かった経緯がありました。それに甘んじて京都独自の活動が低調なような気がします。こうした組織は、利益につながる目的があれば非常にまとまりがいいわけですが、協会のように建築を通してすべての人が集うということになると、非常にユニークな団体であるがどうもまとまりにくいように思います。現在、京都支部の会員数は、120～130人ぐらいです。若い方は少なく男女比は圧倒的に男性で女性の会員はほとんどおりません。支部範囲としては京都府と滋賀県ですが、現実には京都市内周辺の会員が大半です。職種的には比較的バラエティに富んでおります。ただ、近頃は建築を学ばれた方が建築外の異業種、例えば金融関係や広告会社に進まれることも多いようにみえます。そうしたことから建築に関係のある機械メーカーや設備業界以外のところにも会員増強の目を向けないといけないと感じています。支部活動としましては、年一回総会を開催、会食をともにいたしますが、出席者は支部会員の１割程度で、それも固定化したメンバーで、新しい方の出席がほとんどないのが残念です。それと年に一度程度、支部独自の事業として、主に見学会を行っており、本会でないと見学できないものに限って行おうと努力をしていますが、そうしたところを見つけるのに苦心しているのが支部の現状です。

古林　中国支部の会員数は現在、約150人で、支部のエリアは岡

山、山口、鳥取、島根、広島の５県ですが、まず、建築技術者を育てる教育機関としての建築学科のある大学が広島以外の４県にはありません。そうしたところから、中国地方で何かことを起こそうとしますと、どうしても広島からということになります。支部活動としましては、他の建築関係団体と共催で数年に一度、講習会を催すとか、また、一昨年に広島で行われたアジア競技大会施設の紹介を「建築と社会」の特集として企画しましたが、そうしたことが精一杯で、ほかにこれといった活動はしておりません。会員の増強についてですが、現在の工業高校建築科の生徒のうち、半分近くは女性だそうです。そうした女性の方が卒業して、建築界やインテリア業界に入ってこられます。これらの方はいま比較的、人気のあるインテリアプランナーやインテリアコーディネーターの資格を取得されると聞いておりますので、そうした方々に本会に入っていただくように積極的に呼びかけています。

会員の高齢化と中心都市偏重

雑賀　和歌山支部の現状としましては、個人会員が約60名と団体会員が12社で、個人会員のほとんどは和歌山市周辺におられる男性の方です。支部活動としましては、年に１回、総会を兼ねて家族同伴の見学会を行っております。それと新年会を地元の建築士会、事務所協会、ＪＩＡなどと共催で開いています。大半の会員がそうした他の団体と重複していることもあって、見学会や新年会をしてもメンバーがだいたい同じ顔ぶれということと、和歌山の地理的条件から他の団体会員も含めて、どうしても和歌山市中心の会員に限られてしまうなど、新会員がなかなか活動に参加していただけないというのが現状です。

森口　東海支部の会員数は1995年10月末で、個人会員186名、団体会員85社（109口）で、世代構成は50歳を境としまして、ほぼ半々となっており、男女比では男性が圧倒的に多く、女性はわずか数％です。支部のエリアは愛知、岐阜、三重、静岡の４県ですが、会員の地域分布は愛知が約80％とほとんどで、あとを岐阜、三重がそれぞれ７～８％、静岡は１％台で、支部の成り立ちからいって愛知が中心になるのはやむおえませんが、その格差が年々ひらいてきています。また個人会員の職種は、行政が６％、設計事務所が55％、建設会社が22％、建設関連が13％ぐらいです。支部の活動としましては、総会以外に役員会として幹事会、常議委員会を合同で毎月１回程度開いておりますが、最近とくに出席がよく、毎回約80％以上の方が出席されます。実際の日常の活動は役員会を中心に行っていますが、常置委員会としては、総務、編集、会員、研修・同好、事業の５つがあり、会員委員会は会員増強や会員情報の管理、会員名簿の作成などを行い、編集委員会は支部機関誌「東海の建築」を年３回発行、研修・同好委員会では実務講習会を開催、事業委員会は見学会を主催しております。特別委員会としては、「建築と社会」の東海特集を企画する特別編集委員会を年度毎に設けていますが、このところ毎年３月号を担当していますので、常置委員会のようになっています。実務講習会は年１回開催し、これまで計６回行って延べ700人近い方が受講されています。講師は、会員の中から大手建設業の現役で、学校などで講師として指導にあたっておられる方々にお願いしまして、テキスト以外に最新の技術情報をもり込んで講義していただいていますので、特に地元の中小建設業の方々に大変人気がありまして、毎年社内研修に利用されているところもあるくらいです。建築主の中でも施設や営繕の担当者にご参加いただき、見積書の見方、積算の仕組などを大手建設業の積算課長などから説明してもらって大変勉強になると好評で、それを契機に会にも入っていただくようすすめています。また、支部で開催します見学会は非常に評判がよく、いつも満員の盛況で定員オーバーの方を断るのに苦労しているのが現状です。支部としても、こうした実務講習会や見学会を積極的に利用して、協会のＰＲにつとめています。そのほか、愛知県や名古屋市の建築行政や「中部建築賞」協議会の一員としての事業、愛知建築士会の総合建築展などへの協力を行っております。会員の親睦としまして、これまでの忘年会に加えて、最近はゴルフコンペも開催しております。以上が主だった活動の状況ですが、そんな事業活動の問題点は、まず資金不足です。支部交付金は1994年度で約120万円、支部活動費の規模はその６倍の700万円強で、その不足分は、親睦会、講習会、見学会の会費や支部会員名簿の広告掲載料、「建築と社会」東海特集作品作風頁の掲載料の支部還付金などを財源としております。活動資金の調達方法は各支部それぞれの事情があると思うのですが、いずれにしましても資金不足の中での活動であることの認識だけはしていただきたい。それと次に会員と役員の高齢化の問題で、若い会員を募り、役員も年度毎に少しずつ若い方に変わっていただくようにしています。そのほか、他の支部にお聞きしたいのは、支部としての会員サービスをどのように考えておられるかです。どこまで会員サービスを行うか、あるいは今後どのようなサービスを考えておられるか、ぜひうかがいたいと思います。

小宮　東海支部で会員増強を行っておりますが、本会のいちばんの特色の建築の資格の不要、専門分化の問題を全面に出しまして、

間口の広い会であることを説明し、一時流行しました異業種交流会と同じような受け止め方をしていただき、会員に入っていただくケースが多くなりました。

入会のメリットとは

司会　各支部それぞれの立地特性の問題、あるいは他の団体との関係でなかなか活動が思うにまかせない中で、何とか活性化させたいとの思いで苦心されている。会員の特性も、非常に高齢化して若い層がなかなか入ってこない、女性の会員も少数である、地域的にどうしても中心都市偏重になりがちなどいろいろとあるわけです。それでは会長さんに、こうした各支部の状況と協会全体としての課題との関連について、お話をうかがいたいと思います。

市川　支部からの情報が実はあまり伝わってこないのですが、本会全体としても、同じような悩みを抱えているわけで、会員の年齢構成をみますと、50歳未満が全体の約40%強、50歳以上が50数%という数字で，女性会員の少ないことも各支部とほぼ共通した問題をもっております。ただ、昭和63年頃から、高齢者よりも若い人の入会が多くなっており、特にこの２年近く若年層が飛躍的に増加しておりますので、この点では会の将来に希望がでてきたのではないかと感じております。これと関連しますが、入会をお願いするときなどによく会のメリットはという話が出るのですが、これはその気になっていただかないと得られないものと思います。会の方からいろいろ材料を提供しても意外に生かされないことが多いようで、見学会や講演会などの事業を行いましても、参加者の顔ぶれは一部の方にだいたい限られてくるようで、ほとんどの会員は会誌が唯一のつながりでしょうか、私どもはそこからメリットを得ていただけるように努力しているわけですが、これも読んでいただかないと意味がないわけです。「建築と社会」も、学術誌と商業誌の両方の性格を併せたユニークな、いい雑誌になってきて、読んでいただければメリットは充分ある筈と思うのですが。

異業種間の情報交流

司会　本会の社会的役割、使命が昔とは変わってきているのではないかという御意見も聞きますが、そのへんを含めてこれからの本会の社会的役割、位置づけについてお話をいただければと思います。

市川　建築協会が多くの他の団体と違うのは、専門業種を超えた、しかも個人、法人が同格の会員だということですが、昔と違うのは、専門業種ごとの法人の他の団体が増えてきたこと、そしてその団体がそれぞれにその業界の顔として発言され、その業界の発展のための事業をされる、だからそれと重複するようなことを行う必要はなくなった、この点での役割は変わったと思います。もっとも昔からそういうことをやっていたとしての話ですが。しかし本来、協会は「各部門の連繋協力によって建築に関係する学術、技芸、事業の進歩発達を図るとともに、建築を通じ、広く社会に貢献すること」が目的ですから、協会という一つの会のなかで、個人であれ、法人であれ、互いに異業種の情報が交流ができ、互いの進歩に役立ち、それぞれがその技術、事業によって社会に貢献していただければ、それで本会の社会的使命は充分に果たされるのではないでしょうか。これは昔も今も変わりません。

三品　「建築と社会」というものを標榜して、雑誌をつくり、活動をいままでしてまいったと思うのですが、最近、そうした対社会的意識の発信対象がいないというか、明確につかんでいないのではないかと思います。本部で事業活動をするときも、雑誌をつくるときも、それがいちばんの問題ではないかと考えます。本部でそうした事業活動はかなり活発に行っていると思いますが、結果的には内回りの堂々巡りをしているのではないかと思います。ほかの団体では対内部的な事業活動でいいのですが、少なくとも対社会的なことを標榜している以上、応信の出る取組みを具体的に考える必要があるのではないかと思っています。各支部活動においても同じような試みに取り組むことが、いま提起された問題解決につながるのではないかと思います。

岡本　協会内部はうまくまとまって交流しているようにみえますが、対外的な発信をする機会があまりないように思います。「建築と社会」という名前の発想には、社会的な貢献ということを考えていたはずですが、その社会自体が徐々に変容しまして、「建築と社会」のネーミングをつくった当時は経済社会だったのですが、現在は市民社会に変わってきて、むしろ「建築と市民」というスタンスで発信内容を考えた方がいいのではないかと思っております。

協会の特性を生かす

司会　現代社会あるいは建築界の現状における異業種交流の重要性や必要性のお話、社会変化に伴う対社会的発信の内容についてなどさまざまな問題提起がありましたが、そうしたところをふまえて、現在、協会に何が問われているか、支部活動との関連において、それをどのように発展させていったらいいのかといった支部活動の課

題について、ご発言いただきたいと思います。

井手　東海支部が財政のことをおっしゃってましたが、定期的に入ってくるものは交付金だけなんですね。ところが予算がその６倍、普通は３倍程度までが限度なんですね。そうしたお金に換算できるもの以外に目に見えない役員方のボランティアの労働力を足しましたら、相当なものです。役員方の負担を考えるとほんとうに頭の下がる思いがします。

古林　中国支部の立場から申しますと、とくに中国と四国との関連性が強いせいもあり、それと九州も入れた西日本全域をエリアとした協会の活動をやっていただきたい。それと協会会員のメリットという点では、なかなか一般的に見られない建築物を見学できるようにすれば、強いメリットが生まれると思います。私事で恐縮ですが、昭和30年代に当協会の修学院離宮の見学会に参加させていただいたおり、協会の会員だから見学できたと聞かされ、さすがだなあと思いました。こうしたことをメリットとして強調できるとわれわれももっと入会をＰＲできると思います。

雑賀　支部の活性化というのは、役員の方々の熱意しかないと私自身、協会や他の団体の仕事をしていて、それを痛感します。会員の増強に関してですが、建築のさまざまな分野の力を総合するといった協会の特性をもっと生かせる方法はないものかと思います。例えば、各分野の新しい工法やシステムを紹介する情報ネットワークとかは、協会だからこそできるのではないでしょうか。それと会員資格に制限のないことを生かし、一般の方で、まちづくりに関心をもっておられる方々に準会員で入っていただき、専門家と一緒に考える機会を提供するといったことも有意義だと思います。東海支部には、ツーリストの方も入っておられるようですね。

支部相互の情報交換の必要性

森口　東海支部の会員に入っているツーリストの方は、われわれが日頃見学旅行を行うときにお世話になるところですが、もっとも何時もここばかりにお世話になるとは限っていませんが、ツーリストの側にしても建築の見学というのはこういうことだと知るためにも、また、こうした団体に入って情報を得ることも考えてのご入会だと思っています。最近、電子とか数学の分野の専門家の集まりのファジー学会というところから講演会の案内をいただいていますが、そこでも協会のＰＲをして入会してもらおうと考えております。そうした異業種に領域を伸ばすことによって、他の建築団体と異なる本会の魅力をつくり、建築関係者をさらに呼び寄せることができるのではないでしょうか。これまで、ＪＩＡや建築学会、建築士会に入っておられる方々に入会をすすめますと、それぞれの団体に入っているのでとお断りになるケースが多々ありました。最近は、逆に他の専門的な団体に入っているからこそ、こちらにきて話をしてほしいと呼びかけています。私自身、協会、JIA、学会でそれぞれの会にふさわしい活動をさせていただいています。建築もこれからはさまざまな分野の方々と関わりがなければやっていけないと強く思います。それと役員の熱意の話がでましたが、次の世代の人々を育てるのも、現在の役員のしごとのひとつと考えており、支部長をはじめ順次、役員の交代を図っていきたいと考えております。

それと、今日、お願いしたいことの一つに支部長会議の開催があります。各支部の代表が一同に集まり積極的に情報交換ができる、そうした場をつくる必要を痛感いたします。それとできましたら、各支部からは理事が必ず出るというようにしていただいたら、おりにふれ支部の現況を各理事の方々にご報告し、また相談できるようになると思います。

小宮　協会の組織は歴史があるだけに、ガチッと固まっているように思いますが、支部会員も本部会員と同様に協会を支えている一員であるわけですから、支部の声を汲み上げる意味においても、支部長会議や理事会への参加は大切だと考えます。それと本部と支部という流れの中で、「建築と社会」だけが唯一のつながりになっている場合が多いように思われます。また、「建築と社会」は、建築家以外の方々もかなり読んでおられるように見受けられます。ところが、この雑誌は関東に対しての「関西」というスタンスでつくられていますので、関西の建築作品、文献などの紹介が中心です。そうすると、学術誌と商業誌の中間的存在でありながら、一般的には関西のローカルの建物や技術の紹介に過ぎないんではないかとうけとめられている場合もあります。それをもう少し全国区の雑誌の体裁をとるように、東京とか九州とか北海道などでも世の中の話題になるものが出来た場合、紹介するような全国的な読者を考慮した内容を加味していただければ「建築と社会」だけでも、かなり会員に有意義な情報を伝えられると思います。

若い人への魅力づくり

司会　本会の使命、存在意義は、建築界における総合的交流ということがいちばんの特色で、今後ますます本会の意義が深まるのではないかという明るいお話もありましたが、さらにそうしたことを支えていくために、いままで以上に領域を広げて、むしろ建築とい

うことをテーマにそれに関心をもつ他の分野の人をも広く会員としていくことが必要という意見もでました。そうしたことを受けまして、支部活動あるいは建築協会の魅力をどのようにつくっていけばいいか、お考えを聞かせてください。

井手　実務講習会は京都支部でも何回かやっておりますが、先ぼそりになってまいりまして、私なりに考えまして、京都に数多くあります社員教育も充分できない小規模の工務店にＰＲいたしましたが、なかなか効果がでません。

森口　大切なのはやはりその中身で、実際に受講された方が職場に戻られて力を発揮していただいたから講習会が評価され、会社も次にまた別の人を出席させてくれるんだと思います。ただ、大阪は２日間にわけてやっておられるので、比較的に時間がとれるのですが、東海支部では１日で、朝の９時から夕方の５時までびっしりと詰めていますのでかなりハードで、受講後のアンケートでも時間が足りないという声が多いですね。一時、講習会とか見学会とか催しものを頻繁にやるものですから、そのことだけが目立って批判もありましたが、入会を勧めるとき、協会のわれわれがやっているところを見ていただくことがいちばんの早道ですから、会員増強はそうしたイベントを効果的に活用しています。

井手　京都支部では、充分な力がありませんから、そうした催し物を頻繁にできませんが、先日、大山崎山荘の見学会を行いましたら、普段なかなか見れないところであったことと、保存に関してマスコミが近年取り上げていたせいもあって、大変好評でした。また、異業種の方の意見を聞きたいと考えて、支部役員を建築設計以外の建設業、設備、造園、教職など幅広いジャンルから出ていただいていますが、なかなかうまくいってません。入会に関しましても近頃は「入ればどんなメリットがありますか」とすぐ聞かれます。

古林　中国支部としましては、会員の年齢構成が20歳代が５％で、50歳以上が50％を超えていることにいちばんの危機感を覚えます。20歳代の若い層の会員拡大に対して、どのような方策があるのか真剣に考えています。しかし、「建築と社会」を見ましても、青年技術者特集などのように若向きの内容もあるのですね。そうしたものをもう少し増やしていくとかしていただくことも若い層を引きつける一つの魅力づくりになると思います。世間から見まして最近の建設業は、政官との癒着とか談合とかダーティなイメージがあるようですが、インテリアコーディネーターの集いなどに出席しますと、非常にファッショナブルですね。ほとんどが20歳代、30歳代です。そうしたところに出席すると、こういうおじさんがという感触をもってしまいますが、若い層の感覚や考え方を知る上で、そうしたところとの交流も積極的にすすめることも大事だと思っています。

雑賀　私もじつは、ＮＨＫ文化センターで女性向けの講座をもっているのですが、大勢のインテリア関係の受講生がこられて、みなさん非常に建築に対して関心をお持ちなんですね。そうした方々とわれわれがあまり交流がないのは、われわれ自身、建築というのは少し高いところにいるという意識をもっているからではないでしょうか。しかし、社会はそうは思っていない面と、ある面では非常に地位が高いと思っているところがあります。そうしたところにわれわれ建築家があぐらをかいている部分があるのではないでしょうか。講師を１年間やってみまして感じたことですが、受講生の方々は非常に現実的で、建築の技術の話を少し入れると喜ばれるのですが、あまり固すぎるとだんだん減っていくというふうに、少し時代と合わせてファジーなソフトな面をわれわれ自身が勉強しないといけないという気持ちがいたします。とくに和歌山では、若い人の職場が少ないですから、どうすれば若い人を増やせるかということから考えていく必要があります。ですから、和歌山でやった建築作品はできるだけＰＲして、地元に帰れば、こんな仕事もできるという若い人への魅力づくりの場を考えています。

森口　「建築と社会」は大変貴重な情報だと思っています。だいたい建築関係者、とくに設計をやる人は必要以上に難しく文章表現するような傾向がありますが、ものによっては、やはり読む人にわかりやすく書くという姿勢も大切で，ことに「建築と社会」という対社会的な情報発信を標榜する以上、建築以外の方々にも読んでいただくことを前提としているはずで、そうした方々から難解すぎて理解を得られなかったなら、その存在意義を失ってしまうわけです。とくに工法の紹介など、上手にわかりやすく説明してあるので、私自身さまざまなところで説明するおり、使わしていただいています。技術的には他の建築技術雑誌と遜色なく、表現の仕方が少しわかりやすく書いてあることが特徴のように思います。

将来の方向性

司会　時代性を意識する必要や、若い層にどう取り組んでいくかなどについて御意見がでましたが、これからの協会としての方向性などについていかがでしょうか。

三品　いま、お話をうかがっておりますと、各支部さんともほぼ共通の悩みをもっておられるわけですが、さしあたっての有効な具体策がなかなかみつからないのが現状だと思います。ところで将来的な方向性についてなのですが、大阪に近い距離に位置するか、遠



座談会風景

い距離に位置するかといった各支部の立地などで、条件が異なってくると思います。大きく分けまして、中国支部と東海支部の場合と、京都支部と和歌山支部の場合では環境が少し異なっていると思います。そうしたところから、将来の方向としまして、本部と共同で事業活動を行える支部と、独立して事業活動をせざるを得ない支部とに分かれると思いますが、いかがでしょうか。

井手　私個人の考えとしましては、京都支部の場合、１時間以内で大阪という至近の距離に位置しています関係で、本部との共催で事業活動を行った方が合理的と思います。もちろん、京都にはそうそうたる方々が本部役員になっておられ、支部としての独自性も出していかなくてはならないと考えていますが。

三品　そうしますと、京都支部で何か事業活動、例えば講習会とか見学会とかを企画されますと、大阪にもご案内していただけるわけですね。

井手　たくさんの方に知らせるほうがいいような内容のものについては、そうしたいと思います。

雑賀　私も同様の考えを個人的に持っておりまして、和歌山支部も将来的には大阪と連携して事業活動を行い、ある分担をするというふうにならざるをえないと思います。

三品　将来的にそういった方向に向かう可能性があれば、各事業の委員会などに各支部から委員が入っていただいて、一緒に検討することを考えなければなりませんね。

支部活動の活性化に向けて

司会　いろいろと具体的なご提案も出てまいりましたが、最後に支部活動の活性化に向けての抱負といったことについて一言ずつご発言いただきたいと思います。

井手　京都支部としましては、やはり活動をやっていくには、協会の存在や活動内容のＰＲを積極的に行い、異業種を含めて会員を増やしていく、そのためには京都支部自体の存在をもっとアッピールしまして、本会の特徴である建築の資格制限のない、門戸を開いた団体であることを強調していきたいと思います。

古林　中国支部のいちばんの課題も会員拡大で、男性会員もさることながら、とくに女性会員の増強を行い、われわれ自身もそうした世代と一緒に勉強していく姿勢を持ちたいものです。そうでなければ、新しい世代、世の中からわれわれが取り残されていくような気がします。東京中心の他団体との違いを明確にして、四国、九州での会員を増強し、支部設置ができましたら、いい方向にいくのではないかと思います。

雑賀　和歌山支部も一時、百数十名いた会員が半減していますことから、会員増強を第一に考えなければと思います。それとさきほどお話が出ました支部長会議のような情報交換の場をぜひ設けていただき、他支部の活動が刺激になって支部の活性化につながるといった方向に向かっていきたいと考えます。

小宮　支部の魅力、活性化といいますと、やはりまずマンパワーが必要です。東海支部の方でまだ入会が少ない分野の行政担当者、大学の研究者などを重点的にお願いし、そうした方にきていただいて、お話をうかがい意見を吸収し、建築自体がそれぞれ地方性、郷土性があるように、支部活動もまたその地方に即した独自性をつくれたらと思っています。

森口　本会の場合は、その成り立ちからいってもやはり本部あっての支部ですので、ときどき本部からの御意見もいただき、また支部からの意見も本部に出せる機会をぜひつくっていただきたいと思います。実務講習会などのテキストをきちんとつくっていただけるのは本部ならではのことですから、支部としましては、本部で発行される図書の一般の方々への公開閲覧を含めて、そうしたものをもっと活用するというのも協会をＰＲする有効な方法のひとつではないかと考えます。

市川　支部の活性化のためにも、やはり本部と支部との情報交流がいちばん重要で、それがいままで欠けていたのではないかと反省をも含めて思っています。そうしたことも含めて、これだけの異業種の方々が集まっておられますので、協会の各事業内容や「建築と社会」の内容などもこれまでのように設計事務所中心から、もう少し幅を広げてやっていくことが必要ではないかと思います。そうした枠を広げることによって建築協会の本来もっていた特性を生かし、社会へとつながっていくこと、それが本会の活性化に結びついていくのではないかと感じています。

司会　今日は、貴重なお話をお聞かせいただき、ほんとうにありがとうございました。

「建築と社会」誌

特集一覧● 1975～1995

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築*	●インテリア*	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法*	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル*	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者*	●集合住宅の設備*
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向*	●建築基礎構造の問題点*	●医療施設*	●床工法と材料*	●建築防災と法*	●市街地整備*	●工場建築の設備*	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト*	●結露防止対策と断熱材料*	●第23回青年技術者*	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体*	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法*	●身障者施設*	●照明設備*	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ*	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者*
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水*	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料*	●電波障害と建築*	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号*	●第25回青年技術者*	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発*	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制*	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌*	●建物の終局強度の検討*	●庄内のまちづくり*	●80年代のインテリア*	●第26回青年技術者*	●建設業の労務事情*
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望*	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物*	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集*	●住宅の耐久性*	●建築行政と法規*	●最近の防水工法*	●都市景観とアメニティ*	●屋内体育施設の設備*	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材*	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅*	●これからの建築設計と新耐震設計法*
1981 Vol. 62	●職能論*	●中国の論文—北京の都市計画*	●ポートピア'81*	●台所まわりの計画と設備*	●シーリング材の知識*	●災害と法—安全な環境をめざして*	●都市住宅—住まい手からの発想*	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集*	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割*	●間仕切壁の性能評価*	●第28回青年技術者*	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開*	●省エネルギーと開口部*	●医療施設—地域医療と設備計画*	●近畿の地盤と地質*	●都市景観—まちなみ美観への誘い*	●大阪市庁舎（第一期）*	●ホール建築と音*	●大スパン構造*	●昭和設計作品集*	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築*	●風土・空気と人間*
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設*	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール*	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル*	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語*	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ* ●大阪府営緒	●第35回青年技術者 ●800号記念*	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術*	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン*	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—*	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営緒の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観*	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—II— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営緒	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営緒	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと我	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界*	●音—騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計	●ライフラインと建築設備	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課

*印は欠号

特集　遠江―その地域振興と文化



■作品
愛知県東三河総合庁舎
伏見ライフプラザ（中消防署複合庁舎）
犬山国際観光センター
岐阜県図書館
神戸町立図書館
森町文化会館
東海学園大学
浜坂町立久斗小学校
メニコン総合研究所
豊橋市民病院
石井医院・疾病予防運動施設
松坂市民病院
春日井市福祉の里レインボープラザ
サンデルタ香良洲
特別養護老人ホーム藤美苑
かめやま美術館
御園座（リニューアル）
北日本スクェア
株式会社クマヒラ名古屋ビル
東裕ビル（NEC中部ビル）
中部花王販売㈱岐阜支店
同和火災名古屋ビル
中部電力多治見営業所・電力センター
豊田自動織機製作所碧南工場事務・技術棟
サンハイツ中央台（EF）棟
岐阜ルネッサンスホテル
志摩観光ホテルグループ賢島「宝生苑」（増築）
ジャスコ岡崎南店
マイカル桑名
NS21
■Tokai Sketch Book
■遠江――地域振興の施設づくりと文化
遠州の風土・気風と文化／鈴木正之
浜松市の都市づくりの展望／金子治夫
浜松らしい都市文化の創造／金子治夫
■遠江――地域の作品紹介
アクトシティ浜松の施設概要／山下堅司
アクトシティ浜松の運営と今後の展開／山下堅司
アクトシティ浜松の設計にあたって／米川龍夫
浜松市楽器博物館／佐藤　剛
フォルテビル／浜松都市開発㈱
フォルテの設計にあたって／原田鎮郎
施設利用体験記――フォルテホール／上保節子
旬の味・採れたてバザール――フォルテにて／黒柳康江
NTSシステム総合研究所の設計について／水谷碩之
ひとと自然が調和する静岡ファクトリー／横山研介
ロック・フィールド静岡ファクトリー／安藤忠雄建築研究所
■東海4県建築MAP

本特集企画・日本建築協会東海支部特別編集委員会
委員長　森口雅文
副委員長　植田　明　小宮三辰　林　金之　松本壮一郎
委　員　磯村正雄　今津清直　岩田正弘　尾崎武寛　後藤利秋　仙田　篤　細田泰彦　谷　淳之介　寺本英一　中村哲士　中村嘉男　廣瀬敏郎　福田泰造　桝林宏二　森田富士男　盛田輝男　吉田尚道　芳山　明久
（50音順）

全景▲

▼エントランス夜景

愛知県東三河総合庁舎

設計監理　愛知県建築部営繕課
　　東海設計
施　　工　竹中・藤城・山正建設工事共同企業体

所 在 地　愛知県豊橋市八町通五丁目地内
敷地面積　6,380.36㎡
建築面積　2,331.42㎡
延床面積　15,900.06㎡
構造規模　SRC、一部S、B2、5F
工　　期　1993年7月～1995年12月
最 寄 駅　豊橋鉄道市内線東八町駅
撮　　影　SS名古屋



エントランス



エントランスホール



会議室

この庁舎は、東三河地区における県の総合出先機関として計画されたものである。敷地周辺は、豊橋市の中心部で、豊橋公園に隣接した非常に環境に恵まれた地区に位置している。

東西に細長い敷地形状のため、建物はリニアプランにならざるを得ないが、施設全体を事務棟、会議棟、厚生棟の3ブロックに分け各棟の機能を明確にして利便性の向上に務めた。

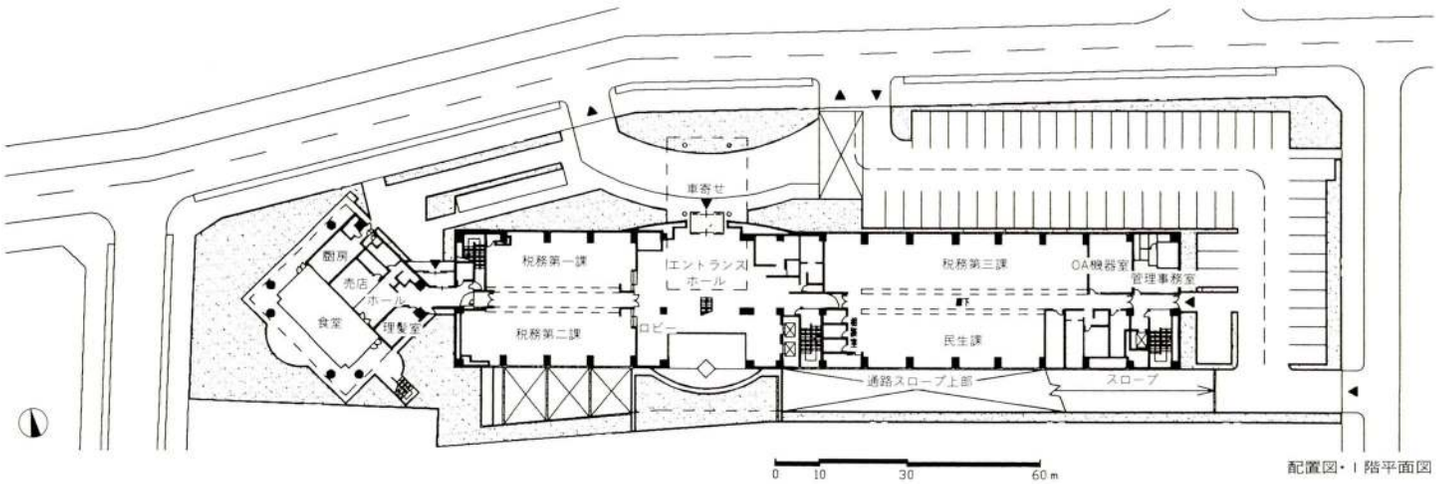
エントランスホールは三層吹抜けのアトリウムで、事務棟と会議棟を結ぶブリッジが設けられ、庁内動線の要となるとともに、杉木立をモチーフとした壁面装飾が施されて、親しみやすく暖か味のある内部空間となっている。

事務棟は、無柱空間の執務スペースを確保してフレキシビリティを高め、今後急速に進むであろう情報化にも充分対応できる施設とした。

地域がら駐車場の設備が最優先課題であったが、狭い敷地を有効に活用するため、地下2層分の駐車スペースを自走式で計画し、地上部と合わせて最大限の駐車台数を確保した。

構造計画においては、この建物が防災拠点施設であることから、特に耐震性能に関してはグレードの高い設計になっている。

（岡本光生／東海設計）



配置図・1階平面図

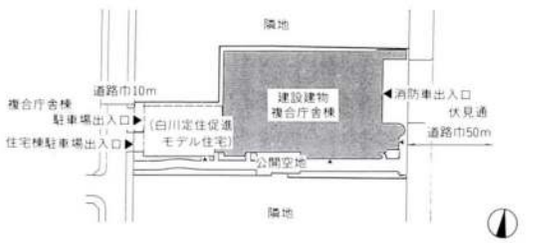
伏見ライフプラザ
(中消防署複合庁舎)

設計監理　名古屋市建築局営繕部
　　日本設計
施　　工　大日本土木・三菱・地崎・大末・六合
　　特別共同企業体

所 在 地　名古屋市中区栄1-23-12
敷地面積　2,649.56㎡
建築面積　1,784.78㎡
延床面積　25,331.21㎡
構造規模　SRC、S、B3、15F、PI
工　　期　1992年7月～1995年8月
最 寄 駅　地下鉄東山線、鶴舞線伏見駅
撮　　影　SS名古屋



エントランス



配置図



遠景


公開空地

伏見ライフプラザは、名古屋市消防局の中消防署の建替えを機会に、都心公有地の有効利用、高度利用を目的に計画され、中消防署はじめ、名古屋市の５局の各施設で構成された複合施設で、名古屋市住宅供給公社の定住促進モデル住宅（シティーファミリー白川）を併存する形でなっています。

計画の前提として、周辺街区に対して長大街区に位置する敷地の表通りから裏通りに至る通り抜け状の公開空地を設けることにより、名古屋市の総合設計制度の適用を受け、容積率及び、斜線制限の緩和の許可を得て用地の最大限の活用を目指して計画されています。

公開空地は、暖色系のタイル貼り通路、緑のグランドカバー及び中高木の植栽、二つのゲートの他、名古屋を代表する祭―なごやまつり―の英傑行列をテーマにしたイラストパネルを長さ100m近くに及ぶ塀に設ける等、名古屋らしさと賑わいの創出に努め地域の人々の積極的な利用が計られるよう配慮されています。

建築計画としては、前面道路の側面外壁のフラットな面と対比させた形態のバルコニーを設けて、避難、救助設備としてより有効にさせるとともに５局の異なる内部機能を建物外観上整え、また、建物コーナーには小さな曲面を施し、大規模建築物が地域に与える威圧感を和らげられる立面計画が採用されています。

（日置朝生／日本設計名古屋支社）



ヘリポート



防火管理研修センター



ホール



5階平面図　1:800



2階平面図　1:800



1階平面図　1:800

外観西北面



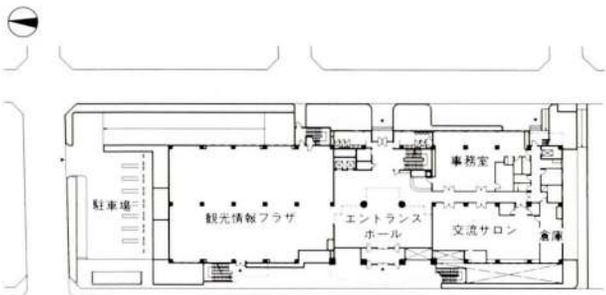
◀エントランス

犬山国際観光センター

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　建　　築　鴻池・山口建設共同企業体
　　電　　気　東邦・フジタ建設共同企業体
　　空　　調　菱和・田中建設共同企業体
　　給排水衛生　一工・今井建設共同企業体

犬山市は、国内だけでなく海外からも多くの観光客が訪れる国際的観光都市である。この建物は、市が更なる国際交流のまちづくりを推進するための、国際観光機能と国際交流機能を併せ持った中核的な施設として、計画されている。
建物中央にアトリウムを設け、そのアトリウムを中心にして、左右に観光情報・コンベンション・文化・教育研修・コミュニティなどの機能を持つ施設を配置し、全体が構成されている。
トップライトを持った四層吹き抜けのアトリウムは、内部空間に大きなゆとりを産み出し、訪れる人々の交流の場として、また各施設の緩衝ゾーンとなるように計画されている。
この建物のメイン施設のコンベンションホールは、フロイデホールと名付けられ、椅子床下収納型の昇降式可動床になっている。平土間・段床椅子席・可変ステージなどフレキシブルな空間構成や演出が可能で、国際会議・レセプション・ミニコンサート・各種発表会などのさまざまなイベントに柔軟に対応することができる。
ヴォールト形状の屋根とトップライトの軸線の交わりは国際交流・市民交流の「交流」を表現し、屋根の重なりは国際化の波紋の広がる様をイメージしている。
犬山市にとって、この建物が二十一世紀へ向けて、国際交流の情報創造発信基地となることを期待している。

(川平　孝／安井建築設計事務所)



配置図・1階平面図　1：1400

所 在 地　愛知県犬山市大字犬山字天神1-4
敷地面積　3,244.53㎡
建築面積　1,726.86㎡
延床面積　7,826.69㎡
構造規模　RC、一部S、B1、4F
工　　期　1993年6月～1995年1月
最 寄 駅　名鉄犬山線犬山駅
撮　　影　SS名古屋


アトリウム

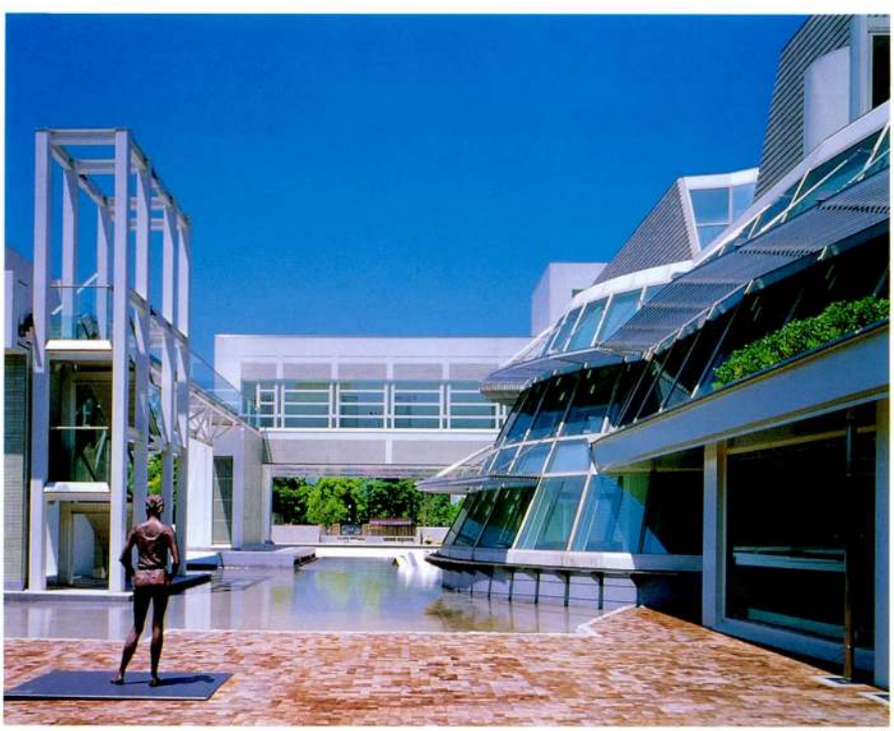

4階フロイデホール


3階温水プール▶

外観　西北面

岐阜県図書館

設計監理　岐阜県総務部管財課
　　岡田新一・サニー設計業務特別企業体
施　　工　大日本土木・銭高・土屋・市川建設工事共同企業体



外観　西面



トップライト

所 在 地　岐阜市宇佐4-1-1
敷地面積　22,074.48㎡
建築面積　 8,338.80㎡
延床面積　25,703.97㎡
構造規模　SRC、一部S、B1、4F、P1
工　　期　1992年12月～1995年1月
最 寄 駅　JR岐阜西駅
撮　　影　SS名古屋　滝田良彦

岐阜は、かつて金華山というシンボリックな山城を中心に据え、長良川を天然の堀とした城下町であった。金華山周辺では、今でも街道筋の面影を残す長屋形式の街並みを見ることができる。岐阜県図書館は、このような周辺環境の岐阜公園内から移転新築された。

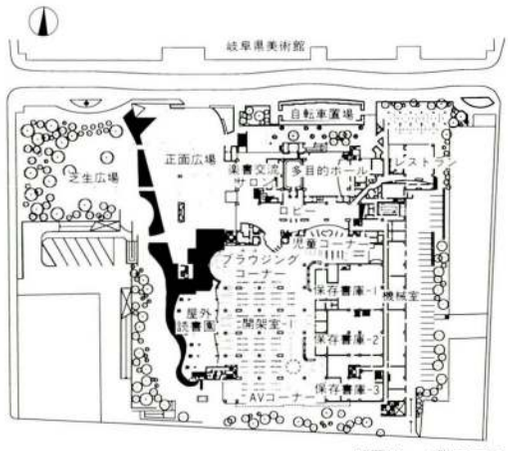
大版せっ器質タイルを打ち込んだ重量感のある＜壁＞は、保存収集という役目も担う県図書館の格調と信頼性の表現であり、100万冊を超える書籍の配架、収蔵を構成づける空間のシステムを形作っている。

一方、ハイビジョンシアターや多目的ホールなど、白い＜フレーム＞によって構成される情報機能の各空間は、外装をボーダータイル、内装を木パネルという小さな柔らかなスケールの材料を用いて、親しみやすいデザインとしている。これらの対比が、この図書館の「歴史や伝統に学びながら未来へ志向する」軽快な躍動感を与えている。

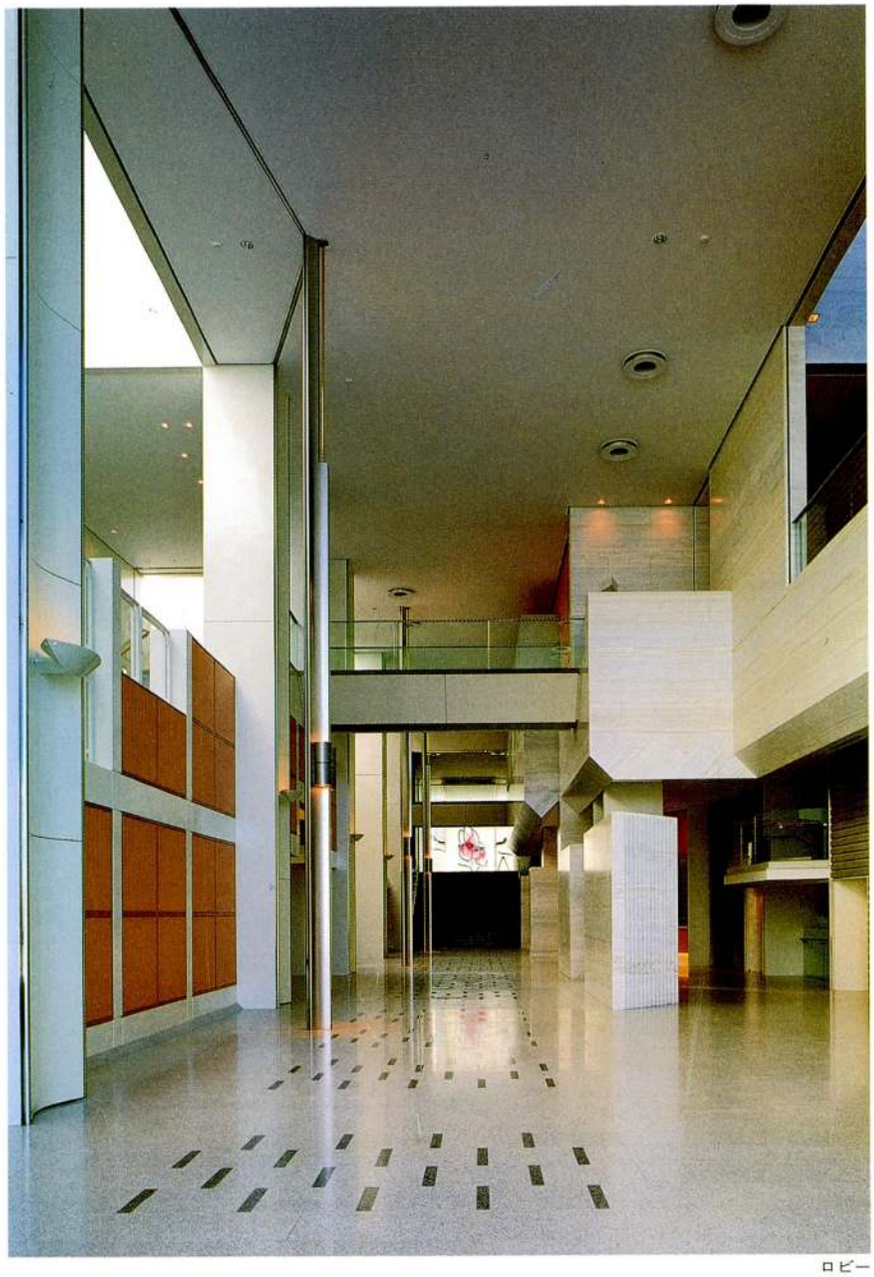
また＜フレーム＞の連なりは、かつての長屋形式の街並みの再現でもある。講演会に人が集い、レストランで食事をしたり、いろいろな空間のにぎわいが街並みににじみ出てくることが、この施設の活性化をもたらすことだろう。

この＜壁＞と＜フレーム＞の構成は、隣接する岐阜県美術館へ新たな関係を持ち掛ける。２つの施設の間にある市道もコミュニティ化道路として再整備された。県美術館を含めて＜壁＞＜フレーム＞＜壁＞として建築の構成を捉えなおすことができる。このような都市的脈絡の再認識が「県民文化の森」としての一体化を、一層強固なものとしていくことだろう。

（津嶋　功／岡田新一設計事務所）



配置図・1階平面図


ロビー


開架室

外観東面

神戸町立図書館

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　土屋組

所 在 地　岐阜県安八郡神戸町大字北一色821番地の1
敷地面積　10,591.00㎡
建築面積　1,922.06㎡
延床面積　1,719.57㎡
構造規模　S、IF
工　　期　1994年5月～1995年3月
最 寄 駅　近鉄養老線北神戸駅前
撮　　影　加藤敏明


外観全景


南面 モニュメント(脇田愛二郎作)を見る



閲覧室をエントランスホールより見る



閲覧室を見る

「庭園のなかの図書館」として、周囲の山並みや、悠然と流れる揖斐川と濃尾平野に広がる田園風景からイメージされたのが、無限遠に伸びてゆくフラットラインである。周囲の自然形態との対比により、都会ではありふれた直線が息ずき、その存在を主張する。そして、屋根の折り重なる水平面と接することなく自立する壁との間の、緊張感のある透きとおったフラットラインが、相互の存在をさらに強調する。

色彩は、まちの門前町でみられる伝統的な漆喰壁の白を基調とし、庭園の緑とバラの色香、水辺に映る光の色、背景となる山並みの自然と調和し、自立することを意図した。

平面構成は、開架閲覧室を中心とする図書館専用施設と開館時間以外にも利用される集会施設をエントランスホールを介して独立させながら、二層吹抜の柱廊空間で一体化している。

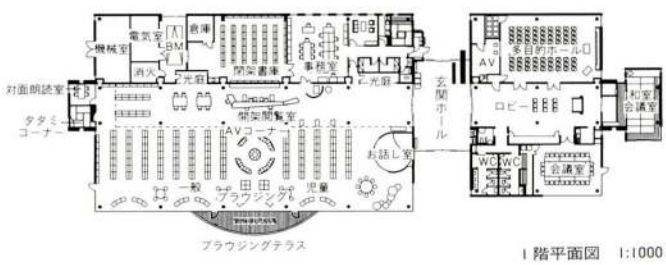
神戸町の冬は厳しく、「伊吹おろし」と呼ばれる季節風が、冷たい風雪を北西の山並から吹きつけてくる。そこで、山側を自立する壁で遮り、南側に開けたかたちで庭園や水辺と一体となった環境をつくりだし、四季の変化、時の移ろいを感じる私的で親密感のある内部空間の実現を意図した。そして、南側への大きな開口部とハイサイドライトからの柔らかい光が、二層吹抜の柱廊空間を満たし、昼間は人工照明が不要な明るい光の空間をつくりだしている。

この図書館が新しい文化の場として町民に親しまれ、「学びと憩いの場」として利用されることを願っている。

(大島弘資／安井建築設計事務所)



閲覧室夕景、池とブラウジングテラスを見る



1階平面図　1:1000



配置図　1:2000



憩いの森よりの全景

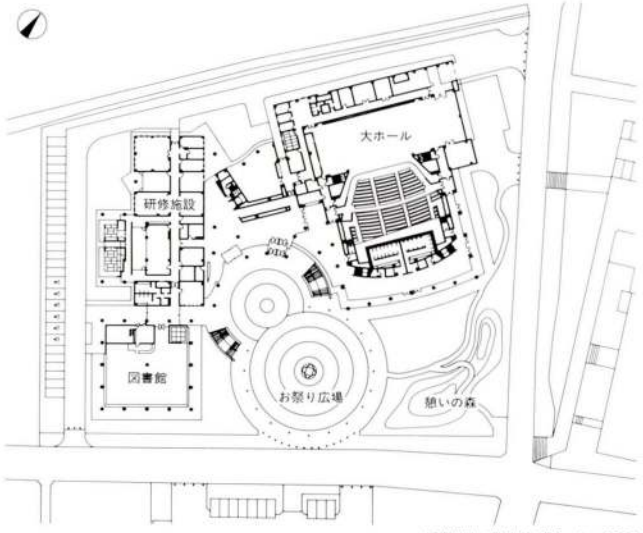
森町文化会館

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　大成・丸明建設工事共同企業体

所 在 地　静岡県周智郡森町森字穴田1484-1
敷地面積　13,000㎡
建築面積　5,320㎡
延床面積　5,910㎡
構造規模　RC、S、B1、2F、P1
工　　期　1993年7月～1994年12月
最 寄 駅　天竜浜名湖線遠州森駅
撮　　影　SS名古屋



エントランス全景



配置図・1階平面図　1：2000



夜景

この会館は、森町の町民が郷土に誇りをもち、活力と希望に満ちたまちづくりの一端を担う施設として計画された。施設は、「6万冊収蔵の図書館」「800人収容の大ホール」「音楽室・工芸室などのある研修施設」で構成され、各々が相互利用の可能な複合施設である。

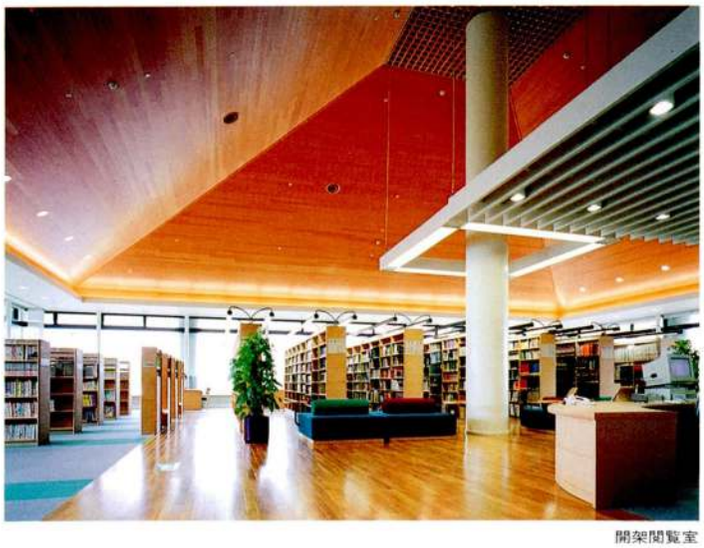
静岡県森町は、浜松市と掛川市をつなぐ天竜浜名湖線の沿線に在る。別名「三木の里」とも呼ばれ、林業やお茶の産地として知られている。町内には小国神社など神話の舞台になっている名所もあり、神社が多く、それに伴って「舞楽」などの舞踏文化の盛んなところである。敷地の周辺は、東側に町立体育館、北側に天竜浜名湖線に隣接しており、他は水田に囲まれた環境である。

建物の配置は、山と川に囲まれて街が形成された森町を3つの方形の大屋根とお祭り広場で構成する形で表現し、「町民の豊かなコミュニケーションの場づくり」「町民が郷土に誇りをもてるシンボルづくり」「森町にふさわしい豊かな緑に囲まれた環境づくり」を図るよう設計している。

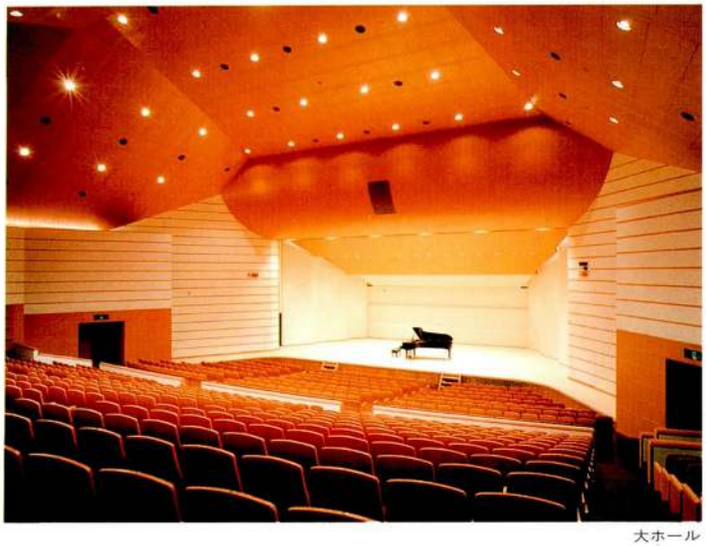
「図書館」は3方をガラス張りとし、天井の高いワンルームの開放的で明るい室内空間としている。平面は開架閲覧室を主体としており、隣接して設けられた「研修施設」の会議室を学習室としたり、音楽室を録音室とするなど、図書館施設として利用できるようにしている。

「大ホール」は、「舞楽」など郷土芸能ができる舞台や、横幅を広く、奥行きを浅くした客席など、演劇観賞に適したホールとしており、木のまち森町にふさわしい「木のホール」としている。また、「図書館」「研修施設」と「大ホール」をつなぐエントランスロビーは、展示ギャラリーとしても利用され、大ホールとともに町民の発表の場として、「誰もが気軽に郷土文化にふれあえる会館づくり」をめざした。

(南石周作・日比野万喜男／日建設計・名古屋)



開架閲覧室



大ホール

講義・図書棟前広場



◀講義棟ロビー

東海学園大学

設計監理　黒川建築事務所
施　　工　佐藤・石田特別共同企業体



配置図



研究棟外観



厚生棟学生食堂



体育館、厚生棟全景

大学用地は名古屋市の東部郊外に広がる丘陵地帯の一画に有り、名鉄豊田線三好ヶ丘駅から最寄りのところにある。この一帯は私鉄沿線の新興住宅地として、現在開発途上にあり、急速に変化している地域である。

敷地は中央部で、南北に走る高低差約5メートルの法面で、東西に二分割されていた。この法面をなだらかな斜面に作り替えて、広場と連続させる事により、上下2段に分割された敷地を視覚的に一体化させ連続感を生みだす事ができ、また、のびやかで、ゆったりとした開放的な景観をつくりだすことができた。

大学の中心施設となる研究部門・講義部門・情報センター部門・管理部門を敷地の西上段側に集中して設け、これらの諸施設を北側から西側にかけて広場をとり囲むようにL字型に配置している。研究棟、講義棟及び図書情報センターといった、アカデミックコア部分をできるだけコンパクトにかつ有機的連続性を持たせて、機能的にも心理的にも一体感を生みだすようにした。

厚生棟と体育館は、東側の下段部分の東及び南端部に片寄せて配置し、中央部の空地は将来の増築に備えている。

校舎用地は敷地全体の西北部に位置し、敷地内の一番高いところにあるので、南東方向に眺望が開けており、この立地条件を十分に生かして開放的で明るい施設づくりとすることができた。

(森　鉦一／黒川建築事務所)

所在地	愛知県西加茂郡三好町大字福谷字西ノ洞21番233	
敷地面積	170,000㎡	
延床面積	15,123㎡	
	管理棟	RC、2F、1,025㎡
	研究棟	RC、7F、3,925㎡
	講義・図書棟	RC、3F、6,022㎡
	体育館	RC、2F、2,081㎡
	厚生棟	S、1F、1,450㎡
	その他の施設	1F、620㎡
工期	1994年1月～1995年2月	
最寄駅	名鉄豊田新線三好ヶ丘駅	
撮影	フォトスタジオ・タクミ　侘美孝昭	

多目的ホール

浜坂町立久斗小学校

設計監理　東畑建築事務所
施　　工　株本建設工業・明生建設JV
電　　気　きんでん
機　　械　サンユー技研工業



所 在 地　兵庫県美方郡浜坂町高末403
敷地面積　10,969㎡
建築面積　2,313㎡
延床面積　3,234㎡
構造規模　RC、S、2F
工　　期　1994年9月～1995年12月
最 寄 駅　JR山陰線浜坂駅
撮　　影　太田写真館

正面外観▶



図画工作室



渡り廊下



階段



普通教室・ワークスペース



図書室・パソコン教室

浜坂町は、兵庫県の西北端に位置し、日本海に面する人口12,000人の海と温泉の町である。

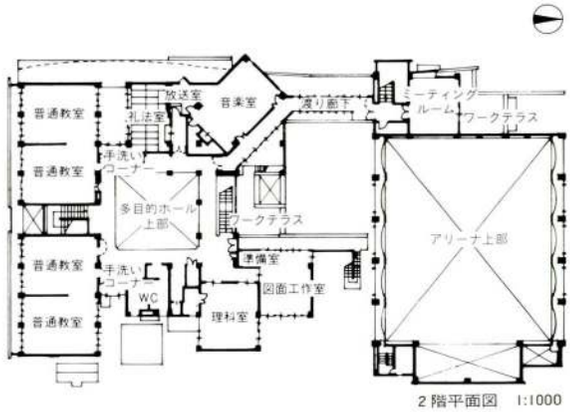
久斗小学校は自然豊かな久斗山と久斗川に抱かれた山あいにある児童数70人の学校である。木造校舎の危険認定と体育館の狭隘化に伴い、全面改築が計画された。

計画にあたり、旧校舎の雰囲気、小規模校の家庭的な雰囲気の継承と変化の著しい教育環境に追従出来る、懐の深い空間づくりを目標とした。

多目的ホールを諸室の中心に配置し、吹抜けを設けることにより、動線上も空間的にも施設の核空間とした。極力、木造間仕切を用いることにより、将来への対応と、木の香りを内部空間に満たすよう意図した。

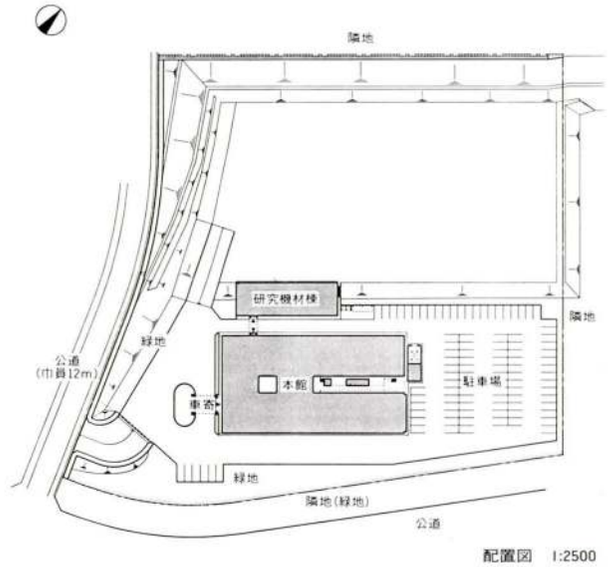
久斗小学校の歴史は、木の香りと瓦屋根に継承され、新しい物語りは暖かな多目的ホールから語られる。子供達だけでなく地域の人々に対しても身近かな、コミュニティ施設としていつまでも親しまれることを願いたい。

(瓦田伸幸、高木耕一／東畑建築事務所)

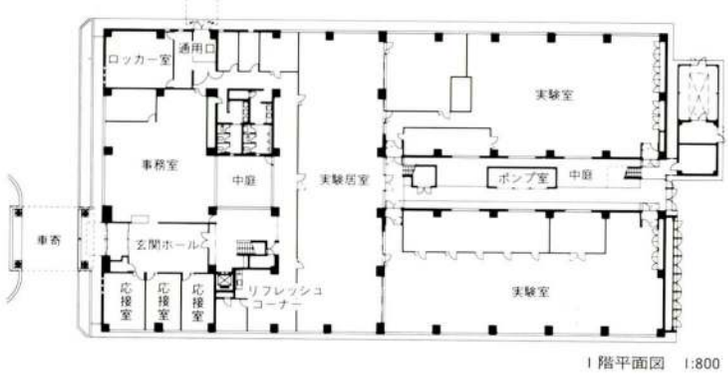


2階平面図　1:1000

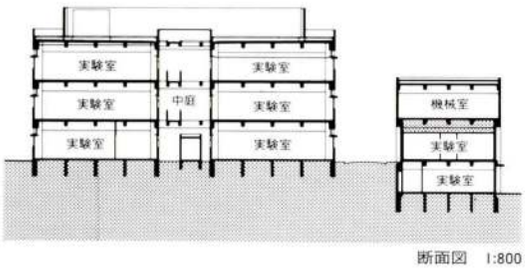
外観　南東面全景



配置図　1:2500



1階平面図　1:800



断面図　1:800

メニコン総合研究所

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　清水建設名古屋支店

電気設備	川北電気工業
衛生・空調設備	大気社
実験設備	ヤマト科学
場所打杭工事	ヨーコン
石工事	矢橋大理石
金属工事	三友建材
アルミ製建具	不二サッシ
鋼製建具・シャッター	東洋シャッター
ステンレス製建具	紅雲製作所
外壁吹付工事	阪神興業
舗装工事	日本道路
昇降機設備	松下電器産業
排水処理設備	壽化工機

コンタクトレンズ製造・販売の最大手の株式会社メニコンの総合研究所であり、レンズの素材の開発や装着の安全性の試験から加工機器の試作研究まで行われる研究開発施設である。名古屋の北部、春日井市の丘陵地帯に大規模に開発された高蔵寺ニュータウンの一角の産業誘致地区に建設された。緑豊かな良好な居住環境と調和しながら、使い易い効率的な施設とすることが課題であった。

敷地はそのほぼ中央で東西に二段に造成されており、東側の上段に今回、研究所を建設し、西側の下段は将来の関連施設用地とした。

研究所は、本館と研究機材棟の二棟で構成した。本館は研究部門毎に階を分け3階建とした。各階とも中央に研究者のデスクワークのための実験居室を設け、北側に実験室を隣接配置し、南側は研究所全体の事務管理共用部門とした。実験室の中央には広い中庭を設け、排気、排煙はもとより、建築設備、実験設備の竪配管・ダクトのスペースとして積極的に活用し、配管類の更新・変更がし易く、かつ、外壁の露出配管により景観を損なうことがないようにした。また、実験室内も直天井として実験設備のレイアウト変更への対応のし易さを考慮した。実験居室と実験室の間仕切りはガラス貼りとし、常に内部の様子が確認できるようにし、かつ、万一の事故に備えて防火シャッターを設置し、事故の波及を阻止する構造とした。研究機材棟は法面を利用して地下1階、地上2階建とし、1階には動物実験室を設け、地下1階は将来予定の関連施設への転用を可能にしている。

建物周囲には充分な空地を設け、敷地面積の約3割の緑地を確保し、また屋外の設備機器は防音壁で囲い、良好な居住環境との共存に配慮した。

(鈴木慶智／伊藤建築設計事務所)

所 在 地　愛知県春日井市高森台5丁目1番地10
敷地面積　20,383.50㎡
建築面積　2,259.22㎡
延床面積　6,184.23㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1994年9月～1995年9月
最 寄 駅　JR中央線高蔵寺駅
撮　　影　センターフォト



玄関ホール



食堂



▲実験室



中庭



▼実験居室

豊橋市民病院

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　診療棟　鹿島・西松・三菱・オノコム・中央建設共同企業体
　　病　棟　大成・鴻池・不動・神野・杉原建設共同企業体

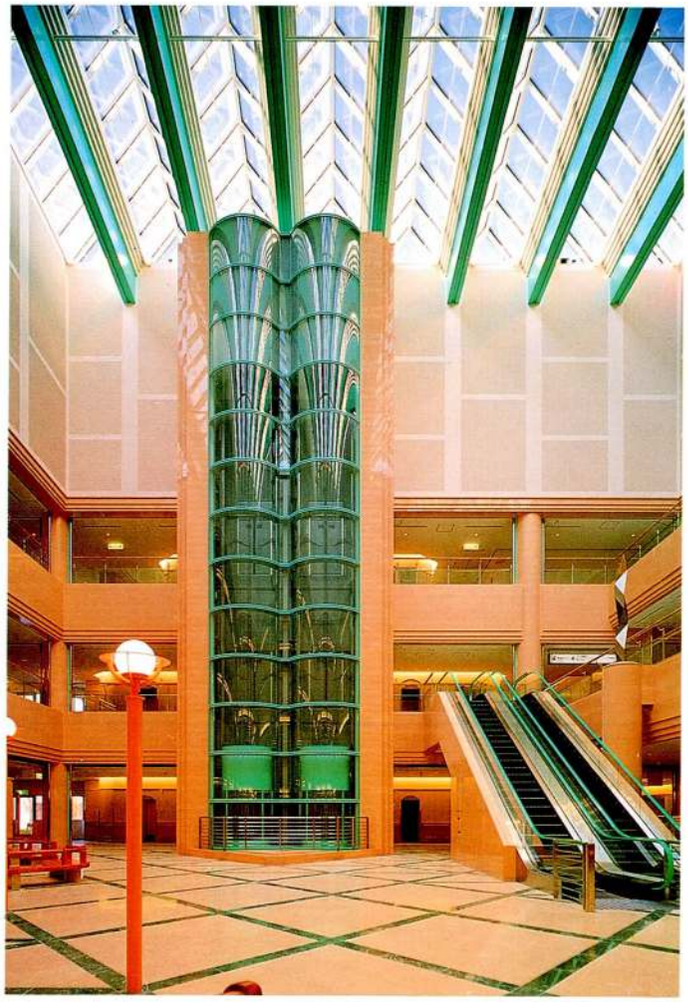
現豊橋市民病院と桜ヶ岡病院を統合して新しい敷地に全面移転新築したものである。敷地は9.3haと広く、この広さ、形状を配慮しながら、建物配置計画としては、将来に互っての有効利用を図り、病院建築に求められている医療環境の形成に努めた。

設計上のポイント

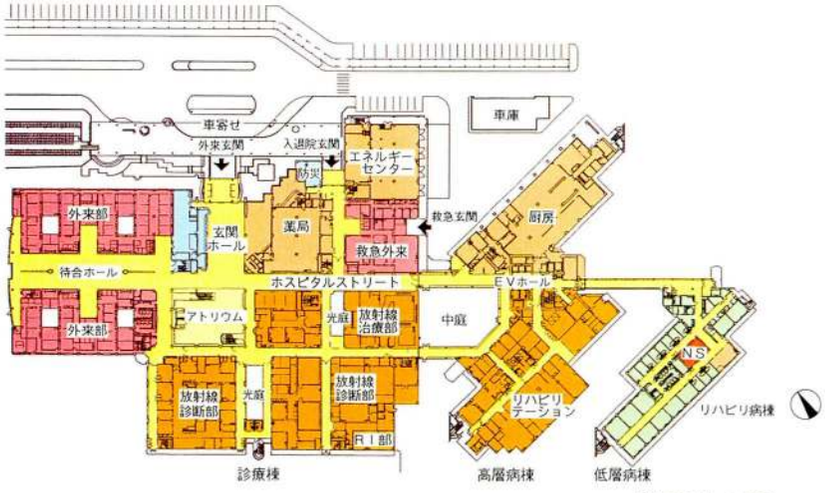
- ●建物として、機能上あるいは構造的に性格の違う、診療棟と病棟は、別棟の建物とした。
- ●診療棟は平面的に広がりのある、患者にとって利用しやすい形態とし、低層棟（3階建て）とした。
- ●病棟は最も環境の良い位置に南向きを主方向として配慮した。
- ●巾の広い直線的なホスピタルストリートを、病院全体を貫いて設け、病院全体の動線の軸として、各部門を分かりやすく、機能的に配置した。
- ●診療部門の中央に自然光を彩り入れるアトリウムを設け、明るいアメニティー空間とし、診療各部門間の位置関係が一目で分かりやすくする目印とした。

やさしい木質系のインテリアと間接照明

外来診療部の待合ホール、メイン通路等は、訪れる患者さんに、やさしさを感じてもらうために、腰壁、手摺、受付カウンター等、木質系の材料を多く採用した。壁や天井を照らす間接照明と相まって、やわらかい雰囲気を醸し出した。　（石田　好・浅野正芳／日建設計・名古屋）



展望エレベータ、エスカレータのあるアトリウム



1階平面図　1:3000



基準階平面図　1:3000



壁画のある玄関ホール



病院全体を貫くホスピタルストリート



正面アプローチから見た外来診療棟、病棟



大きく広い正面玄関庇



流れる池のある正面玄関前庭

所 在 地　豊橋市青竹町字八間西地内
敷地面積　92,299.25㎡（看護専門学校敷地除く）
建築面積　17,168.63㎡
延床面積　55,361.45㎡
構造規模　診療棟　RC、SRC、3F、P1
　　病　棟　SRC、RC、9F、P2
ベッド数　920床
工　　期　1993年6月～1995年11月
最 寄 駅　JR東海道本線豊橋駅
撮　　影　SS名古屋



配置図



南側の環境の良い位置の病院外観

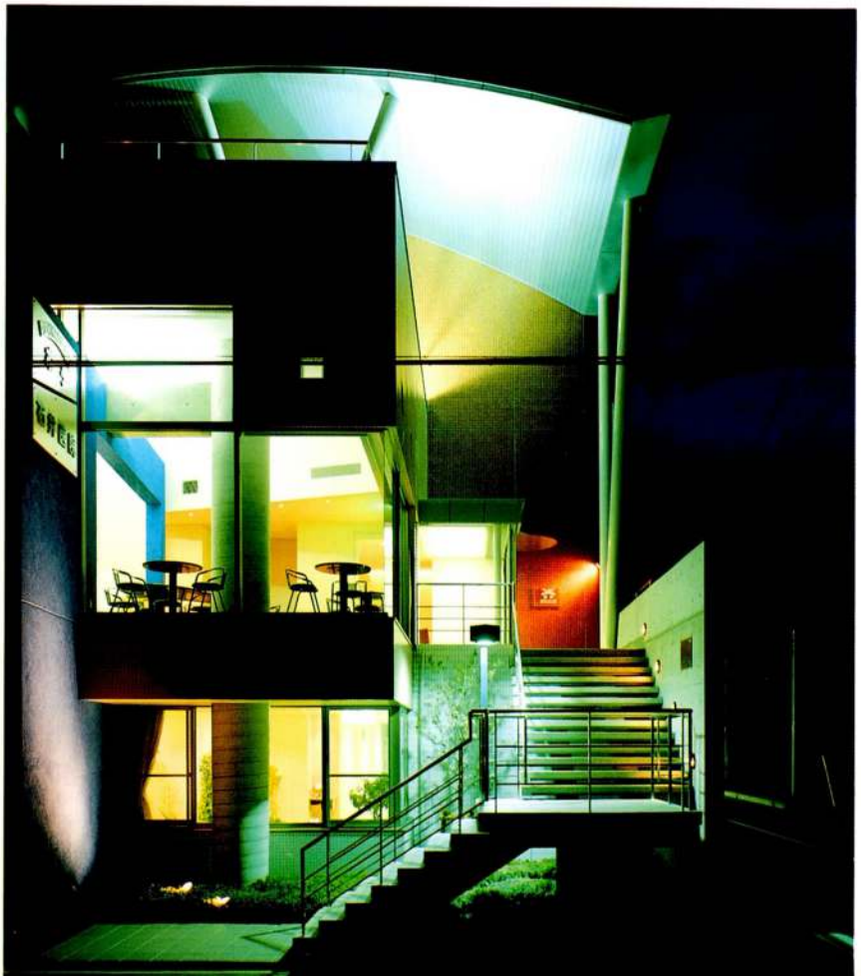


外観　南面

石井医院・疾病予防運動施設

設計施工　大成建設名古屋支店

所在地　浜松市積志町1651番地の2
敷地面積　1,993.12㎡
建築面積　573.82㎡
延床面積　1,453.93㎡
構造規模　RC、一部S、3F
工　期　1993年11月～1994年10月
最寄駅　JR浜松駅
撮　影　センターフォト



正面夜景▶

浜松市郊外にある石井医院は、長年の間、地域に密着した医療で評判の高い内科医院である。今回、健康増進施設を併設のうえ建替えすることで、全国初の疾病予防運動施設として、厚生省の認可をうけた。

健康増進施設とは、予防医学の見地から、エアロビクス・トレーニングマシン・プールなどを使う有酸素運動療法により中高年の成人病を早期に発見・治療する施設である。

1階は従来からの診療所に加えて、有酸素運動療法室・エアロビクス・水中トレードミル等を新たに設け、運動療法による治療を行う。2・3階は健康な人及び治療により健康を回復した人の健康維持と、再発防止のための会員制健康増進施設で、ジム・スタジオ・プール等のほか、健康食を提供する成人病予防食堂や、調理指導をする料理教室を備えている。

建築としては、中高年対象の施設ではあるが、あえて落ち着きを求めるより、若々しさ・健康・明るさといったキーワードを、直接デザインコンセプトとし、明るく開放的なエントランス、豊かな空間の成人病予防食堂、カラフルな色彩、打放しのモダンさ、膜屋根の軽快さで、表現している。

一地方の小病院ではあるが、この施設は成人病の早期予防により、医療費の増大を防ぐことと、深刻化する病院経営に一つの方向性を示した点で、当初から注目を集めており、厚生省の進める予防医学普及のフロンティアとして、大きな期待のかかる施設である。

(長谷部　等／大成建設設計部)



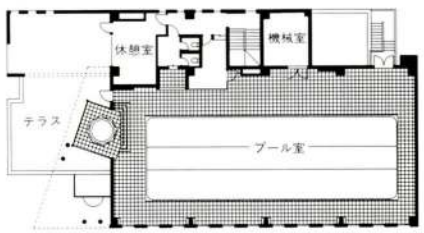
3階プール室



2階成人病予防食堂



2階ジム・体力測定室



3階平面図　1:600



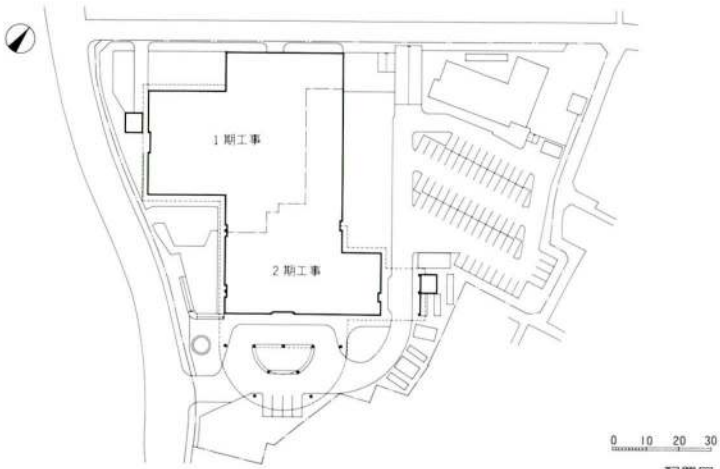
2階平面図　1:600



1階平面図　1:600



南側外観



配置図

松阪市民病院

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　清水建設・日本土建・北村組建設工事共同企業体

「今、空は悲しいまでに晴れていた。そしてその下に町は甍を並べていた。白亜の小学校、土蔵作りの銀行、寺の屋根、そして其処此処西洋菓子の間に詰めてあるカンナ屑めいて、緑色の植物が家々の間から萌え出ている。」
（梶井基次郎「城のある町にて」より）

上記の文字碑が、松阪市街を見おろす松阪公園に建っており、松阪の町の景観をイメージさせてる。この公園に隣接した松阪市民病院の全面建て替えは、そのイメージをそのまま表現した建物とした。具体的には、病棟の屋根は、甍の並を表現してグレーの金属板の瓦棒葺き、外壁は白い磁器質タイル、外壁の腰壁は、土蔵造りのなまこ壁をイメージした濃いグレーのタイルとした。松阪市民病院の現地での全面建て替えは、病院敷地に隣接した用地を約3,000㎡買収したことによって可能となった。建て替え計画は、以下の順序とし、新築工事を大きく２期に分けた。

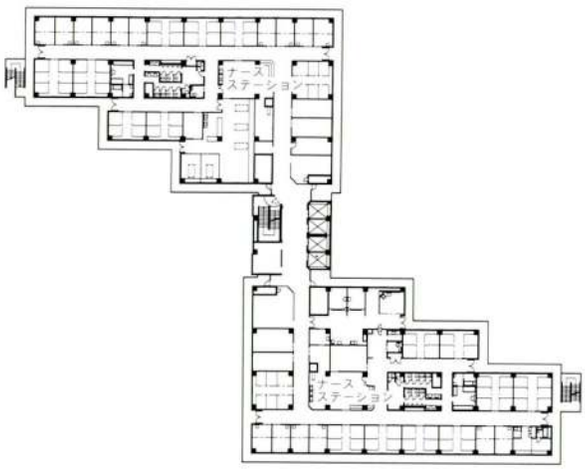
①新たに確保された用地に病院の約半分を建設
②旧病院の半分と接続して病院機能を確保
③旧病院を半分解体
④残りの病院施設を建設し病院本体を完成
⑤旧病院の残りを解体し、駐車場を整備

建物構成は、敷地の広さにゆとりがあまりないので、１フロア２看護単位の病棟の下階に他の部門を重ねるコンパクトなものとした。また、エレベータとメイン階段を病院全体の中心の位置に集中し、各所からの動線を短くすると同時に、分かりやすい病院となるよう心がけた。また、最上階のエレベータ機械室の横には、松阪市や鈴鹿山脈を望む展望室を設け、患者のための心やすらぐアメニティ・スペースとした。

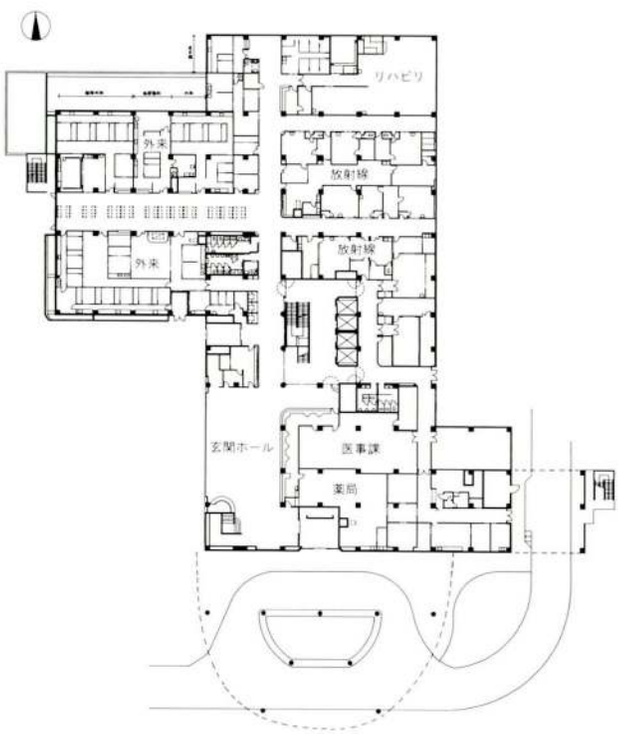
（石田　好・野崎庸之／日建設計・名古屋）



◀南側上空より



5階平面図　1：1200



1階平面図　1：1200



玄関ホール



▲薬局待合

▼ピロティ下の玄関廻り



所 在 地　三重県松阪市殿町1550番地
敷地面積　14,149㎡
建築面積　 5,684㎡
延床面積　19,131㎡
構造規模　SRC、B1、6F、P2
工　　期　1990年11月～1995年3月
最 寄 駅　近鉄線松阪駅、JR紀勢本線松阪駅
撮　　影　SS名古屋



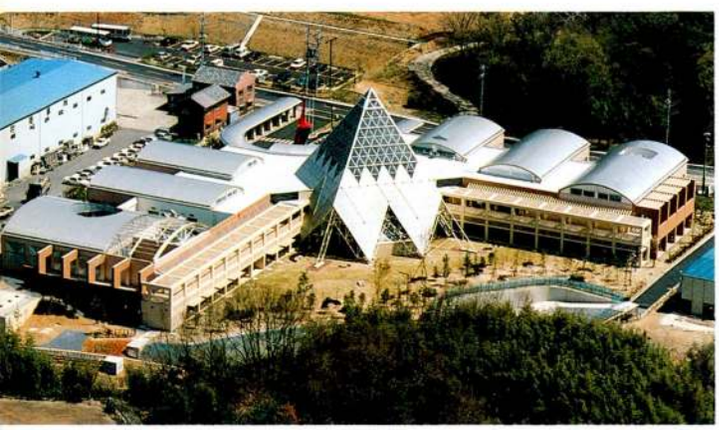
エントランス外観

春日井市福祉の里　レインボープラザ

設計監理　春日井市建設部施設課　梓設計名古屋支社
施　　工　建　　築　松村・岐建木村・丸彦渡辺JV
　　電　　気　住友・春日井電気JV
　　機　　械　新菱・日比谷・大冷JV
　　搬送設備　日本エレベーター製造
　　余　　熱　日立造船

春日井市は、名古屋市の北に隣接する市で、かつて市北部の高蔵寺地区に、大規模なニュータウン開発を行った事で有名である。その当市で、高齢化時代に対応して、「春日井市福祉の里」構想が、10万㎡の地区を舞台に進行している。その構想では、エコロジーをテーマに老人から子供まで市民各層が交流する過程で相互理解を深め、高齢者が肉体的・精神的・社会的健康を得る事を目標にしている。
施設は、ピラミッド状のアトリウムを中心に通路が西と南に延び、浴室・トレーニングルーム・レストラン・和室・会議室といった諸室が、通路に面して配置されている。諸室を通路に対してくし型に配置し、中庭をとることにより自然の通風採光を配慮し、自然環境を十分に生かせる計画とした。通路には各所に休憩コーナーが設けてあり、コミュニケーションの場づくりであるとともに、高齢者が休みながら施設内を移動できるよう配慮されている。又、通路からトレーニングルーム等の部屋の様子が良く見える様に計画し、行き交う人々が新たなライフスタイルをつかめるよう配慮されている。アトリウムは、森の中の木漏れ日の降りそそぐ広場のイメージでデザインされ、人々がリラックスして憩い、集い、又、様々な催物が行えるよう計画されている。又、夜間はライトアップすることにより、この施設のランドマークとしての機能を果たしている。通路の外側にはサンデッキを設け、夏の日射しを遮るとともに、建物と屋外をつなぐ半外部空間として、福祉の里全体の屋外活動を支えるよう計画されている。

（木下正裕／梓設計名古屋支社）



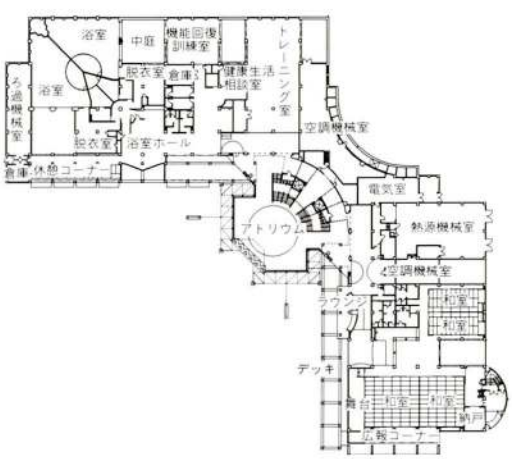
アトリウム外観

所 在 地　愛知県春日井市神屋町字引沢
敷地面積　11,342.68㎡
建築面積　3,804.81㎡
延床面積　6,005.21㎡
構造規模　RC、一部S、2F
工　　期　1993年11月～1995年3月
最 寄 駅　JR中央線高蔵寺駅

西側外観



2階平面図　1:1500



1階平面図　1:1500

浴室内観▶





全景

サンデルタ香良洲

設計監理　黒川建築事務所
施　　工　日本土建

所 在 地　三重県一志郡香良洲町2147
敷地面積　16,834.38㎡
建築面積　3,675.16㎡
延床面積　3,582.64㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1993年9月～1994年8月
撮　　影　プロフォートコバン

夜景



このサンデルタ香良洲（香良洲町総合福祉センター）は、デイサービス・老人福祉・保健センター・図書館・多目的ホール（400人）・研修施設を最大限に、機能的・有機的にまとめた複合施設として建設されました。

香良洲町は、伊勢湾に面し雲出川に挟まれた三角洲であり、人口はおよそ５千人の比較的こじんまりした町で、近くには良好な自然環境としての松林や、香良洲神社の杜があります。敷地は、南北に通る公道により東西に分れ、東側敷地に、メイン施設を配置し、この自然環境に隣接して有効に一体化を図っています。

フォーラムは香良洲神社の杜を借景として取り込み、施設群により三方を囲われた屋外のコミュニティ広場として位置づけています。

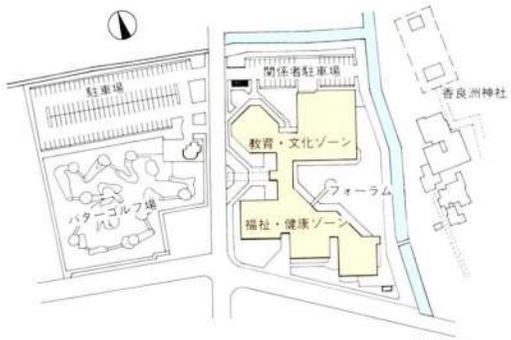
東側敷地の北・東側水路沿いは、インターロッキングブロックにより舗装された遊歩道により施設群の外廻りの回遊性を確保し、また、水路にブリッジをかけて隣接する香良洲神社との連続性をはかり、往来も可能にしています。

また、複合施設のそれぞれの用途ごとに分節化を図り、小単位の建築群で、一つの建物を構成し、全体として、街並みを形成する施設計画としています。(開口部・軒のまわりのデザイン等は統一し、屋根の形状にバリエーションをもたせ、トップライト・妻壁をシンボリックにあつかう。また、建物まわりを植栽帯にて囲み、周辺の環境に調和させる)

デイサービス・老人福祉・保健センター部門からなる福祉・健康ゾーンと、図書館・多目的ホール部門からなる教育・文化ゾーンは、違った質のサービスが求められ、機能面及び、管理面から互いに分離すべきものと考え、中央のエントランスにて南北に分けてゾーニングしています。ロビーは、この両ゾーンをむすびつけ、外部空間のフォーラムを囲みこんだコミュニティホールとして、位置づけています。

このように共用空間を最大限に確保し、子供から老人にいたるまで全ての世代の交流が、自然に図れるよう各室と開放的につないでいます。

（森　鉦一／黒川建築事務所）



配置図


多目的ホール


ホワイエ



エントランス

外観　東面(正面)



航空写真▶

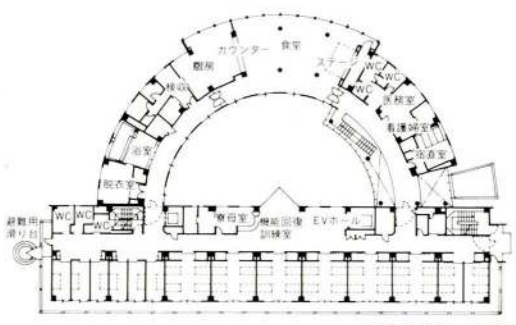
特別養護老人ホーム藤美苑

設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　戸田建設

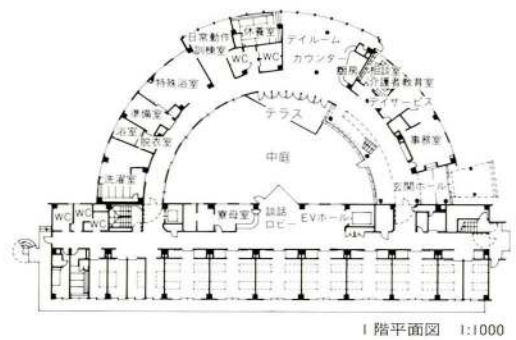
所 在 地　名古屋市千種区鍋屋上野町字北山3515
敷地面積　3,206.60㎡
建築面積　1,406.62㎡
延床面積　3,814.87㎡
構造規模　RC、B1、3F
工　　期　1994年9月～1995年7月
最 寄 駅　地下鉄東山線星ヶ丘駅
撮　　影　センターフォト

名古屋市の東部丘陵地の住宅地内に建つ、定員80名、ショートステイ20名と市のデイサービスセンターを併設する特別養護老人ホームである。
北下りの傾斜地で三角形の敷地条件を生かし、南側に矩形で3階建ての居室部分、北側に半円形で2階建て（一部地階）の共用部分を配置している。
共用部分には主に1階はデイサービス、2階は食堂、3階は屋上庭園とし、各階で中庭を中心に一周できる平面としている。茶屋ヶ坂の丘の途中に建つため眼下に広がる市の中心部の眺めが楽しめる。
居室部分は中央に寮母室と中庭に張り出した三角形の談話ロビーを設け、自然に人が集まって来るように計画した。
半円形の中庭は苑のシンボルでもある藤棚やデッキ、せせらぎ、車イスでも水にさわれる泉があり、入所者の屋外での憩いのスペースとしている。
また、地域に開かれた施設を意識し、廊下の東端を前面道路や公園が眺められるデイスペースとしたり、玄関ホールを2層吹抜とし、道行く人々からも苑の中の様子がうかがい知れる仕掛けとしている。これが一般の人々に老人ホームの一端でも理解していただくきっかけとなれば幸いです。

（中村哲士／安井建築設計事務所）



2階平面図　1:1000



1階平面図　1:1000


2階より中庭を見る（夜景）


1階4人室

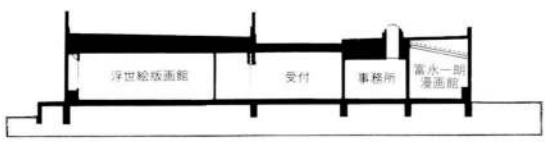

2階食堂

外観　正面

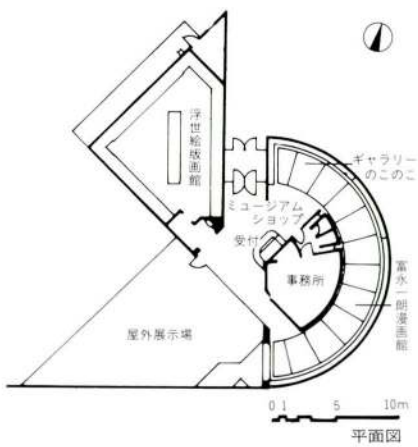
かめやま美術館

設計監理　KAJIMA DESIGN NAGOYA
施　　工　鹿島・堀田建設共同企業体

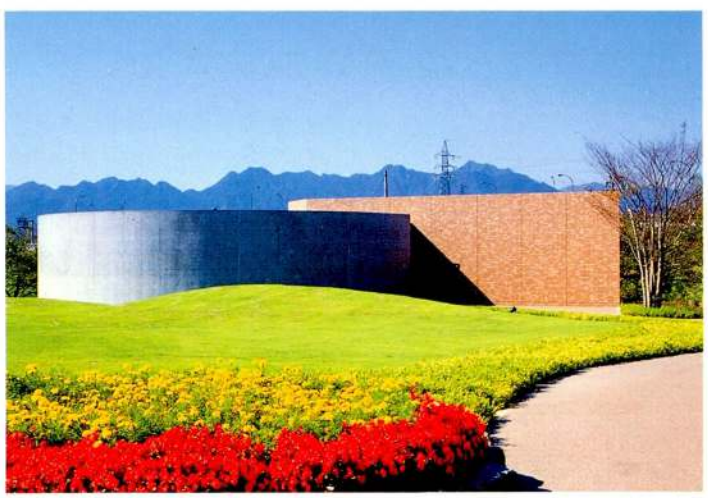
所 在 地　三重県亀山市太岡寺町1170
敷地面積　13,400.085㎡
建築面積　　310.800㎡
延床面積　　310.800㎡
構造規模　RC、IF
工　　期　1993年12月～1994年7月
最 寄 駅　JR関西本線亀山駅
撮　　影　SS名古屋



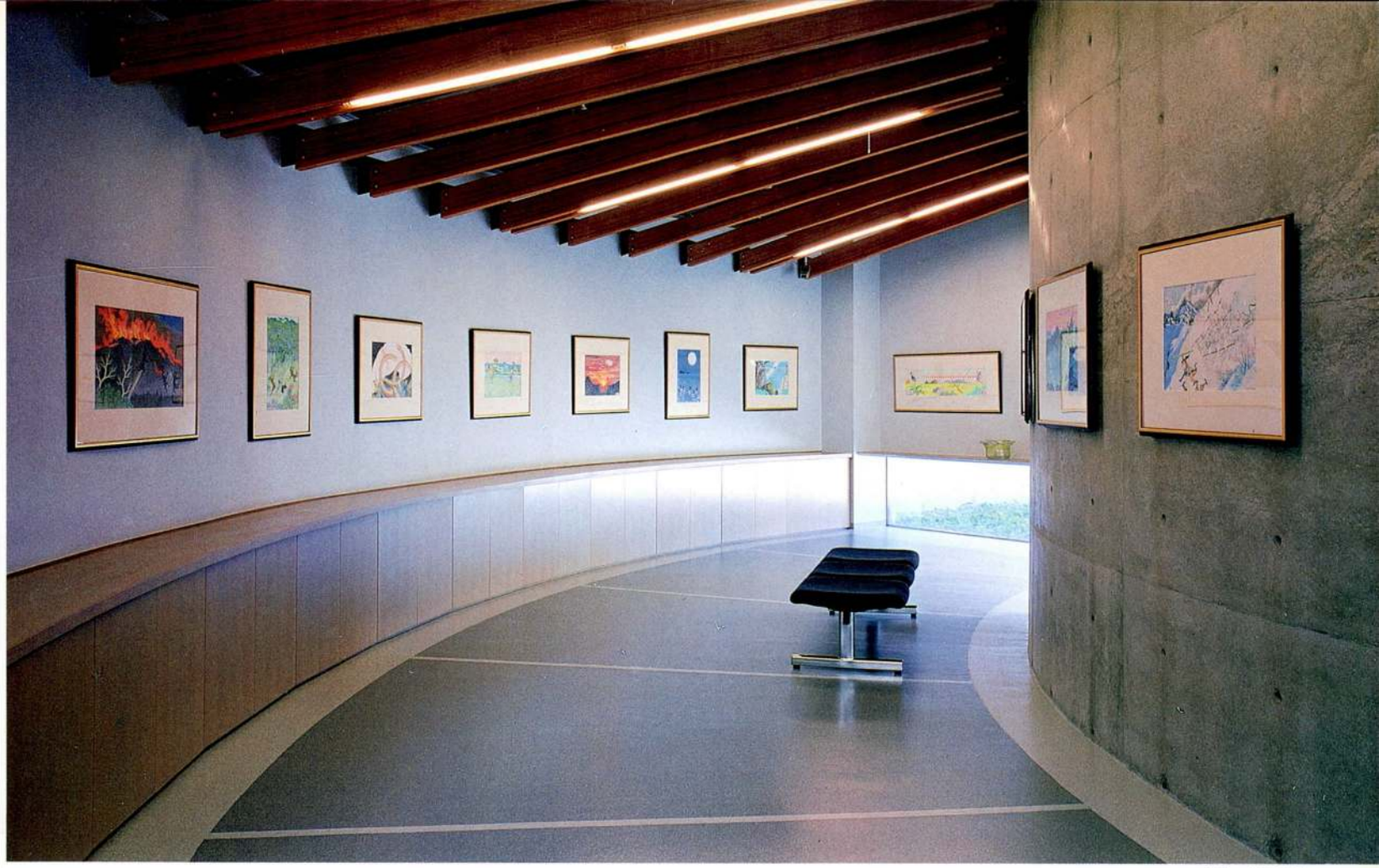
断面図　1:500



平面図


外観　東面

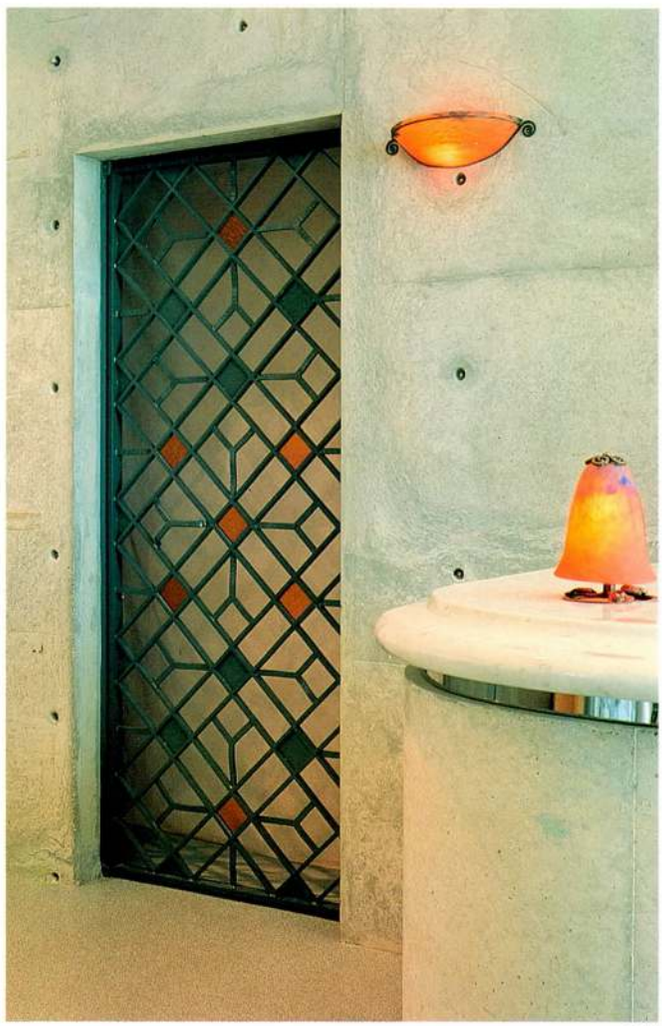

夜景



富永一朗漫画館

この美術館は、「ひととのふれあい・文化とのふれあい」をテーマとした新しい形の複合型ドライブイン：亀山宿あんぜん文化村の一施設として計画されました。文化村は、レストラン・売店テイクアウト・美術館・ガソリンスタンドで構成されています。美術館を、レストランと独立させて計画することにより、芝生の前庭も美術館の屋外展示場として生かすことができます。レストランからは、美術館が芝生の上のアートワークのように見えます。

美術館には、浮世絵版画館、富永一朗漫画館、ギャラリーの３展示室があります。浮世絵版画館は広重の東海道五十三次をメインに、富永一朗漫画館は「女忍」シリーズ（色鉛筆画）60余点を展示します。またギャラリーは地域文化の発展にと無料開放しています。外観は、版画と漫画という２つの要素がはっきりとわかるように、それぞれを江戸文化と現代文化の対比としてとらえ、「直線と曲線」「タイルとコンクリート」という形態（プランニング）と素材感（外装）の違いで表現しました。レストランより女忍者の絵が彫り込まれている石垣に沿ってゆっくりとアプローチします。芝生のマウンド越しに見る建物は、鈴鹿の山々を借景として自然の中で調和しています。　（篠田秀樹／KAJIMA DESIGN NAGOYA）



受付



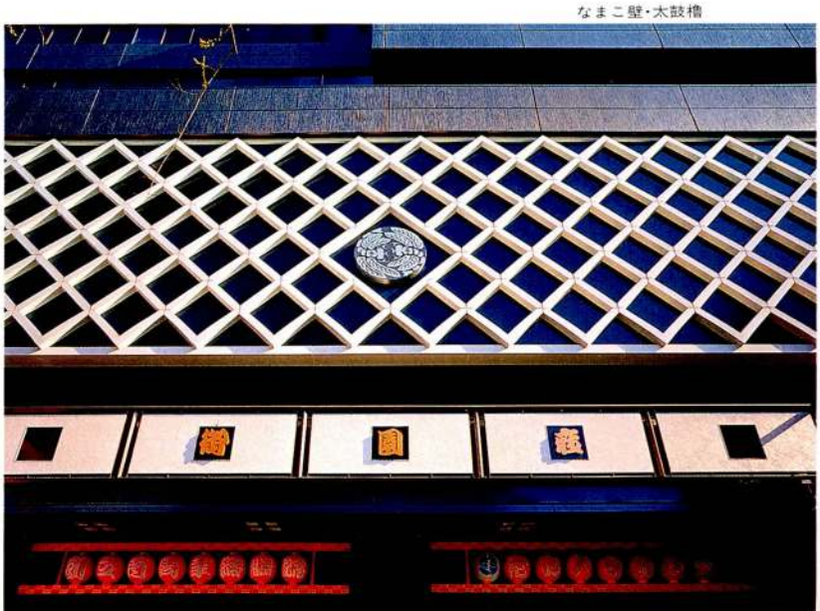
ギャラリーのこのこ

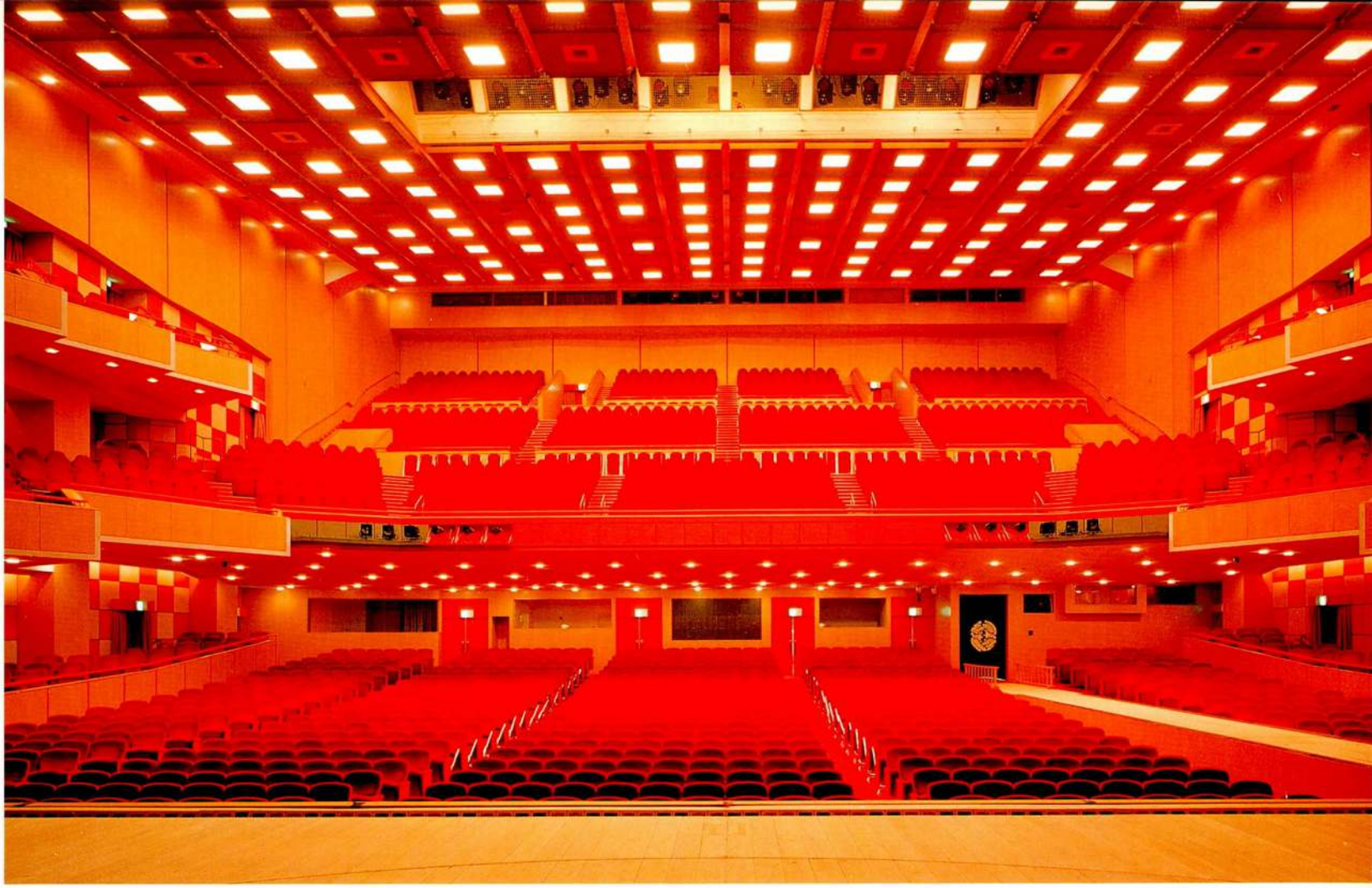
正面外観

正面玄関



なまこ壁・太鼓櫓





劇場内部

御園座(リニューアル)

設計監理　清水建設一級建築士事務所
　　フィールドフォーデザインオフィス
施　　工　清水建設

所 在 地　名古屋市中区栄1-6-14
敷地面積　4,569㎡
建築面積　4,300㎡
延床面積　32,163㎡
構造規模　SRC、B2、8F、P3
工　　期　1993年12月～1995年３月
最 寄 駅　地下鉄東山線・鶴舞線伏見駅
撮　　影　SS名古屋



２階ロビー

名古屋唯一の伝統芸能の殿堂〝御園座〟は、芸所名古屋の中心部伏見に位置する明治29年に創立された老舗の劇場である。

８階建ての事務所および店舗で構成されるこの複合劇場施設は、昨年100周年を記念し内外装の大改修を行った。

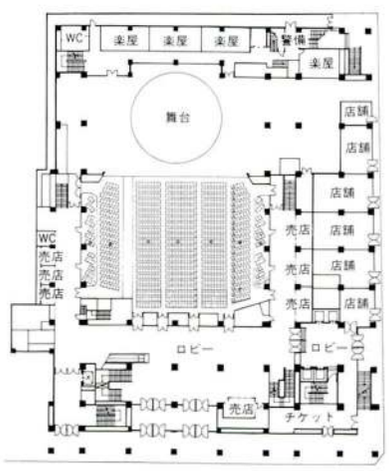
改修計画は、伝統に培われた御園座の雰囲気を大切にしつつ、21世紀を指向した新しい感覚を盛り込んだ〝モダンな和風〟で構成し、明るく華やかで格調高い劇場とすることを狙いとした。

タイル貼りであった外装は、テクスチャーのあるダークブラウンのアルミパネルに変え、１階まわりには黒御影石に伝統的な提灯と灯籠をモチーフとした朱色の照明器具をアクセントとして配し、ステイタス、風格そして親しみをより強く感じさせる劇場への変身を図った。

劇場内部は客席数を減らして座席を大きくし、床の勾配を変えることで、他の劇場に比べゆとりのある見やすい劇場とした。インテリアは、白木と朱色のこれまでの基本構成を守りつつ、より華やかな〝めりはり〟のあるデザインにより、モダンな和風を表現した。

ロビーも、歌舞伎の上演できる劇場として、朱色のドアや伝統的な亀甲模様、格天井により、和風感覚の中に華やかさを演出した。

(馬場弘一郎／清水建設設計本部)



１階平面図　1:1200

北日本スクエア（富山市安住町2番街区優良再開発建築物整備促進事業施設）

設計監理　日建設計・三四五建築研究所設計共同企業体
施　　工　佐藤工業・辻建設共同企業体



優良再開発制度にもとづき、街区に新聞社社屋・ホール・ギャラリー・貸事務所の一体整備を行った複合施設。敷地は富山市内の官庁、業務施設が集中する中心区にあり、通りを挟んで市民の憩いの場である県庁前公園に面して、恵まれた立地条件にある。

施設配置は、中央に設けた公開空地を囲む形で、北、南、中央館とし、主として南館を新聞社の本社社屋に使用している。北館2階には、講演会やピアノコンサート等に利用できる〝北日本新聞ホール〟（250席収容）や中央館1階には展示ギャラリーを設け、県民に幅広く利用される魅力ある施設づくりとした。

外装は、公園の緑を映す全面ガラスカーテンウォールとし、旧社屋のイメージを継承する物見塔を頂部に設け、新聞社のアイデンティティを表現した。

公開空地の環境オブジェは、新聞社にふさわしい〝NEWS〟をテーマとし、5つのオブジェにより、中心と4つの方位を示し、情報発信基地のイメージを表現した。

（高山順行・葛原定次／日建設計・名古屋）

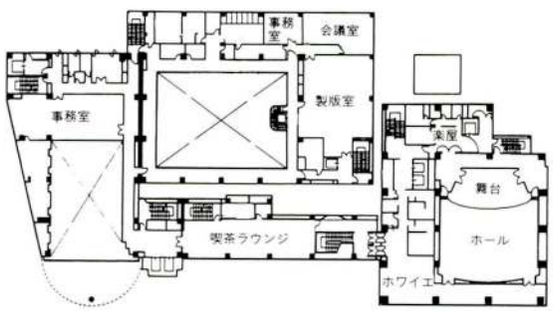
所 在 地　富山市安住町2番14号
敷地面積　4,497.95㎡
建築面積　2,025.74㎡
延床面積　17,801.69㎡
構造規模　SRC、B2、10F、P2
工　　期　1992年12月～1994年6月
最 寄 駅　JR北陸本線富山駅
撮　　影　SS北陸



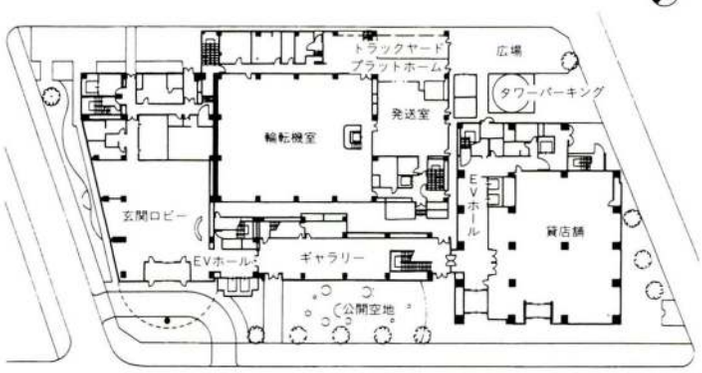
全景



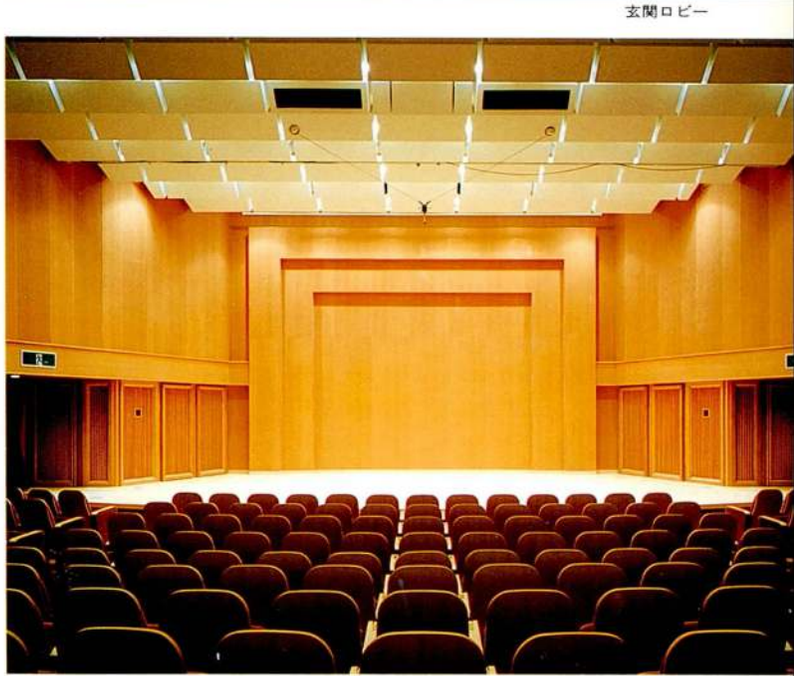
玄関ロビー



2階平面図　1：1200

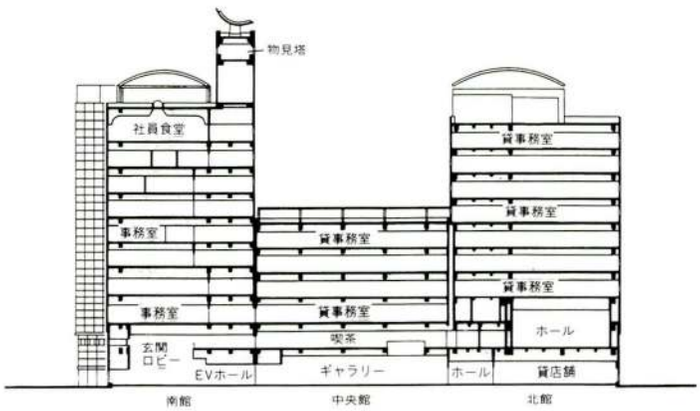


配置図・1階平面図　1：1200



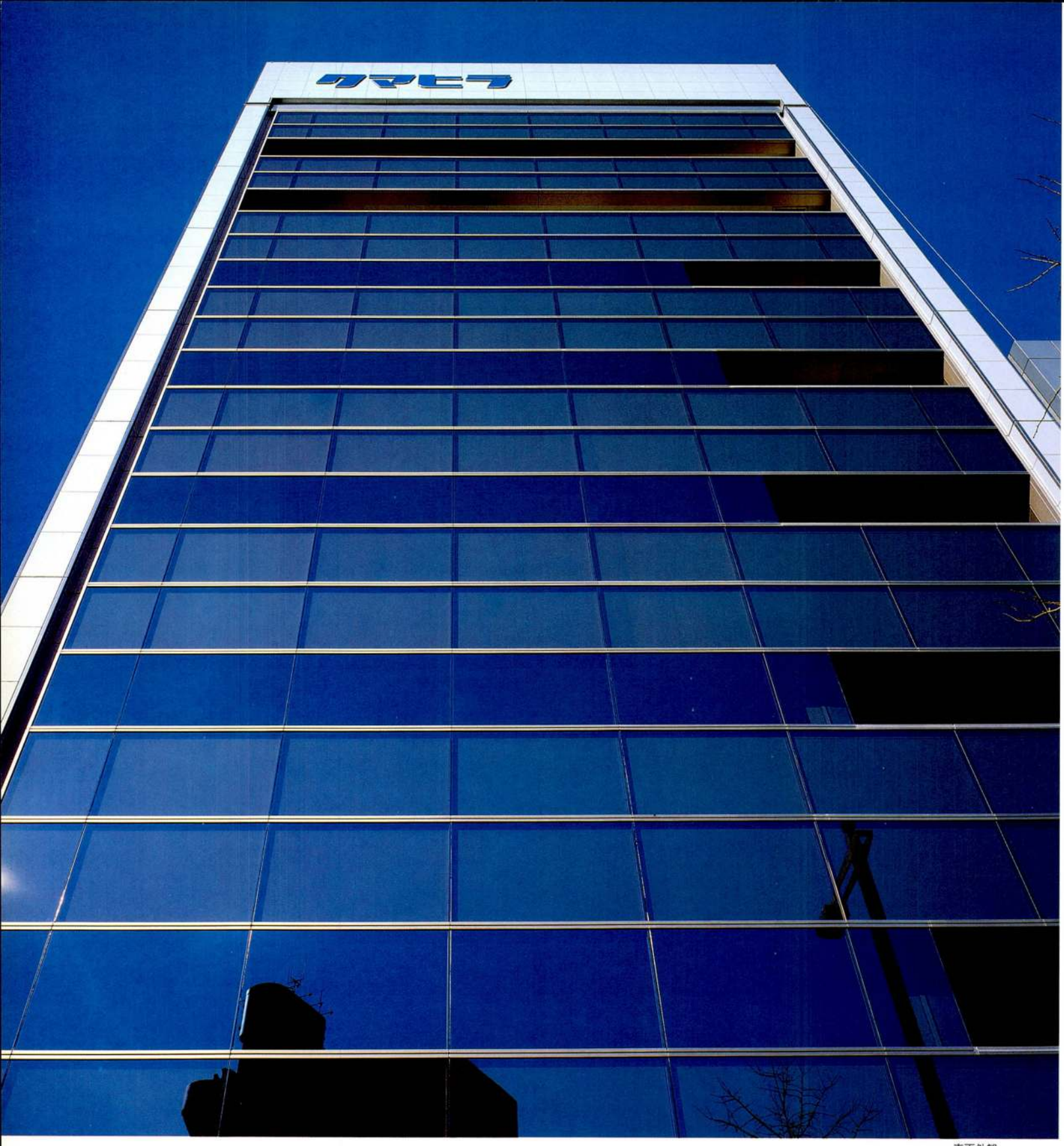
▲北日本新聞ホール

環境オブジェ "NEWS" ▼



南北断面図　1：1200





南面外観

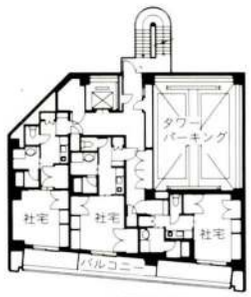
株式会社 クマヒラ名古屋ビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　鴻池組名古屋支店
　　電　　気　マルエム商会
　　衛生・空調　足立工業
　　機械駐車　石川島播磨重工業
　　昇 降 機　三菱電機

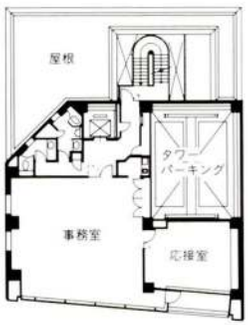
金庫扉や耐火金庫をはじめ各種セキュリティ設備で業界をリードする株式会社クマヒラの東海支社の社屋であり、オフィス、駐車場及び社宅により構成されている。名古屋駅から東に伸びるメインストリート・桜通りに面して建設された。この付近は地下鉄も開通し交通アクセスに優れビジネス地区として発展が著しいが、幹線道路から一歩街区内に入るとまだ住宅が多く、そのため周辺への日影の影響に配慮しつつ、複合用途を整理して一つの建物としてまとめ、快適で安全な執務・居住空間とし、かつ、省エネルギーとなる建物とすることが設計のポイントであった。

1階に商品展示スペースを兼ねたエントランスロビー兼オフィスとビル玄関、タワーパーキング乗入口、テナントとして金融機関のキャッシュサービスコーナーを、2～6階にオフィス、7階に単身者用のワンルーム形式の社宅、8階に家族向けの3LDK社宅を配置した。日影規制のため基準階は北側部分が不整形な平面形となったが、不整形部分を有効に利用し共用スペースとし、執務スペースは採光と眺望がえられる南面に、出来るだけ整形に確保した。また、建物のエネルギー源は安全性の点から全電化とした。テレビインターホンと連動した電気錠システムや鍵管理システムあるいは無人化のエントランスロビーのITVカメラ監視システムなど、建築主が取り扱うセキュリティ設備や関連商品を採用して、建物自体をショールームとした。正面ファサードは結晶化ガラスと熱線反射ガラスのカーテンウォールを使用して精緻かつ軽快な雰囲気をだし、時代の先端をいくハイテク企業の顔を表現した。

(鈴木慶智／伊藤建築設計事務所)



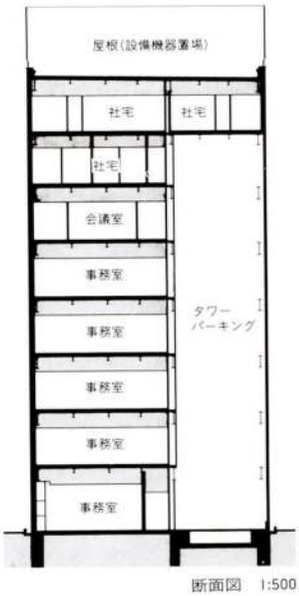
7階平面図　1:500



2階平面図　1:500



1階平面図　1:500



断面図　1:500

所在地　名古屋市東区筒井2-1246
敷地面積　355.26㎡
建築面積　299.71㎡
延床面積　1,786.87㎡
構造規模　S、8F
工　期　1995年6月～1996年3月
最寄駅　地下鉄桜通線車道駅
撮　影　加藤敏明



南面全景


▲事務室

社宅▼


東桧ビル（NEC中部ビル）

設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市中区錦1-17-1
敷地面積　2,553.84㎡
建築面積　1,813.64㎡
延床面積　23,367.31㎡
構造規模　RC、SRC、S、B2、12F、P1
工　　期　1993年6月～1995年3月
最 寄 駅　地下鉄東山線伏見駅
撮　　影　河野　豊、車田　保



北西面夕景

北面外観



当計画は、土地信託方式によるテナントオフィスビルであり、コンピュータ関連の情報最先端技術を持つ企業が、中部圏の業務拠点として一括入居したものです。

敷地は、名古屋の中心部伏見を東西に横断する錦通の南側に接し、都市景観の形成上、重要な位置を占めています。そこに立つオフィスビルの設計にあたり、1.都市環境2.内部環境3.情報化対応環境　の3つの「環境」への寄与、向上に主眼を置きました。

ビルの外観として、複層する都市の中でのさわやかさを求め、透明感あふれるインテリジェントオフィスをめざしました。その透明感の高い外装は、情報最先端企業の先進性を外部にあらわし、都市の中でのランドマークとして、都市景観の形成に寄与する事を意図しました。

オフィス内部は、CFT柱によるスパン18mの無柱空間とし、高さ2400㎜の大型サッシュの採用により、自然光を最大限に室内に取り込み、開放的で気持ちのよい執務空間としています。また、サッシュ部に、中間期はここちよい風を室内に導入したり将来空調増強接続のできる機構を施し、多様性への配慮を行いました。

共用部である、エレベーターホール、トイレ、リフレッシュルームや階段室にも自然光を積極的に取り入れ、省エネと快適性の向上を図りました。

また、今後も急速に進むであろう執務環境の変化に伴う床下配線量の増大とルート変更に対応するため、全館にわたって、高さ100mの中空鉄板コンクリート充填式OAフロアを採用しました。

以上により、次世代の多様性に対応可能な、快適性と利便性の高いオフィス空間を実施しました。

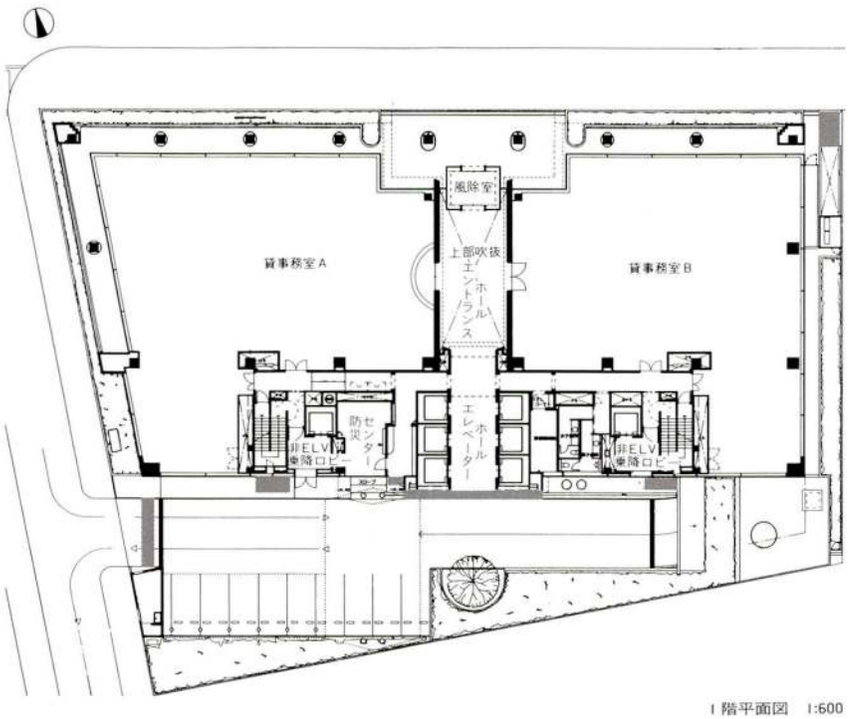
(早川増彦／竹中工務店設計部)



風除室正面



エントランスホール



1階平面図　1:600



基準階エレベーターホール

外観　東南面

中部花王販売㈱岐阜支店

設計施工　鴻池組名古屋支店

所 在 地　岐阜市六条江東２丁目5-2
敷地面積　1,976.16㎡
建築面積　584.38㎡
延床面積　782.94㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1994年９月～1995年２月
最 寄 駅　JR東海道線岐阜駅
撮　　影　SS名古屋



外観　南面



リフレッシュスペース



リフレッシュスペース

■概要

施主は花王製品の販売会社であり、岐阜県全域の販売拠点となる営業事務所として建設したものである。

敷地は、岐阜市南郊の農地が多く残る田園地帯の中にあり、周囲の景観と違和感の無い様、なだらかなスカイラインを形成する墳状の構成とした。

■外観

商品イメージ（石鹸、洗剤）を反映したクリアかつクリーンな形態と色彩を心掛けた。

外壁は、フッ素樹脂塗装鋼板の断熱パネルとアルミカーテンウォールとで構成し、清潔感を表現した。カーテンウォールには洗剤のパッケージをモチーフとした幾何学的なパターン（格子状の熱線反射ガラス）を配し、企業イメージのアピール効果を意図した。

■内部

1階事務室は、レイアウト変更に対応出来る無柱空間とし、また、将来オフィスの拡張が可能な様、倉庫と隣接させた。

事務室の南側には、エントランスと事務室とのクッションゾーンとしてリフレッシュスペースを置き、接客機能と社員のリフレッシュ機能を併せ持つ空間とした。内装色もリフレッシュスペースは住宅風の暖かみのある色調とし、寛ぎの空間としての配慮をした。

（岩井松一郎／鴻池組名古屋支店設計部）



エントランスホール



配置図・1階平面図　1:800


同和火災

同和火災名古屋ビル

設計施工　竹中工務店

名古屋駅からJR東海道線沿いに北へ500mのところに、情報化時代にマッチしたインテリジェント機能と人間性を重視した、高いオフィス機能を備える「同和火災名古屋ビル」が完成した。

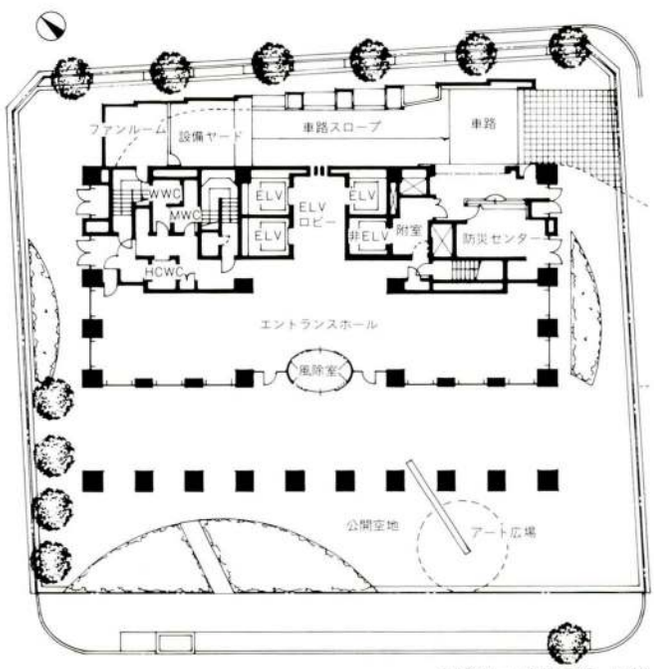
敷地は、駅前にありながら、都市としての形態が未成熟な地区に位置している。そこで、周囲にはない極めて「端正」なデザインとすることで、この建物が環境に働きかけ、地区の景観形勢の先導となることを意図して計画をすすめた。

総合設計制度を活用し、高さ70mのタワーとオープンスペースを実現した。緑と彫刻の広場、石の列柱で囲まれた2層吹抜けのピロティ、さらに連続するエントランスホールのギャラリーが、潤いとゆとりを与える。4つの輪が自然の風によって自由に動き、木漏れ陽のような影をつくる彫刻は、広場とピロティの空間をおだやかにつなぎ、直線的な印象を与える建物に対し、鯱（しゃち）をも思わせるフリーハンドの楽しいフォルムが、地域への親和性を強調する。

外装は、御影石と反射ガラスを組み合わせた、シンプルで緊張感のある構成とし、建物を見る場所の遠近や、光の変化によって多様な読み取りができるように表現した。新幹線からの眺望を意識した景観は、名古屋のこれからのイメージリーダーをめざす。

（浅井康行／竹中工務店設計部）

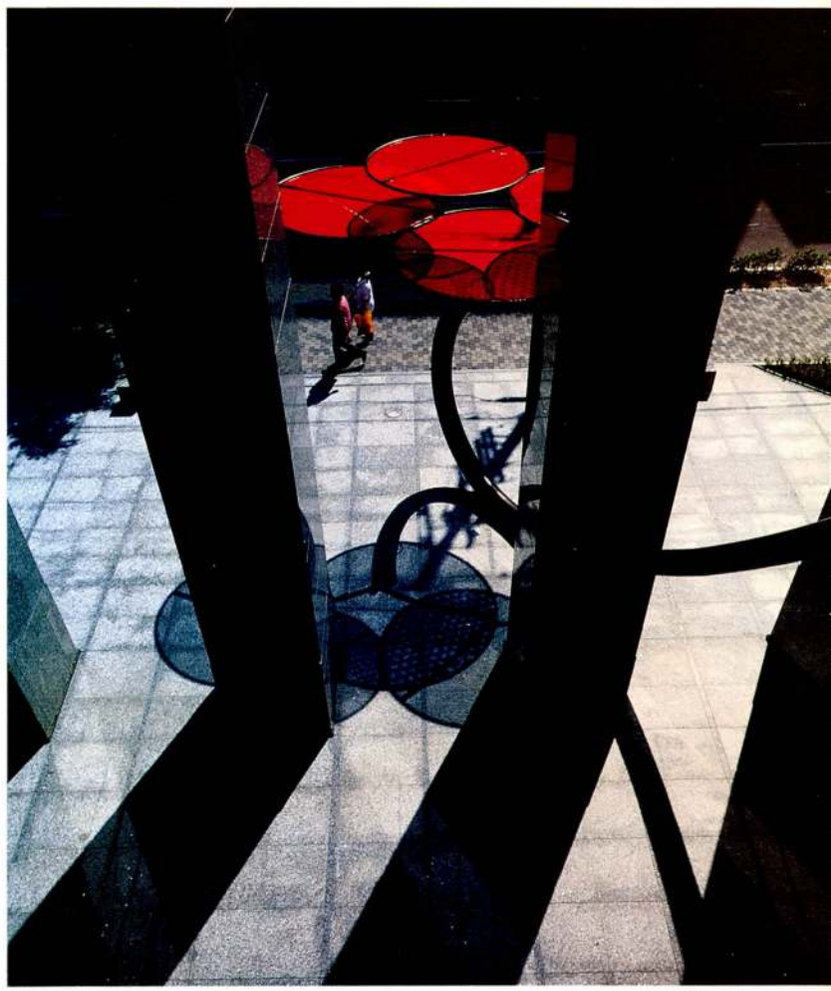
所 在 地　名古屋市西区名駅2-22-9
敷地面積　1,434.95㎡
建築面積　808.79㎡
延床面積　11,811.20㎡
構造規模　S、B2、14F、P2
工　　期　1993年11月～1995年5月
最 寄 駅　JR名古屋駅
撮　　影　滝田良彦



配置図・1階平面図　1:500



正面見上げ



ピロティより列柱を見る

◀外観南西面

中部電力 多治見営業所・電力センター

基本計画　中部電力土木建築部建物計画グループ
設　　計　伊藤建築設計事務所
監　　理　中部電力岐阜支店工務部建築課
施　　工　建　築　鹿島・土屋・宇佐美・永楽共同企業体
　　電　気　トーエネック
　　空調・衛生　トーエネック
　　昇降機　三菱電機

所 在 地　岐阜県多治見市上野町5丁目1番地
敷地面積　11,432.31㎡
建築面積　2,074.76㎡
延床面積　7,400.84㎡
構造規模　S、7F
工　　期　1994年8月～1996年3月
最 寄 駅　JR中央本線多治見駅
撮　　影　加藤敏明

外観南西面



岐阜県の東部地域をサービスエリアとする中部電力の事業所で、営業所と送電・変電設備の保守管理業務等を行う電力センターを併設した複合用途建物である。

敷地は旧工場跡地で、多治見市街のほぼ北に位置し、前面には国道19号線が通り、虎渓山を背にしている。

本館棟は、お客様スペースを道路側に集合させた低層部と、将来空地をできるだけ広く残すため７層とした事務所スペースの高層部からなる。

敷地の乗入れは国道と東側道路の２箇所に設け、本館棟は近隣への日影が極力少なくなるよう、また国道から建物が見えるよう敷地南寄りに配置し、その北側にオープンスペースと緑地を確保した。

「地域との共存共栄、そして調和」を目指したこの建物では、１階に外来者の利便を考慮し、利用者の多い受付やショールーム、ギャラリー、料理教室を併設した多目的集会室などのPR関連施設を設け、地域の人々の利用に供している。

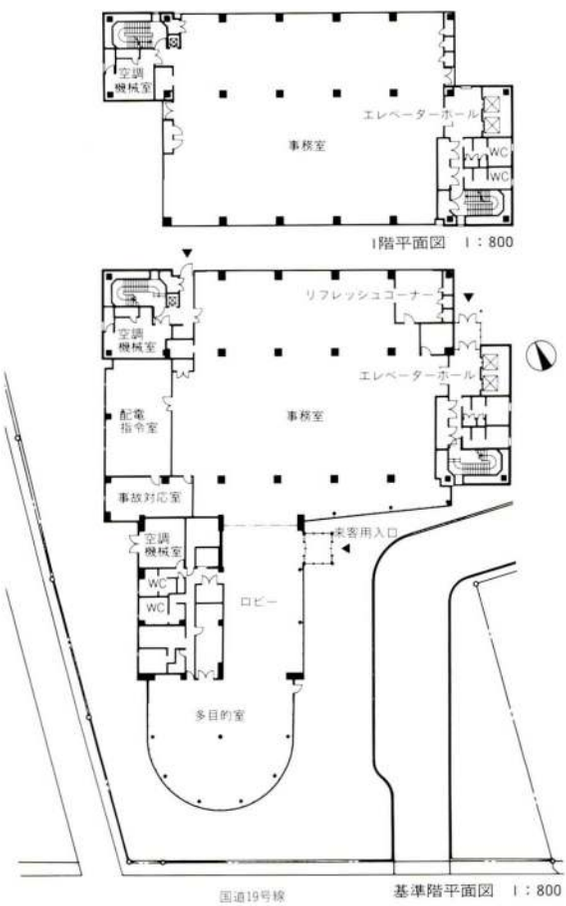
事務所部分は、組織変更や要員変動に対応できるよう、建物の南面を13.4m×30mの無柱空間とし、２つの異なった事業所が同居するが、それぞれの機能を損なわないよう、１～３階を営業所、４、５階を電力センターとした。またリフレッシュコーナーを各階に、共同で利用する食堂は多治見市街や土岐川を眺望できるよう最上階に設けるなど、職場環境の向上を図っている。

設備面においては、８時間系の空調設備は深夜電力の利用による運転コストの低減と、電力需要の平準化が期待でき、また建物地下の基礎部分を利用して蓄熱槽が構築できることから、大温度差水蓄熱システム(冷水2℃→12℃　10℃deg)を採用し、また屋上にはソーラーシステムによる太陽光発電設備(20KW)を設置するなどの特色を持っている。

(澤村喜久夫／伊藤建築設計事務所)



外観南東面



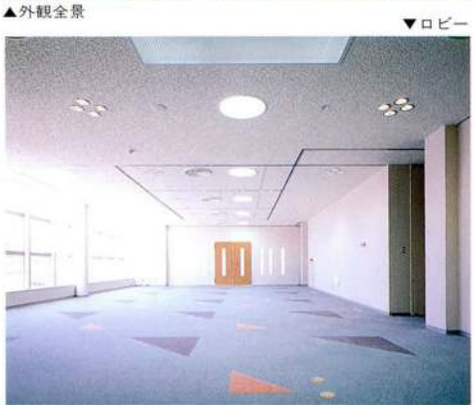
1階平面図　1：800

基準階平面図　1：800

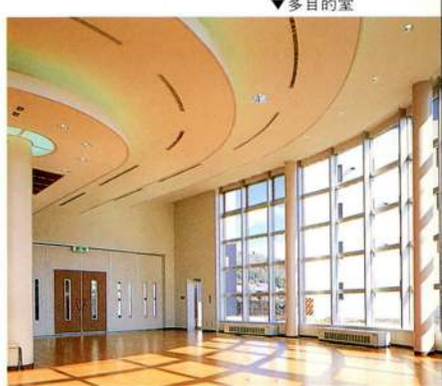


▲外観全景

▼ロビー



▼多目的室

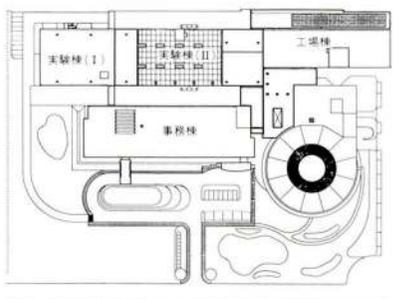


南東側外観

㈱豊田自動織機製作所 碧南工場事務・技術棟

設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県碧南市浜町３番地
敷地面積　271,173㎡
建築面積　 9,109㎡
延床面積　17,418㎡
構造規模　S、RC、B1、3F、P1
工　　期　1993年８月～1995年４月
最 寄 駅　名鉄三河線碧南中央駅
撮　　影　田中昌彦



配置図　1:4000


南側外観


エントランスキャノピー

エントランスホール

この工場は、愛知県南部の衣浦湾に面した工場地帯の一角に位置している。敷地内は、なだらかに広がる芝や豊かな植栽が施されており、すぐ傍の海ともあいまってゆとりのある景観を形作っている。

今回の建物は、この工場の完成形をなし、「事務棟」「実験棟」等の施設の顔を構成している。

この工場は創立当初より、「快適な環境からくる「やさしさ」が「ゆとり」を生み出し、生産性の向上につながる」という思想に基づく『人にやさしい工場』をめざして建てられてきている。

これに今回は次の２つのテーマを加え、デザインや機能面に展開した。

ひとつは、『新しい環境の創造』であり、外部環境に、生産ラインという機能の流れに沿って緑のラインを配置し、「憩い」「快適さ」の流れを創り出した。外観の横ストライプのデザインもこの緑のラインを転写したものである。また、ガラスカーテンウォールを前傾させて周囲を映し込み、環境との融合、新しい景観の創出を狙った。

もうひとつは『省エネルギー』であり、実験棟のエンジンテスト室から出る高温排気熱を回収し、熱源の一部として利用したほか、特に大空間では自然光を積極的に取り込み、人工照明に頼らないように計画した。

構造的には、事務棟２階でスパン25mの無柱空間を実現したことと、実験棟の数十室あるエンジンテスト室に「浮き基礎」を用いた防振対策を実施したことがあげられる。

（大川　徹／竹中工務店設計部）



応接室



打合せコーナー

周辺との接点となる広場より並木道とF棟をみる



配置図　1:2000

サンハイツ中央台(E、F)棟

設計　愛知県住宅供給公社
　　東畑建築事務所名古屋事務所
監理　愛知県住宅供給公社
施工　建築　松村組名古屋支店
　　電気　藤田電気工業
　　機械　シブヤパイピング工業
　　ガス　東邦ガス
　　ＥＶ　シンドラーエレベータ

所在地　愛知県小牧市城山１丁目
敷地面積　46,693.48㎡
建築面積　E棟　580.58㎡　F棟　781.78㎡
延床面積　E棟　3,998.00㎡　F棟　3,182.00㎡
構造規模　E棟　RC、9F　F棟　RC、5F
工　期　1993年４月～1994年８月
最寄駅　桃花台新交通システム桃花台センター駅

サンハイツ中央台は、尾張東部丘陵地に計画人口４万人の街として開発された桃花台ニュータウンにある。

計画地は、ニュータウンの中央部に位置し、周辺には戸建てと集合住宅が混在する環境にある。ここではガイドラインを設定し、隣接する住宅都市整備公団用地とスーパーブロックとして、一体的に計画している。

１つは周辺への調和を考え、外周を低く中央を高くした中高層混在の設定。２つめは、東西へ周辺とスーパーブロックをつなぐ並木道の設置。３つめは南北に公共緑道が通っていることから、東西への並木道との接点に、出会いの広場を設定している。

今回紹介するEF棟は西側ブロックにあり、東西の並木道に面した位置にある。そこで、この道に面して人と人との接点を大切にした空間をちりばめた。それは、バーベキューテラス、専用庭、アールコーブ、エントランスである。

これらの空間を計画する上で考慮したのは、閉じつつ開くといった段階的な領域空間であった。これは周辺との接点、また、団地内の共有空間、個人の空間といった、多様な領域性を含んでいるものをバランスする事であった。

ここに生じた空間は、人と人の出会いを創り出し、共同住宅としての共有の楽しさを感じられる空間である事を心掛けて計画した。

(坪井俊和／東畑建築事務所)



並木道に面したバーベキューテラス



並木道に面した専用庭



E棟東側より並木道をみる

岐阜ルネッサンスホテル

設計　日建設計
（内装設計：HIRSCH BEDNER ASSOCIATES、日建設計）
監理　日建設計
施工　大日本土木・竹中工務店・矢作建設工業
共同企業体

所在地　岐阜市長良福光桃林2695
敷地面積　26,530.90㎡
建築面積　7,476.17㎡
延床面積　36,292.38㎡
構造規模　SRC、S、B1、11F、P2
工　期　1993年10月～1995年6月
最寄駅　名鉄新岐阜駅、JR岐阜駅
撮　影　名執一雄、SS名古屋



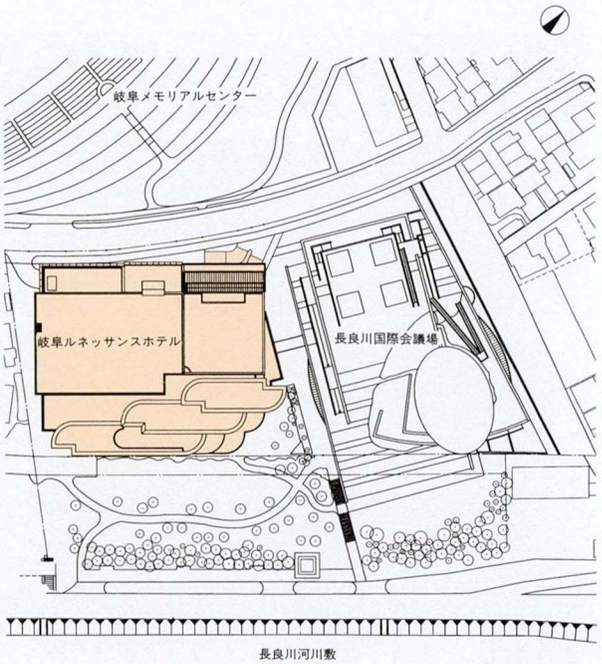
外観　東面



全景



外観　北西面夜景



配置図　1:3000



ロビー



エントランス



客室

金華山と岐阜城を仰ぐ長良川河畔に建つこのホテルは、同じ敷地内の長良川国際会議場とともに、岐阜市が目指す「国際コンベンション都市」づくりの核として、一体運営ができるよう計画している。

ホテル経営は、地元に鉄道路線等を持つ名古屋鉄道、近畿日本鉄道の対等出資による新会社があたり、運営は香港に本拠地を置くルネッサンス・ホテルズ・インターナショナルに委託されている。

〝金華山の山並み〟や〝長良川の清流〟のイメージを表現した客室棟の形態は、38㎡のツインルームを中心に192室で構成され、中廊下形式を基本としつつも120室を川側に配し、曲面部をいかした多様な客室構成を試みた。また客室窓にはフレームレスの眺望と、換気・窓清掃機能を兼ね備えた横スライド窓を開発した。

最上階には長良川の眺望を生かしたラウンジやバーのほかスカイバンケットを配し、頂部には〝屋形舟〟を連想させるモニュメントを載せ、夜はライトアップするなどリゾート性を演出している。

外壁は、客室棟外観をモチーフに、45角押型タイルを4枚1組でパターン化し、長良川の水面が自然光により刻々と変化する様子を表現した。

ホテルの顔となるエントランスの車寄せは、岐阜の名産品でもある〝和傘〟をイメージした装飾天井により、来館者を出迎える演出をしている。

パブリックスペースは、〝鵜飼〟をデザインテーマとし随所にそのモチーフを表現している。その一つに〝金華山の山並み〟を借景にしたエントランスロビーには、〝屋形舟〟の舟底を表現したシャンデリアにより、来館者が魚になったような錯覚を感じ、何艘もの舟が頭の上を行き来し、水面に見たてた天井には灯火が映り込む演出をしている。

なお、ロビーの内装デザインは米国のHIRSCH BEDNER ASSOCIATESによるものである。

(田中秀男／日建設計大阪本社)



▲アトリウム和風庭園

北面外観▼



志摩観光ホテルグループ
賢島宝生苑(増築)

設計監理　竹中工務店
施　　工　竹中・大日本土木・清水共同企業体

真珠のふるさと三重県奥志摩に位置する当地は、伊勢志摩国立公園にあって、リアス式海岸と真珠いかだで名高い我国有数の景勝地である。
当建物は、志摩観光ホテルグループの経営する既存の２つの旅館を、パブリック施設と渡り廊下の増築により一体化し、さらに、86室の客室増築と既設の改修等により、当地域最大規模の旅館として再生させたものである。
『融合』をテーマとし、伝統的数寄屋建築の手法を基本に、人にも環境にもやさしい純和風旅館の創出を心掛けた。
パブリック施設の大半は、３層吹抜のアトリウム和風庭園を中心に配し、賑わいの核とした。そして、その全体を包む光天井は、人工照明により、時とともに朝、夕、夜の景色に変化させ、『時の移ろい』を演出している。また、２層にわたる男、女大浴場は、大型電動サッシュにより、全面解放を可能にした。日没の頃ともなると、真赤に染まる真珠の海に溶け込み、潮の香と共に、まさに至福の時を味わう事ができる。さらに600畳の大宴会場、コンベンションホール、ブライダル諸室等も充実させ、多様なニーズに対応できる観光旅館をめざした。
志摩の素晴しい自然とともに、この建物も生き続け、そして、人々に長く愛される事を望んでやまない。

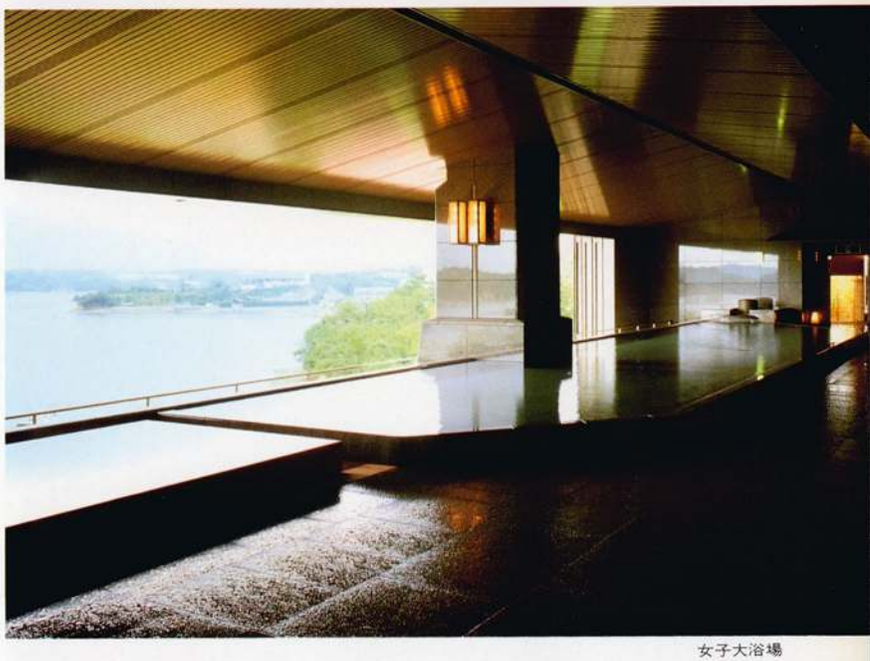
（久保田憲彦、近藤名保彦／竹中工務店設計部）

所 在 地　三重県志摩郡阿児町神明718
敷地面積　73,421㎡
建築面積　既設部分5,577㎡＋増築部分10,117㎡　計15,694㎡
延床面積　既設部分16,875㎡＋増築部分22,544㎡　計39,419㎡
構造規模　SRC、RC、10F、P1
工　　期　1993年11月～1995年６月
最 寄 駅　近鉄志摩線賢島駅
撮　　影　加藤敏明



配置図　1:4000


エントランスホール


女子大浴場


600畳大宴会場



玄関ポーチ



東面遠景



東面夜景

ジャスコ岡崎南店

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　工　建　築　清水建設名古屋支店
　　電　気　トーエネック
　　川瀬電気工業所
　　衛生・空調　大気社
　　昇降機　豊島(三菱電機)

所在地　愛知県岡崎市戸崎町上り場東4
敷地面積　36,124.30㎡
建築面積　15,268.78㎡
延床面積　61,934.17㎡
構造規模　S、5F
工　期　1994年11月～1995年9月
最寄駅　JR東海岡崎駅
撮　影　SS名古屋

岡崎市は古い歴史に育まれ、多くの文化財と学術・芸術などの文化の香り高い都市として、愛知県西三河地区最大の中核都市である。この岡崎市の中央を東西に横断する国道１号線の南側は、急速に開発された新興住宅地であり、大型駐車場を備えた郊外型ショッピングセンターの建設が望まれていた。早くから非繊維部門の強化と経営の多角化を計ってきた日清紡績株式会社が、新しい展開を見せた第一号店となる。

蒲郡と豊田を結ぶ東の国道248号線、西の県道岡崎幸田線という２本の幹線に挟まれ、その道路レベル差約3.5mを利用して、西からは地下駐車場へ、東からは１階店舗へと、人と車のスムーズな導入を計った。誰もが親しみ易くやさしい店づくりを目指し、ハートビル法の愛知県適合第一号店としてオープンした。

三層の店舗を地下１階と４階・屋上階の駐車場が挟むという層構成で、車でのお客様の上下動の為、２セットのエスカレーターと３台の大型エレベーターを配した。郊外型ショッピングセンターにとって、駐車場の在り方が店の収益を左右するとあって、その収容能力(2000台)と安全でスムーズな誘導に最大の配慮がなされた。

ファサードは、自然との調和を考えて、落ちついた色調で全体をまとめたシンプルな建物とし、シンボリックなエントランスにより施設への期待感が高まるよう意図した。

環境については、もともと緑多い場所であったが、造成時に仮移植された樹木と、ジャスコが全社をあげて取組む「イオンふるさとの森づくり」に沿って、お客様が自らの手で植えた22,000本の苗木が敷地全体に配され、将来の景観が楽しみな施設である。

(小田義彦／伊藤建築設計事務所)



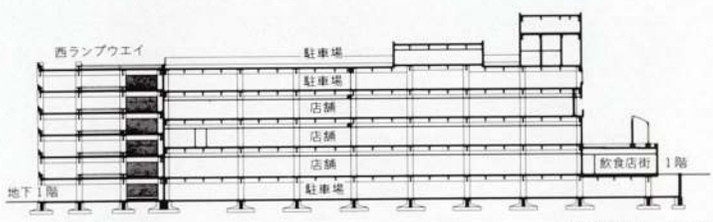
玄関ロビー吹抜



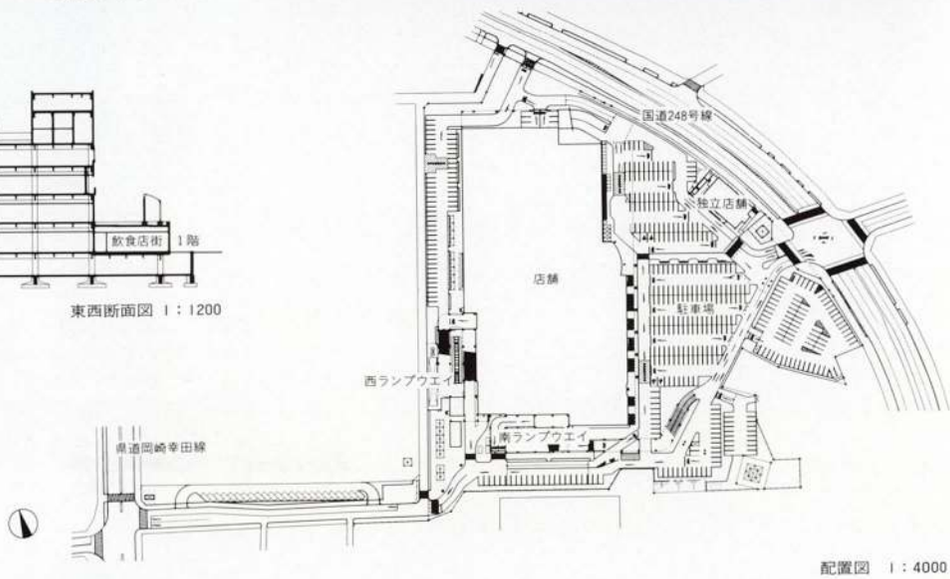
１階セントラルコート



飲食店街外観



東西断面図 1：1200



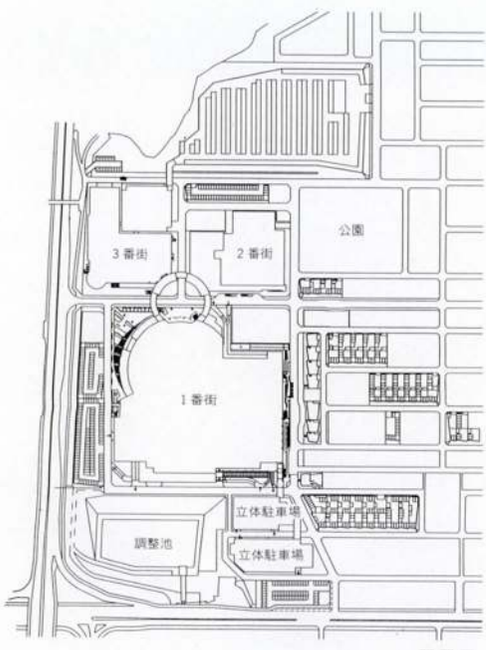
配置図 1：4000



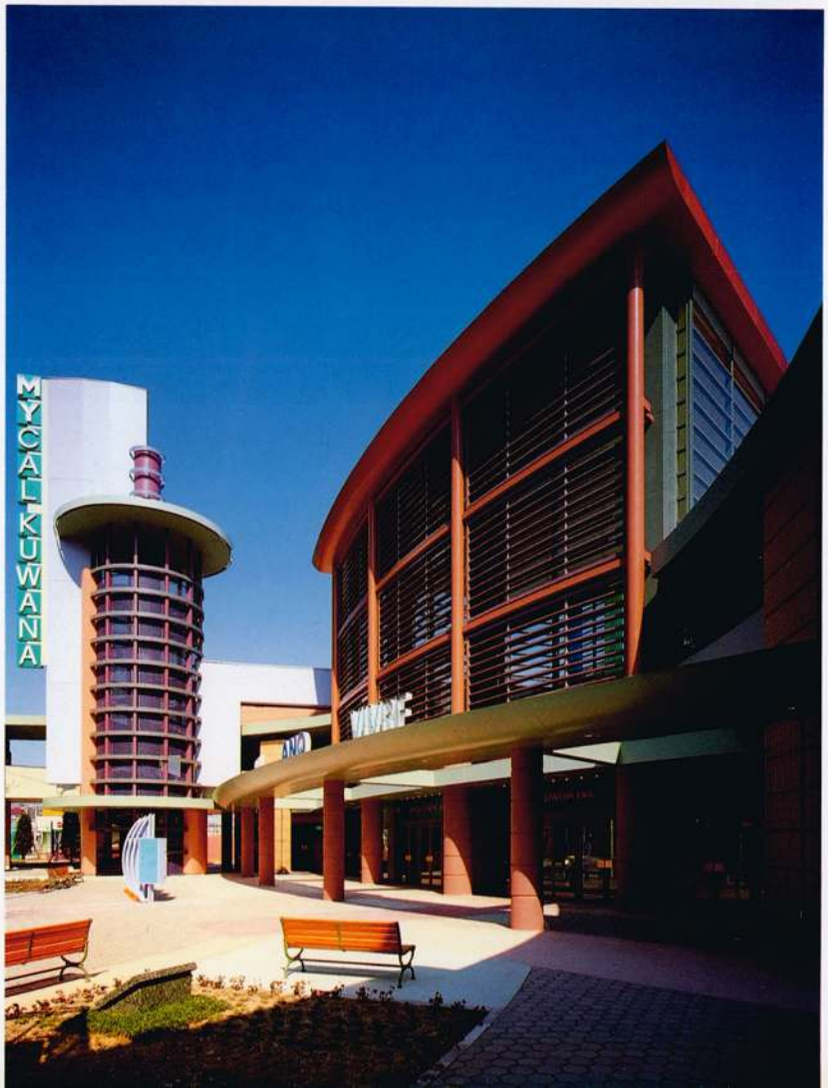
コミュニティ広場と1番街

マイカル桑名

基本設計　JPI＋大林組名古屋支店
実施設計　大林組名古屋支店
施　　工　大林・大成・日産・飛島・大日本・日本土建・フジタJV



配置図



1番街エントランス▶

所 在 地　桑名市新西方一丁目22番地 他
敷地面積　61,648㎡
建築面積　47,778㎡
延床面積　153,358㎡
構造規模　S、B1、5F
工　　期　1994年1月～1995年3月
最 寄 駅　近鉄桑名駅
撮　　影　SS名古屋

当プロジェクトは、桑名市郊外の穏やかな丘陵地帯に広がる複合商業施設である。二つの核店舗と専門店からなる1番街、生活雑貨とボウリング場を併設した2番街、レストラン街と8館 2000席のシネマコンプレックス、さらに各種アミューズメント施設で構成された3番街、これらの建物は各々ブリッジで密接に継げられ11万㎡の敷地に配されている。これらの多様な利用形態の混合、恵まれた立地、当地域の発展に果たすであろう中心的な役割を見すえて「マイカル桑名」は計画された。

プロジェクトに対する設計チームのアプローチは主に三つの目標にしぼられた。一つは、周辺地域及び桑名地域全体にとっての「タウンセンター」を創造することである。二つ目は郊外型の独自性と特徴をはっきりと確立することであり、それは周囲の環境の美しさと、新しいライフスタイルの精神を反映するものである。三つ目は、経済的な通常の資材と工法を用いて豊かな空間と活気に満ちたコミュニティ環境を創り出すことであった。

竣工して一年を経た現在、「マイカル桑名」は話題性と誕生時の祝福を受けて多くの人々に利用されている。ストーリー性のある空間にさまざまな人々のさまざまなシーンが展開される様子をみて、その意図は達成されたと考えている。

(鈴木一義／大林組名古屋支店建築設計部)

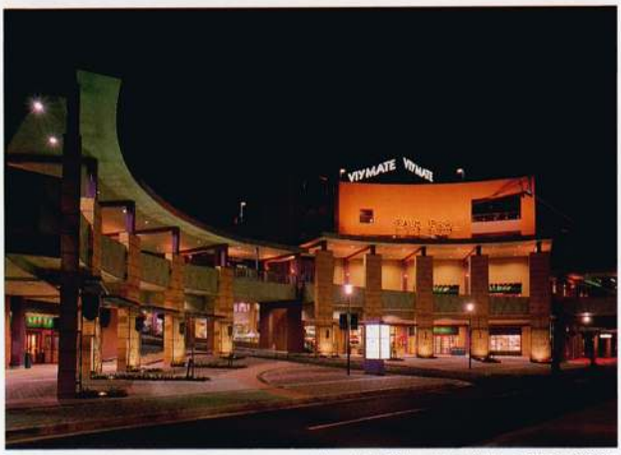


▲ 3層吹抜のアトリウム

ガレリア：2層吹抜の明るいショッピングモール ▼



コミュニティ広場 夜景



サークルブリッジの夜景　正面は2番街





外観北東面

NS 21

設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県刈谷市野田町沖野121-5
敷地面積　32,314.60㎡
建築面積　3,025.55㎡
延床面積　13,049.86㎡
構造規模　SRC、RC、一部S、14F、P1
工　　期　1993年11月～1995年4月
最 寄 駅　JR東海道線東刈谷駅
撮　　影　滝田良彦

NS21は、東海道線東刈谷駅の南約1kmに位置し、500人収容の既設寮のグランドに計画された。建物は、約300室の寮室よりなる高層棟と既設寮生も利用できる約150席の食堂、及び浴室からなる低層棟により構成した。

高層棟には、寮生の共有空間として14層吹抜のアトリウムを持たせている。竪穴区画の無い多層吹抜は、住居系施設では日本で初めて実現されたものである。

個室化の進む近年の寮計画の趨勢の中で、寮生全員が1つの大空間を共有することにより増大する寮生に対して、現在薄れつつある気持ちの一体感、共有意識の高揚に寄与できればと考えている。

建物の軸は南北軸に合わせ、これに対して諸室を左右対称に配置、高層



外観南西面



スカイラウンジ(14階)



1階平面図　1:2500

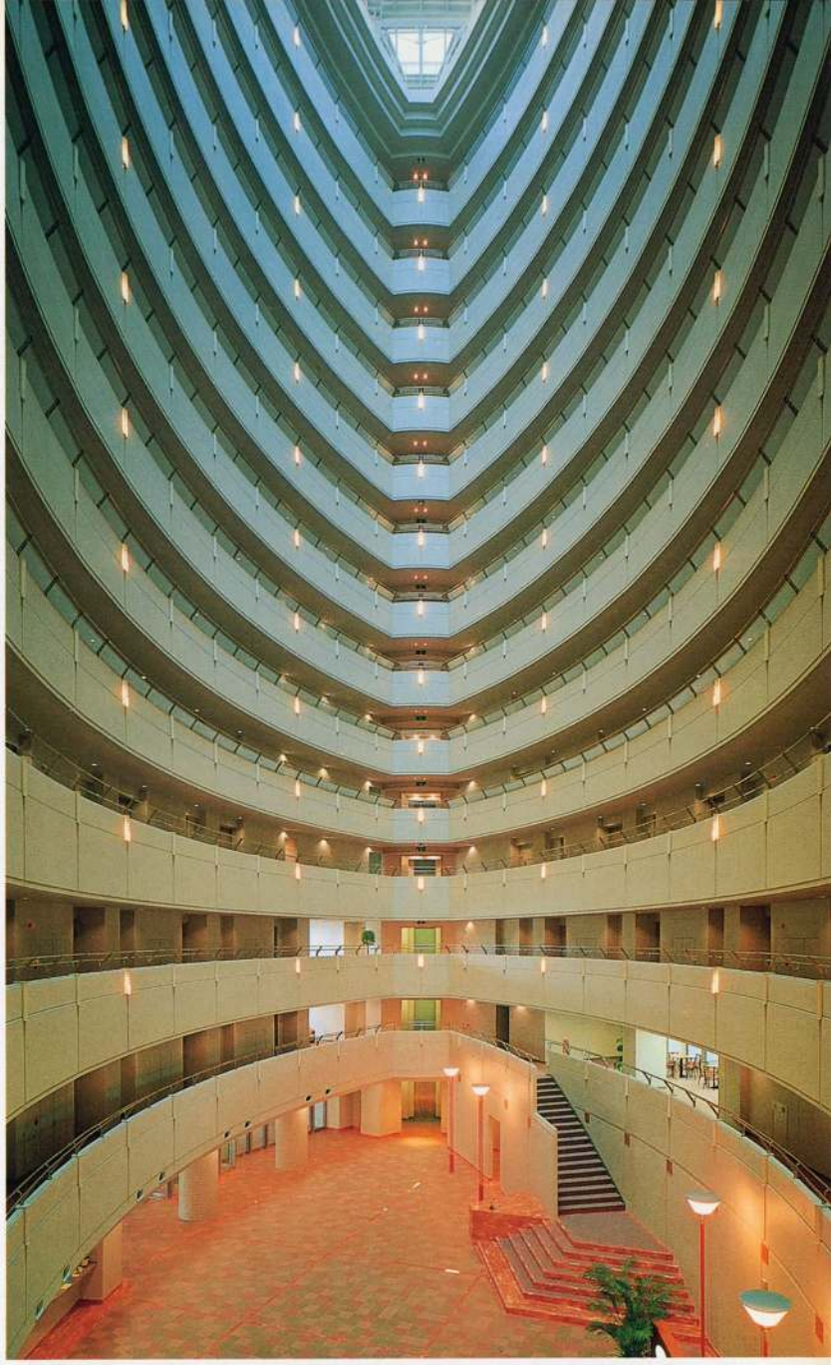
棟は、威圧感をなくす丸みを帯びた形態にし、北側の住居への圧迫感を和らげた。

外観は格子の連続とし、バルコニーにはガラスを用い、軽快さと閉鎖的になりがちな寮施設に開かれたイメージを与え、その軽快さを白で表現し、建物形態の持つイメージを強く印象付けるよう考慮した。

変貌しつつある周辺地域に対して、このアトリウムは新しい視点での空間形成を提案し、潤いのある空間を提供している。

内部の色彩計画では暖かみのある色を用い、空間の大きさから来る威圧感を和らげることをねらった。また、内部の手摺壁を分割するデザインとして単調な連続感を無くした。

(五藤秀二／竹中工務店設計部)



エントランスホール(アトリウム)



カフェテリア



浴室

Tokai Sketch Book



中京銀行四日市支店

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　竹中工務店・木下建築共同企業体
所 在 地　三重県四日市市幸町162,166,181
敷地面積　780.17㎡
建築面積　433.48㎡
延床面積　641.73㎡
構造規模　S、一部RC、2F
工　　期　1994年９月～1995年２月
最 寄 駅　近鉄四日市駅



特別養護老人ホーム とよた苑

設　　計　東海設計
施　　工　清水・大啓建設工事共同企業体
所 在 地　豊田市野見山町５丁目80-1他
敷地面積　41,493.75㎡（うち利用分約10,000㎡）
建築面積　2,594.84㎡
延床面積　5,941.81㎡
構造規模　RC、3F、P1
工　　期　1994年３月～1995年２月
最 寄 駅　名鉄豊田線豊田市駅



三重銀行鵜方支店

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　生川建設
所 在 地　三重県志摩郡阿児町鵜方字西ノ河内1366-1他
敷地面積　992.00㎡
建築面積　302.60㎡
延床面積　399.05㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　1995年６月～1995年11月
最 寄 駅　近鉄志摩線鵜方駅



アーバンラフレ星ヶ丘（８号棟・９号棟）

設　　計　住宅・都市整備公団、東畑建築事務所
施　　工　大成建設、栄興建設
所 在 地　名古屋市千種区星ヶ丘一丁目
敷地面積　37,240.60㎡（全街区）
建築面積　1,339.71㎡
延床面積　8,775.89㎡
構造規模　RC、6F、10F
工　　期　1994年４月～1995年10月
最 寄 駅　名古屋市営地下鉄東山線星ヶ丘駅



桑名信用金庫星川支店

設　　計　伊藤建築設計事務所
施　　工　大成建設
所 在 地　三重県桑名市大字星川十二
敷地面積　1,174.50㎡
建築面積　422.30㎡
延床面積　752.31㎡
構造規模　S、2F
工　　期　1995年４月～1995年９月
最 寄 駅　近鉄北勢線坂井橋駅



四日市市立塩浜小学校管理棟

設　　計　四日市市都市計画部営繕課、東畑建築事務所
施　　工　石原・伊藤特定建設工事企業体
所 在 地　三重県四日市市塩浜町１番地
敷地面積　20,128.00㎡
建築面積　1,206.26㎡
延床面積　3,109.21㎡
構造規模　RC、3F
工　　期　1994年７月～1996年１月
最 寄 駅　近鉄名古屋本線塩浜駅

特集　遠江―その地域振興と文化



東海の地方シリーズも、「伊勢」「飛騨・美濃」に続き３回目となります。今回は、産業振興都市としてその名も高く、地方都市とはいえ活発な都市づくり施設づくりが全国の注目の的となっています。浜松を中心とした静岡県西部地域（遠江）を取り上げました。

この地は、歴史の舞台にもしばしば登場するなど話題の豊富な所でもあります。そして、従来“楽器、オートバイ、自動車”といった高度な産業技術の集積地としてのイメージが、全国的に知れ渡っています。しかし、それも情報・交流・芸術・研究開発といった新たなテーマへの取り組みにより、大きく変わろうとしています。文化志向の高まりを踏まえた、新しい時代の文化都市づくりへの意気込みも盛んです。そこには、産業都市偏重からの脱皮と、永く培われてきた産業技術と地域文化との調和ある発展を目指しての、高次で多様な都市機能の更なる集積と、文化の香り高い都市環境を創出する、積極的な取り組みを目の当たりにすることができます。

またこの地域は、多極型国土形成における一つの核都市として位置づけられるだけのポテンシャルを有し、新首都構想の有力候補地の一つでもあります。

産業と文化両面での国際的な競争力を備えようとしている、この地の都市づくり施設づくりの現状と背景の一端を探ってみました。

（東海支部特別編集委員会）

遠州の風土・気風と文化

鈴木　正之

地　形

静岡県は、駿河を中心に東に伊豆、西に遠江の三国からなっている。遠江は、東は大井川から西は浜名湖まで、ふつうは遠州と呼ばれることが多い。

遠州は北に2000m級の赤石山脈が連なり、それから続く山地が半分以上を占める。

水窪町は遠州の最北端、ここにある中ノ尾根山は2296メートル、昭和41年２月、羽田を発った全日空貨物機が行方不明になり、どこを捜索しても発見出来ず、一時は宇宙人が連れ去ったなどの情報も出て話題となったが、２年後に中ノ尾根山で猟師に発見された。大型の飛行機が墜落して２年、誰も気がつかずにいたのは日本では前代未聞、シカやクマの世界で人跡未踏の地がここ遠州北部にはあるのである。

しかし、遠州は、伊豆や駿河に比べ平地が多いのが特色である。それはひとえに天竜川と大井川のおかげである。このうち、天竜川は赤石山脈成立以前から流れていた川、四国の吉野川と並んでわが国の代表的な先行性河川である。隆起し始めた赤石山脈の岩石を浸食し、太平洋岸に堆積させつづけたので広大な平地が出来たのである。天竜川の運んだ土砂は西は愛知県東部、東は掛川付近まで及んでいるのである。

大井川も一時期、河口が遠州灘にあったようで、小笠山や牧之原台地を生んでいる。遠州にはあと二つ台地がある。それは、天竜川が生んだ三方原台地と磐田原台地である。これらは江戸時代までは水に乏しかったため開発が遅れたが、明治以降、お茶の栽培で有名になった。浜名湖は日本第十位の面積、手のひらのような形をしているので、湖岸線は琵琶湖、霞ケ浦についでわが国第三位となっている。湖といっても、約500年前の大地震とこれに伴う大津波によって太平洋とつながってしまい、浜名湾といったほうがいいくらいである。なお、行政上での正式な名称は都田川である。

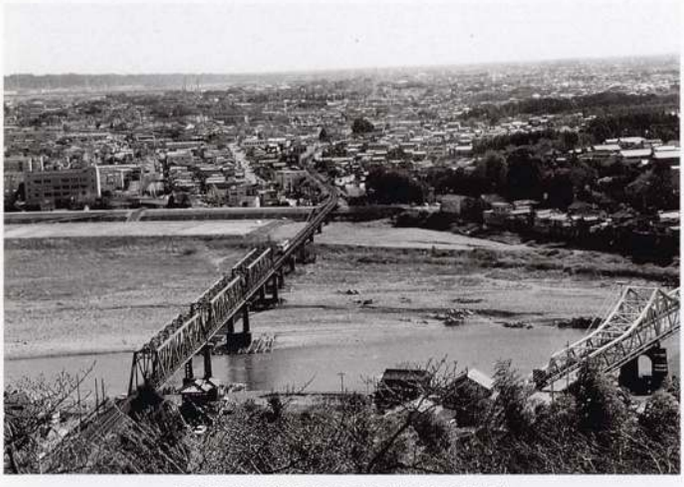
太平洋岸には天竜川の運んだ大量の土砂によって、広大な砂丘が出来ている。近年、佐久間ダムをはじめとして数多くのダムが建設されたため、土砂の流出が極端に減少し、浜松市の中田島砂丘は消滅寸前となっている。

気　候

浜松を中心とする遠州は太平洋岸式気候の代表的な所、中学校の地理の教科書には浜松の雨温図がよく載せられている。夏は高温多雨、冬は低温少雨だが、平均気温は０度を下回ることはない。年間降水量は1800～2000ミリ、これは生活や産業にとってちょうどよい雨量である。天竜川の中流部や大井川の上流部は2500ミリを超える多雨地帯、これによって多くの電力が生まれ、また、上水道や農業・工業用水に利用されている。

松山や高松・福岡などでよく起こる断水などは天竜川と大井川のおかげで、ここ遠州では考えられない。

遠州の気候を代表するものは、遠州の空っ風である。歌では、北風小僧のかんたろうとか、新聞・テレビでは北西の季節風とよくいわれるが、ここ遠州では冬は西風が多いのである。人々はよく、関ケ原から東海道本線上を冷たい風がやって来るという。雪は関ケ原、岐阜、一宮、名古屋に積もらせ、浜松は風花が舞う程度である。この空っ風はしばしば最大10メートルを超えるが、遠州人はこれを巧みに利用している。遠州灘沿いの農村では芋切り干し、三方原や磐



天竜川は天竜市の南で広大な平野に出る



西浦田楽

田原の台地では大根、浜松では浴衣の乾燥にそれぞれこの風を活かしているのである。特に風の強い御前崎付近の砂丘には三稜石という風食を受けた岩石があり、国の天然記念物に指定された。また、最近、風力発電の試験も行われるようになった。

気　風

静岡県はお茶やみかんに代表されるように、気候が温暖だから、人々はのんびりして温和な性格だとよくいわれる。それは当たっているようだが、やはり、江戸時代まで別々の歴史を築いてきた三つの国では、多少の違いは見られるのである。

駿河は、貴族的武将であった今川義元と隠居の身となった徳川家康の影響で、毛並みのよさがあり、保守的で人に従う心が強いといわれている。これに反し、遠州は開放的で、何事においてもひるむことなく、工夫や発明に長じているのである。これは、青年期の家康が在城していたことやそれから後の藩主が腰掛け大名で、領民のことを顧みなかったため、自分たちでやらなければと常に考えて行動してきた歴史から出てきたものといえる。

文　化

天竜川

旧暦の１月18日、長野県境に近い水窪町西浦で西浦田楽が行われる。これは国指定の無形民俗文化財で、古い技芸が多くみられ、わが国の芸能史上特に意義深いものである。

天竜川中流域のいわゆる三遠南信の山岳地域は、古代・中世からの芸能が数多く保存・継承されているところで、柳田国男をはじめ多くの民俗学者が訪れ、日本古来の文化の解明に当たってきた。

天竜川は諏訪湖に源を発し、長さ約250キロ、浜松市の東で遠州灘に注いでいる。この川は古来、文化の伝播に大きな力となってきた。遠州の遺跡では信州の黒曜石が発見されるし、流域には諏訪神社が多数分布している。また、龍蛇信仰も各地に見られ、浜松市の湖や浜北市の洞窟は諏訪湖に通じているとの抜け穴伝説が多い。

国分寺

古代・中世の遠州は今の磐田市が中心であった。国府や国分寺は磐田にあった。遠江国分寺は南から、南大門・中門・金堂・講堂・北門と並び、寺のシンボルともいうべき七重の塔は高さが約66.5メートルもあった。この塔は東大寺七重の塔の総長100メートルには及ばないものの、当地では昭和の後期までこの高さの記録は破られなかった。掘立小屋に住み、瓦も知らない地方の農民にとって、この国分寺の出現は本当に驚くべき事件であったろう。古代の建築史に残る傑作であった。

城と国学

戦国時代の遠州は、それまで支配してきた今川氏とこの領地を奪い取ろうと侵入してきた徳川・武田の争いの場となった。徳川家康が遠州に侵入したのは永禄11年（1568）のこと、初め、今の磐田市の見付に城をつくったが、武田軍の侵入を防ぐことからか、天竜川西岸の浜松に変更したのである。ここから、遠州の中心地は浜松となっていった。江戸時代、遠州は、浜松藩・掛川藩・横須賀藩・相良藩などと多くの天領があった。この天領を支配するために、今の磐田市に中泉代官所が置かれたが、代官のなかには地方の文化向上のために尽くした人もいた。

浜松藩は家康以降、譜代大名が配されたが、任期は短かった。なかには水野忠邦のように、出世したいために来るといった大名もい



遠江国分寺の案内板


浜松城

た。このため、江戸時代には浜松に独自の産業や文化は育たず、金沢や松江・熊本・仙台のような城下町の風情は全く感じられないのである。

浜松出身の人物で中学校の歴史教科書に出ていたのは賀茂真淵ひとりだけ、その真淵も今の教科書からは消えてしまった。しかし、地元では賀茂真淵は偉人であり、市では賀茂真淵記念館を建てた。真淵は国学の大家、その思想は幕末の尊皇思想に大きな影響を与え遠州では神官を中心に遠州報国隊が結成され、明治維新を支えたのであった。

報徳の教え

江戸末期の篤農家、二宮尊徳は相模の人であるが、その思想を実践する報徳社は遠州で発展した。これは遠州から優れた人物が出たことにもよるが、幕末から明治にかけて天竜川の洪水による被害が深刻であったからである。この村々の復興に報徳の考えが導入されたのである。報徳社の全国組織である大日本報徳社の本社は今も掛川市にある。

報徳社は農業経済・産業発達の助成・経済更生など、今の農協のような仕事もするなどして農村の地位向上のために尽くした。

天竜川の洪水から生まれた偉人が金原明善である。明善は私財を使って天竜川の堤防を作る一方、天竜川中流の山に大規模な植林を行い、さらに金融・交通・産業・社会奉仕に多大の足跡を残した。

洋風の学校と発明家たち

明治５年の学制発布によって近代的な学校が始まったが、校舎は財政難と知識不足で貧弱なものが多かった。そのなかにあって、松本市の開智学校の校舎は誠に素晴らしいものであり、現在もそのままの姿で保存されている。この開智学校の校舎と同様に素晴らしい洋風の校舎が遠州にいくつか出来た。そのなかの白眉が、見付学校である。明治８年に竣工したが、塔を加えて５階建てとなり、明治初期の学校としては評価が高い。最近、復元工事が完成し、磐田市の名所の一つとなっている。

浜松の近代的な工業の誕生は山葉寅楠によるオルガン製造に始まる。寅楠は紀州藩士の子、医療器械の修繕にたまたま訪れた浜松で待っていたのは、壊れたアメリカ製のオルガンであった。このオルガンを修理すると同時に、図面をとって国産化を計画、これを援助したのが浜松の資産家や職人であった。明治20年に初めてオルガンが出来、以後河合小市の努力でピアノの国産化（明治33年）にも成功、浜松は楽器の都としてその名を高めていった。

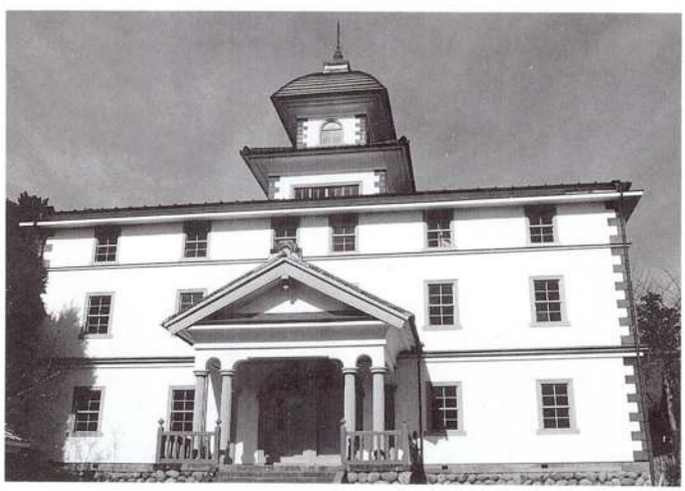
発明王といえばだれもが豊田佐吉を思い出す。今でこそ、トヨタの本拠地は愛知県であるが、佐吉は遠州の西端、今の湖西市の出身である。母親の織る手織機に関心をもち、改良を重ね、明治33年ついにわが国初の小型力織機を発明したのである。以後、自動織機はもちろん、自動車部門への進出により今日のトヨタが出来たことはだれもが知る所である。この佐吉の成功は遠州人に刺激を与え、鈴木道雄など多くの人々が織機の研究開発に当たり、優れた織機が世に出た。これによって遠州織物が急速に発展していったのである。

明治から昭和の戦前にかけて、遠州はどちらかといえば文化より産業にその重点が置かれた。遠州では有名な小説家も画家も芸能人も出ていない。発達したのは農業では換金作物が登場し、人々の生活を支えてきた（これは変遷が相次いだ）。明治初期までは綿花、以後、桑・へちま・葉たばこ・しょうが・落花生と変わり、現在では西洋野菜や花がブームとなっている。

工業では先に述べた、楽器や織機・織物のほか、帽子やフィルム



和洋折衷の大日本報徳社（明治36年）


見付学校

・氷砂糖などが作られるようになった。写真工業では小西六（今のコニカ）がわが国では老舗であったが、なぜかフィルムの国産化は不可能であった。このようななか、浜松にあった旭日写真工業が日本初の国産フィルムの製造に成功したのであった。商品名は菊フィルム、以後小西六はさくら、最後発の富士写真フィルムはふじと、いずれも日本の象徴名を採用したのであった。

遠州の発明家で忘れてならないのは鈴木藤三郎である。生まれは遠州森町、氷砂糖の研究を始め、その近代的な製法を発明、工場を建設して生産に乗り出した。また、白砂糖の生産も始め、大日本製糖へと発展していった。かれの発明は150件以上に及んだが、浜松は戦前の一時期、氷砂糖日本一を誇っていたのである。

今はどこの家にもテレビがあり、生まれた時からテレビを見て育つ世の中になったが、このテレビ発祥の地も浜松であった。浜松には戦前、浜松高等工業学校（今の静岡大学工学部の前身）があったが、ここの高柳健次郎が初めてテレビの送信に成功したのは大正15年（昭和３年説も）であった。戦前に計画された東京オリンピックでの中継も計画されたが、戦争の激化でテレビの中継はもちろん、研究も中断し、アメリカに遅れをとることになった。

浜松では日本初の旅客機が完成しているが、遠州にはこのほかにも、日本で初めてというものが数多い。これは狭くいえば産業部門であるが、広義に解釈すれば当地での教育や文化水準が高かったものといえよう。また、いったん作り始めたら、日本一を目指すチャレンジ精神（遠州では、やらまいか精神という）が旺盛であった。

戦後の浜松の人物として、世界的に名高いのが本田宗一郎である。浜松の町工場でバイクを作っていたが、このときすでに、オートバイ競争で世界一になることはもちろん自動車レースでも世界一を目指していたのである。昭和36年にはオートバイレースで完全に世界を制覇、自動車でも世界の頂点に立った。本田の成功は豊田同様、遠州人に大きな影響を与え、30数社がこの業界に参入、激烈な技術開発競争が繰り広げられていった。この結果、浜松のホンダ・スズキ・ヤマハの三社とカワサキが残るだけとなってしまった。

中村與資平

これまで、浜松を中心とした遠州の文化を記してきたが、近代日本の建築史上に残る人物がこの遠州（浜松市出身）から出ているので、最後になったが紹介してみよう。

その人物は中村與資平、明治38年に東大工学部建築科を卒業して、辰野葛西建築事務所に入所した。辰野は日銀本店・東京駅などの設計で有名、中村はこの辰野の指導で力をつけ、主に朝鮮・満州で多くの建物の設計に当たった。今も彼の手がけた建物が数多く大陸に残っている。資産家の家に生まれた中村は、大正10年から一年余にわたって17カ国、90余の都市を回って建築や都市計画などを視察してきた。帰国後、中村は震災後の学校建築に手腕を発揮、大正13年に番町小学校、翌年には関口台小学校などを設計した。

この関口台小学校は「…西洋の大都会にもあれほどの小学校はざらにない。…」とうたわれたほどであった。中村が浜松に建てたもののうち、現在でも使用されているのが、静岡銀行浜松支店（昭和３年に遠州銀行本店として竣工）と浜松銀行協会（昭和５年竣工）。いずれも洋風の素晴らしい建物で、戦前の浜松に新風を入れた。静岡市には、ドームの美しい静岡市役所と日本趣味を外観に取り入れた静岡県庁が健在である。中村が設計した建物の設計図の多くは浜松市立中央図書館に所蔵されている。

（すずき　まさゆき／浜松市立中央図書館指導主事）



静岡銀行浜松支店


浜松銀行協会

浜松市の都市づくりの展望

―産業と文化の調和―

金子　治夫

産業都市浜松の発展

都市の産業と文化は、地域の自然、歴史、風土と密接な関連をもって発展してきた。

浜松市の近代産業は、天竜川の沖積平野と豊富な伏流水のもと、綿花の栽培から織布、染色、織機などの繊維産業をその起源とし、天竜川の水運を利用した製材業、さらには木材加工技術を生かした楽器産業、及びこれらから派生した超硬刃物、木工機械の製造業等へと進展してきた。

近年においては、こうした技術の蓄積を生かして金属、機械、オートバイ、自動車さらにはハイテク技術を駆使した光技術産業へと多様な産業集積を見るに至っている。

これら地域に生まれ育った産業は、独創的な技術に裏打ちされ、今日では国内はもとより世界に通用する産業へと大きく飛躍・発展してきている。

中でも楽器、輸送用機器は世界的な規模で生産され、製品の海外への提供等を通じて広く世界の音楽文化や生活文化の発展に寄与してきたところである。



浜松市より遠州灘を望む

新たな都市の発展シーズ

時代の大きな転換期を迎え、産業経済の成熟期を迎えつつある今日、本市においては、これまで培われてきた創造的な産業都市としてのパワーを生かしながら、産業と文化が融合し、循環しながら相互に発展する新たな都市発展への仕組みづくりが強く求められている。

このためには、地域に根ざした産業文化、生活文化を新たな地域文化として育成し、定着化を図るとともに、国内外に向け付加価値の高い情報発信を展開していくことが重要な視点となる。

こうした観点に立脚し、本市では目指すべき都市像として「産業と文化の調和ある豊かな人間都市づくり」を掲げ、この実現に向け、楽器産業と音楽文化の調和を目指した音楽文化都市構想をはじめとして、様々なプロジェクトを推進しているところである。

以下に主なプロジェクトの概要を掲げる。

本市主要プロジェクト

浜松地域テクノポリス構想

浜松地域テクノポリス構想は、産・学・住・遊の調和のとれた都



浜名湖国際頭脳センター

市づくりを目指し、高度技術に立脚した工業基盤の形成をはじめ、学術研究機関や良好な居住環境の整備を進める構想である。中核となるテクノポリス都田地区は243haの規模を有し、高度な産業技術の拠点形成が進展している。

浜名湖頭脳公園構想

R&Rをコンセプトとする浜名湖頭脳公園構想は、浜名湖の優れた自然環境を背景とした研究・余暇空間を創出する構想であり、地域産業の高度化・情報化の促進などテクノポリス構想をソフト面から支えるものである。この中核となる浜名湖国際頭脳センターにおいては、情報提供、人材育成、国際研究交流、研究開発等の諸事業を展開している。

国際コンベンションシティ構想

国際コンベンションシティ構想は、国内外の様々な会議や展示会・見本市等を誘致し、人、もの、情報の交流を促すとともに、様々な情報の集積と文化の創造、地域産業・経済の振興発展を図るものである。

アクトシティを中心とした多彩なイベント・コンベンションの開催や地域の特色を生かしたアフターコンベンションの充実など、浜松らしい個性あるコンベンション都市づくりを推進している。

総合大学化構想

幅広い芸術文化活動や産業の振興発展を図るためには、優れた人材の育成が不可欠であり、地域における大学等高等教育機関の整備充実が重要な課題となっている。

このため、浜松市総合大学化構想のもとに、静岡大学や静岡県立大学短期大学部など既存大学の整備充実をはじめ、静岡県西部地域9大学と浜松、磐田、袋井市との連携による県西部地域高等教育ネットワーク事業を推進しているところである。

このうち、平成8年度にはマルチメディア社会を展望した学際的な学部として、静岡大学情報学部が新設されるとともに、静岡県立大学短期大学部を基礎とした新たな4年制大学の設置が平成12年度に予定されているところである。

・・・

国際化、情報化など社会経済情勢の急激な変化とあいまって、産業活動のボーダレス化が一層進展し、さらには経済のソフト化、サービス化など地域産業を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。

また、近年における海外との貿易不均衡の是正とともに、生産機能の海外移転に伴う地域産業の空洞化が懸念される中、海外との相互依存を図りつつ、既存産業の高度化・高付加価値化と次代を担う新たな産業の育成が急務となっている。

「産業と文化の調和ある豊かな人間都市づくり」は、これら地域の産業、文化、そして人材の育成が有機的に連携し、相乗効果を発揮しつつ三位一体となってはじめて実現する中長期的な都市づくりの目標である。

21世紀へのさらなる飛躍を期し、新たな産業・文化の創造と情報発信拠点の形成を目指した施策形成を図ってまいりたい。

（かねこ　はるお／浜松市企画部企画課長）



展示会風景（アクトシティ浜松展示イベントホール）



大学キャンパス風景

浜松らしい都市文化の創造

金子　治夫

人々の価値観の変化やライフスタイルの多様化を背景として、都市に求められる機能や果たす役割も変化してきており、地域固有の自然、歴史、文化、産業が都市の魅力を醸し出し、また、それが人、もの、情報の交流と蓄積を促し、新しい都市文化と産業を創造するなど、地域の活力を生み出すものである。

ＪＲ浜松駅を降りると、新しい浜松市のランドマーク「アクトタワー」（高さ212m、地上45階建て）が悠々と聳え、音楽の街を象徴するかのようにカリヨンの音が鳴り響き静かに時を告げている。

浜松市に最近訪れた皆さん方は、まず駅周辺の変貌ぶりに驚かれることであろう。

駅前の16バースのバスターミナルを核として、高層ビルと緑が一体化したアクトシティをはじめ、都心地区のオアシス空間となるフォルテ（第三セクターによる都市施設）、さらには、都市型ホテルや商業施設が相次いで整備され、これらの施設がアクアモール、ギャラリーモール、サンクンプラザ・サンクンガーデンなどの快適な歩行者動線で結ばれており、文化の薫り高い都市環境が創出されている。

土曜日、日曜日ともなると、思い思いのファッションを楽しむ若者達や家族連れで賑わい、街角ではプロムナードコンサートや街角コンサートが開催され、クラシック、ポピュラー、ジャズなどの様々なジャンルの音楽が流れ、都心ならではの賑わいの空間が演出されている。

浜松市では、市民の活動目標となり、また行財政運営の指針となる総合計画において、「産業と文化の調和ある豊かな人間都市」を都市づくりの理念として掲げるとともに、「高度な産業技術が集積する都市」「人、物、情報が交流する都市」「世界の音楽文化が薫る都市」を21世紀に向けての都市づくりの戦略として明確に位置付けていった。

もとより、まちづくりの原動力は「プライド・オブ・プレイス（地域の誇り）」を持つことにあり、それはまた、地域固有の資源を見つめ直し、それに文化的付加価値を与えることにほかならない。

「世界の音楽文化が薫る都市」は、こうした視点に裏付けされる都市戦略であり、２次産業を中心とする生産都市としてのイメージが強い浜松市を、これまで培われてきた生産力に加え、様々な文化交流から新たなビジネスチャンスや都市文化を創造し、消費都市・文化都市への展開を図ろうとする意図をも有している。

音楽文化都市構想の推進

日本で初めてピアノが造られた街、浜松。

音楽文化都市構想は、ヤマハ、カワイに代表される本市の伝統ある楽器産業の土壌と活力を生かしつつ、市民レベルから世界レベルに至る多様な音楽文化交流やイベントを展開し、音楽を通じた市民の豊かな感性や創造性を培い、都市型のライフスタイルを提供するとともに、個性ある都市文化の創造を目指すものである。



浜松市中心市街地



街角演奏風景

その推進拠点となるのがアクトシティと静岡県音楽公園（計画段階）であり、施設面ではいずれも国内ではトップクラスの機能を備えており、ハイグレードのオペラ、ミュージカルなどの公演や音楽創作活動が地方都市で可能となった。

また、アクトシティの相乗効果を高め、「音楽と楽器のまち浜松」を内外に広く紹介するため、我が国で初めての公立の楽器博物館を建設した。

楽器博物館は、世界の様々な地域の楽器を歴史的・体系的に展示するとともに、古楽器のレクチャーコンサートなどとの組み合わせにより、従来型の「見る博物館」のみならず、体験型の「聴く博物館」としての機能も有しており、当初の予想を遙かに上回る来館者を数えている。

街角に様々なジャンルの音楽が流れ、気軽に音楽が楽しめる街。世界から音楽が集まり、新しい音楽文化や音楽産業が生まれ育つ街。

それが、本市の目指す音楽文化都市構想のイメージであり、都市のアイデンティティの確立や魅力ある都市環境の創出に大きく寄与するものと考えている。

具体的には、市民レベルの音楽団体の育成や地域音楽教室、プロムナードコンサートの開催、さらには国内外の様々な音楽との出合いの創出や音楽を通じた交流を市民と一体となって進めている。

また、浜松国際ピアノコンクールやブザンソン国際青年指揮者コンクールの開催をはじめ、ポーランドのワルシャワ市、イタリアのサンレモ市と音楽文化友好交流都市協定を締結し、ショパンフェスティバルやミュージックシティフェスティバルの開催など、国際的な音楽イベントや文化交流事業の展開を図っている。

平成６年11月20日、アクトシティで開催された「第２回浜松国際ピアノコンクール」は成功裡に静かにエピローグを迎えた。

出場申し込み者数は49か国２地域の340人、延べ入場者数も１万人にのぼり、コンクールのレベルの高さはもとより、運営面、待遇面でも高い評価を得た。

ことに、楽器生産都市としてのバックボーンをいかんなく発揮し、練習会場には高級ピアノがセットされるとともに、市民の協力を得ながらホームステイも行われるなど、出場者には満足のいく環境が確保され、大変な好評を得ることが出来た。

平成７年４月に開催されたブザンソン国際青年指揮者コンクール、７月の第７回世界吹奏楽大会においても、浜松国際ピアノコンクールで培われたノウハウを生かし、市民・企業・行政が一体となって事業展開を図り、成功を収めた。

浜松市の都市づくりの歴史は浅く、世界の音楽文化が薫る都市づくりも未だ緒についたばかりである。

そして、いつの日かアクトシティから巣立った若き音楽家が世界の檜舞台に立った時、音楽文化都市浜松が世界に情報発信されるであろう。

（かねこ　はるお／浜松市企画部企画課長）



楽器博物館



浜松国際ピアノコンクール

アクトシティ浜松の施設概要

山下　堅司

浜松市は東京と大阪のほぼ中央にあり、人口約56万人、静岡県内で最大の都市である。21世紀に向けて飛躍を目指す浜松市は「高度な産業技術が集積する街」「人・物・情報が交流する都市」「世界の音楽文化が薫る都市」を目標に掲げ、様々な施策を積極的に進めてきた。「アクトシティ」はこれらの目標を具現化する都心部での推進拠点として、浜松市が第一生命グループをパートナーに官民一体となり開発し運営する壮大なプロジェクトであり、発展する浜松のシンボルとなるものである。

アクト（ＡＣＴ）とは、Ａはアート（芸術文化）、アコード（調和）、Ｃはコミュニケーション・コミュニティ（交流）、コンベンション、Ｔはテクノロジー（産業技術）、トータルマネジメント（一体的管理）などの頭文字からなる名称。文字通り音楽文化、産業技術、情報通信など高次な都市機能が複合した都市空間であり、自然に優しく、周辺地域と調和した街づくりをコンセプトに設計された。

アクトシティはA、B、C、Dの４ゾーンで構成され、Aゾーン（市施設）は大・中二つのホールとコングレスセンターがある。Bゾーンは民間施設アクトタワーで、オフィス、ホテル、商業ゾーンを擁する地上45階、高さ212.77mの超高層ビル。Cゾーン（市施設）は展示イベントホール。Dゾーン（市施設）は研修交流センターと楽器博物館という施設構成である。また、屋上を覆う緑の庭園と各所に配置されたアートワークが街全体に潤いを与え、歩行者デッキで各ゾーンを機能的に結びつけている。

世界の文化が薫るまち―Aゾーン

Aゾーンには、防音防振対策や音響技術など最新の設備を備えた大・中ホール、コングレスセンターが機能的に配置されているほかＪＲ浜松駅やバスターミナルと地下道でつながるサンクンプラザ、緑と光にあふれた屋上公園などがある。あらゆる舞台芸術を堪能できるだけでなく、大・中ホール、コングレスセンターが一体の施設となって、国際会議や各種コンベンションに対応できるのも大きな特徴となっている。

大ホール

日本初の四面舞台やコンピューター制御の最新設備を完備し、本格的なオペラや歌舞伎、バレエなど多様な舞台芸術に対応する。また、多機能ホールとして500インチの大型映像、一階席の会議用メモ台、６か国対応の同時通訳設備、中ホールやコングレスセンターの会議室と結ぶ同時放送設備を備え、国際会議や各種コンベンションに最高の環境を提供する。客席は３層４階で、2,336席。

中ホール

最新のテクノロジーを駆使して、クラシック音楽にとって最適な残響時間2.1秒を実現した音楽指向のホール。フランス・コワラン社製のパイプオルガンは、古典から現代まで幅広い楽曲の演奏に応える64ストップ、4,478本のパイプを備えている。客席は1,030席４か国語の同時通訳、370インチの大型映像を持つとともに、吸音カーテンによって残響時間を抑えるなどコンベンションにも対応する。

コングレスセンター

大小併せて13の会議室があり、それぞれの会議室の収容人数は18人から560人まで。貴賓室、印刷室、主催者事務室なども併設され、充実した会議の運営と進行ができる。また、大ホールとは各階のホワイエでつながるとともに、３階ではオークラアクトシティホテル浜松の宴会場とも直結しており、ケータリング機能と併せ一体的な利用を可能にしている。



全景



大ホール

産業と文化が交流するまち―Bゾーン

Bゾーンの中心は、アクトシティを象徴する地上45階、高さ212.77mの超高層ビル、アクトタワー。低層部にはガレリアモールとショッピング街、レストラン街で構成される商業ゾーン「アクトプラザ」、中層部はオフィス、高層部は「オークラアクトシティホテル浜松」。45階には「展望回廊」が設けられている。

アクトプラザ

ヨーロッパの街並みを感じさせる雰囲気で、花や緑をテーマにした全体のデザインは、19世紀にロンドンで流行したアート運動「アーツ&クラフツ」を取り入れている。カーブを描くガラス屋根のついた「ガレリアモール」は、高さ21m、長さ137mのおしゃれなプロムナード。妖精たちが時を告げる時計塔や上品なタペストリーが魅力を添えている。

オークラアクトシティホテル浜松

アクトタワーの1階から5階と、29階から44階に位置するオークラアクトシティホテル浜松は、客室324室、大小16の宴会場を備え、おもてなしの技術を世界に誇る国際級ホテル。キャッチフレーズは音楽都市浜松にちなんだ「おもてなしの匠（マエストロ）」。ソフト技術だけでなく、施設や内装にも音楽へのこだわりを打ち出している。楽器や楽譜をモチーフにした館内デザイン、音楽家にまつわるネーミングなど、見所は多い。44階のスイートルーム「シンフォニー・スイート」は、有名ホールと同じ音響効果が得られる設備が整っており、演奏家がくつろぎながら次のコンサートの準備ができる世界初の施設となっている。

展望回廊

地上45階に設けられた浜松の新しい展望名所。高さは185mで東海一を誇る。6階から分速150mの高速エレベーターに乗り、約1分で到着。南側には広大な遠州灘の水平線、北側には雄大な湖西連峰、南アルプスの山々、富士山も見渡すことができる。

人、物、情報が交流するまち―Cゾーン

Cゾーンには、広さ3,500㎡の展示イベントホールがある。JR浜松駅に隣接するという優れた立地条件を生かして見本市、展示会、各種イベントなど人、物、情報の交流ステージを提供する。

展示イベントホール

最大5,300席を確保できる3,500㎡の施設。開催規模に応じて3分割して利用することも可能。床には縦横にピットが走り、電気、給排水、電話などを自由に引き出すことができる。6室の控室は各種商談に好適で、主催者事務室も用意している。

高度産業技術と音楽文化が集積するまち―Dゾーン

Dゾーンは、地下1階、地上6階の建物。楽器博物館は公立では全国でも初めての楽器専門の博物館であり、世界中の楽器に、そして楽器の歴史に間近にふれることができる。研修交流センターは産業情報室、音楽セミナー室、会議室、研修交流室を備え、21世紀に向けた産業と文化の支援を積極的に進めている。

楽器博物館

2,190㎡の展示室を持ち、18世紀から20世紀にかけてのチェンバロ、ピアノ、ホルンなど世界各国の音楽の歴史を彩った楽器を収蔵、展示する計画で、オープン当初は米国のローゼンバウム家コレクションや、オーストリアを代表するピアニスト、イエルク・デムス氏のコレクションなどヨーロッパの鍵盤・管楽器や日本の楽器など600点余を展示する。今後も、楽器収集計画に基づき、シルクロードゆかりの楽器や世界の民族楽器など西暦2000年までに2,000点の収集を予定している。

研修交流センター

パソコン研修に対応した研修交流室や気軽に利用できる会議室が10室あり、遮音設備を備えた15の音楽セミナー室は、音楽の発表や練習にも利用できる。産業情報室は特許資料を中心とし、データベース、CD-ROM、産業専門図書等により情報を提供する。また講演会、講習会等による人材育成、交流サロンにおける情報交流等浜松市の産業振興の拠点となる。

（やました　けんじ／㈱アクトシティ浜松運営財団総務部主任）



オークラアクトシティホテル浜松「シンフォニー・スイート」



ガレリアモール

アクトシティ浜松の運営と今後の展開

山下　堅司

アクトシティの管理運営組織

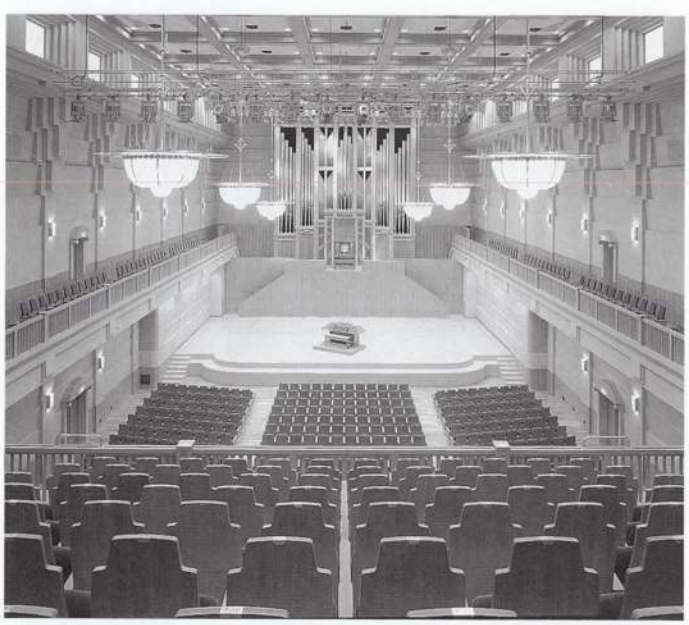
市・民間施設が一体となった複合施設であるアクトシティは、様々な都市機能が錯綜しており、その機能を十分に生かした運営管理が求められていた。浜松市と㈱アクトシティコーポレーション（第一生命グループの開発組織）では、効率的かつ機能的なアクトシティの運営管理を行うため、第三セクター方式を含め、様々な運営管理形態を想定して検討を進めた。検討結果、市施設、民間施設は、敷地内でその所有区分が明確に分かれているため、基本としては、それぞれの施設をそれぞれの所有者の責任において運営管理することとした。その運営管理組織として、市施設は浜松市の出捐金と第一生命グループ、地元企業、市民の皆様からの寄附金により設立した㈶アクトシティ浜松運営財団が行い、民間施設はすでに開発組織として機能を果たしてきた㈱アクトシティコーポレーションが当たることとなった。しかし、駐車場をはじめユーティリティセンター、防災センター、情報設備など両者が共用する設備については、一つの管理組織が一括管理する必要があるため、第三セクター方式により新たに㈱アクトシティマネジメントを設立した。また、静岡県下で初めて導入した地域冷暖房システムの経営組織として、浜松熱供給㈱を第三セクター方式で設立した。

これにより、アクトシティの管理体制はすべて整い、官民の垣根を越え、効率的管理運営に努めている。

アクトシティの運営状況

アクトシティは平成６年10月ロリン・マゼール指揮バイエルン放送交響楽団によるオープン記念コンサートによりオープンの幕を開けたわけであるが、これ以降大ホールが常に90％以上の稼働率を維持しており、楽器博物館もオープン８か月*にして入館者が10万人を突破、また、展望回廊についてもオープン14か月で入場者が90万人を突破するなど、いずれの施設も順調な推移をたどっている。

アクトシティ計画の３つの大きな柱である、アート、コンベンション、テクノロジーの振興に関しても着実な成果を上げつつある。アートでは、ロリン・マゼール氏やダニエル・バレンボイム氏など世界のマエストロをアクトシティに迎えることができ、また、浜松国際ピアノコンクール、ブザンソン国際青年指揮者コンクール、浜松国際管楽器アカデミー、世界吹奏楽大会等を通して世界中の若手音楽家・音楽愛好家が浜松に集い、浜松からはばたいていった。さらに、海外の音楽先進地の優れたノウハウを吸収するために、すでに音楽文化友好交流協定を締結しているポーランド・ワルシャワ市（平成２年10月～）、イタリア・サンレモ市（平成３年７月～）に加え、チェコ・プラハ国立劇場と提携することとなり、プラハオペラ公演など定期的な友好・交流事業が開催されることとなった。コンベンションについては、アクトシティが持つコンベンションの三大要素といわれる、会議・宿泊・展示機能を最大限に活用した大規模



中ホール



オークラアクトシティホテル浜松「ロビー・フロント」

コンベンションがオープン以来50件開催され、特に学会に関しては医学を中心に19件を数えるなど、当初予想をはるかに超える誘致に成功している。なお、トレードショウへの出展や、新たなジャンルとしてインセンティブコンベンションなどを対象にし、引き続き誘致活動に努めている。また、テクノロジーの面においては産業情報室が研究開発型企業を中心とする地元企業への産業情報の提供やデータベース講習会等の人材育成事業を展開している。一方、民間施設であるアクトタワーは東海道の中間点の現代における道標として、発展する浜松の象徴としてのランドマークというイメージが定着しつつある。ホテル、商業施設部分については、市施設との相乗効果により、特にイベント・コンベンション開催時の集客力を生かした営業展開をし、相当の成果を上げている。

アクトシティの今後の展開について

アクトシティ計画は施設の完成によって終了するものではない。もともとアクトシティ計画に求められているものは、浜松地域の経済活性化であり、楽器の街から音楽の街への脱脚であり、さらには情報の発信である。つまり、これらが実現化したときこそが真のアクトシティの完成である。したがって、継続的な事業展開が必要であり、アクト効果を周辺地域に広く浸透させていかなくてはならない。このためには、二つの課題が考えられる。一点目としては、周辺地区の開発事業との整合性であり、一体化にある。現在、施設北側の地区においては区画整理事業による新たな街づくりを進めており、この区域内には地域情報センター・文科系四年制大学の設置や国・県等行政機関の他地区からの移転が計画されている。この地区を含むＪＲ浜松駅東地区は情報・行政・文化の一大発信エリアとなりうる可能性を秘めているわけである。この可能性の鍵はアクトシティが開かれた拠点として、支援機能を発揮することができるのかにある。二点目としては、関係機関との提携による事業の推進である。幸いにして、浜松地区にはアクトシティ計画と目的を同じくする関係機関が多数活動をしている。先端技術産業の集積を図るテクノポリス計画の推進機関である「㈶浜松地域テクノポリス推進機構」、第三セクターにより研究開発と人材育成を進める「㈱浜名湖国際頭脳センター」、世界的な音楽拠点の形成を図る「静岡県音楽公園」コンベンション誘致を図る「㈶浜松コンベンションビューロー」などがある。これら関係機関といかに連係を図り、効率の良い実効性の高い事業展開を図るかが重要である。アクトシティ計画の原点は、遠く昭和37年の東海道本線高架化促進期成同盟会の設置までさかのぼる。今日まで実に34年の年月を費やし、幾多の努力をされた諸先達の意志を、現在アクトシティの管理運営に携わっている我々が受け継ぎ21世紀初頭までにアクトシティ計画の完了を目指したい。

（やました　けんじ／㈶アクトシティ浜松運営財団総務部主任）

・・・

※楽器博物館・研修交流センター部分のみ平成７年４月オープン



ワルシャワ市との友好のシンボル「ショパン像」



プラハオペラ「ドン・ジョバンニ」

アクトシティ浜松の設計にあたって

米川　龍夫

都市空間の中のアクトシティ

「アクトシティ浜松」は、芸術文化、交流、先端技術の三つを複合しながら、浜松から世界に向かって創造的な情報を発信するという理念のもとに、「産業と文化の調和する豊かな人間都市」を目指す浜松市の新しい街づくりの都心部における開発拠点として位置づけられた、官民一体の複合開発である。

計画地は浜松駅前に生み出された貴重な土地であり、市民に開放された魅力的な公共スペースによる都市型交流空間を目指すとともに、浜松の顔として、それにふさわしいシンボル的な空間の創出を意図した。駅前開発では一般的に難しいとされる緑あふれる環境を創出するため、街区全体を「立体公園」と位置づけている。

駅前広場からデッキ・地下道で有効に連絡された人々の憩うサンクン広場、民間施設の導入部をになうガレリアモール、ホールや商業施設（アクトプラザ）など低層部の屋上を有効利用し、緑と変化のある空間演出がなされた屋上庭園などが歩車分離され、各所に動く歩道が設けられた回遊性のある快適な歩行者ネットワークで結ばれており、施設全体が広く市民に開放された公共スペースとして計画されている。

新しい超高層ビルの実現にむけて

浜松のランドマークとなる一棟の超高層タワー（アクトタワー）は、風が強いといわれる地域性を考慮し、主方向を東西に向け、平面形状を流線型にすることによって、その周辺地域に及ぼす影響の軽減をはかっている。また、タワー上部をセットバックさせた形態は、北側周辺地域への日影の影響を配慮し、さらにホテル客室と事務室空間を縦に重ねる必要から生じた、超高層ビルとして初めて採用した「スーパートラス」の開発によって実現した。

一方曲面の外壁は、テレビ電波を乱反射させることにより、電波吸収材（フェライト）装着と併せて、電波反射障害の影響範囲の縮小をはかった結果生み出された。このように、それぞれの設計意図を具現化し、課題を技術的に解決してゆくなかで、超高層ビルとしては特徴のある独特のフォルムが生み出されたといえる。

複合施設の個別化と一体化
―より大きな機能の実現にむけて―

官民共同の開発事業と、多用途多種類の複合建築という側面から、街区（ゾーン）ごとの所有区分、用途（機能）区分、管理運営区分に対応した明快なプランニングと同時に、アクトシティ全体の一体的な効果（魅力の増幅、機能の相互補完、相乗効果、運営の一元化）を発揮するという、相対する与条件の統一を目指し施設計画を行っている。

それぞれの街区（ゾーン）に設けられた施設は、オペラ上演を視野にいれた我国初の４面舞台をもつ大ホール、音響条件を重視したコンサート指向の中ホール、設備対応やフレキシビリティを重視した平土間の展示イベントホール、婚礼披露宴や料飲サービスに重点をおいたホテルの宴会場など、集会施設として類似のものであっても、規模・装備などで差別化をはかり、それぞれの目的に応じて住みわけられるよう計画した。

一方、これらの施設は、大規模な大会などでは、全体会議、分科会、パーティーや宿泊など、それぞれの分野をにないつつ、アクトシティ全体としてひとつひとつの大きな機能が発揮できることを目指している。

また、地域冷暖房プラントやユーティリティーセンターを設け、設備システムや防災システムの一元化をはかるとともに、全施設に共通の LAN を構築し、ひとつの情報ネットワークに組み込むなど多機能の諸施設の有機的な統合をはかっている。

音楽の〝街〟のデザイン

アクトタワーをはじめ、立体公園やガレリアモールなど、この施設を貫くデザインイメージは「音楽の街浜松」にふさわしい、音楽や楽器を連想させるエレガントな曲線や曲面の構成であり、設計で意図した空間演出やデザインは、ともすると権威的で非人間的に映える超高層ビルや大規模開発を、親しみやすく、やさしく、安心感のある都市空間の一部とすることであった。

（よねかわ　たつお／㈱日本設計第一建築設計群）



全景



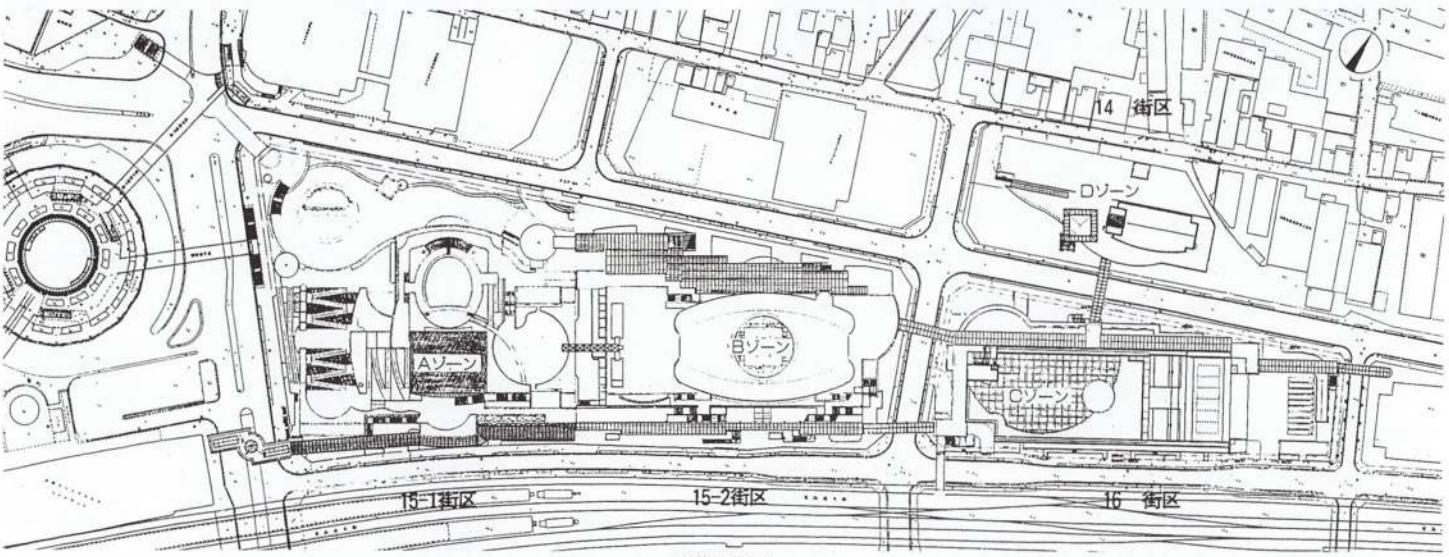
立体公園



ガレリアモール



大ホール



全体配置図

浜松市楽器博物館

佐藤　剛

はじめに

浜松市は徳川家康築城の浜松城を中心に発展してきた城下町である。東海道のほぼ中央に位置し、古くから東西交流の主要な宿場町としても栄えてきた。現在は静岡県最大の人口56万人余を擁し、東海地方の中核をなす都市である。

浜松といってまず連想されるものはホンダ、スズキ、ヤマハなどの世界的な企業であろう。これらがこの地に生まれた背景には様々な要因が考えられるが、その一つとして「やらまいか」（遠州方言で「やってみようではないか」の意）という精神がある。これがこの地の発展の原動力になっているといえよう。

そんなやらまいか精神にあふれる浜松が、また一つ全国に先駆けて達成したことがある。それが楽器博物館の建設である。

施設構成

浜松市の主要産業の一つに楽器がある。これは約100年前、山葉寅楠氏によってリード・オルガンが作られたことがきっかけである。浜松市は現在、ヤマハ、カワイのような世界に名だたる楽器メーカーを持ち、管楽器80%、ピアノ99%の全国シェアを誇るまでになった。

このような楽器産業を基盤とし、浜松市では21世紀を展望する新しい街づくりの基本目標に、「音楽の街づくり」というものを掲げている。その拠点の一つとなっているのが、ＪＲ浜松駅東側に1994年10月に建設されたアクトシティ浜松である。アクトシティ浜松は旧国鉄の貨物ヤード跡地に、官民一体となって建設された音楽文化をベースとした大規模複合施設である。この最東部、Dゾーン（第14街区）に1995年４月９日にオープンしたのが、音楽の街づくり構想の中核をなす楽器博物館である。

楽器博物館はアクトシティ浜松の一部をなしており、Dゾーンと呼ばれる同じ建物内には、特許公報類の地方閲覧所である産業情報室、防音設備を施した各種音楽レッスンのための音楽セミナー室14室、大小の会議室10室がある。全体では地上６階・地下１階、敷地面積5,203m²、建築面積3,317m²、エントランスは総ガラス張りで、外観はグランドピアノの曲線を模した形となっている。

楽器博物館はこの１階、地下１階部分を使用し、展示室は１階第１展示室872m²、地下１階第２展示室738m²、第３展示室550m²である。展示室以外では収蔵庫221m²、工作室27m²、学芸員室132m²などがあり、楽器博物館占有部分は4,110m²である。各展示室、収蔵庫はアクトシティ浜松Cゾーン地域冷暖房プラントより冷水、温水、蒸気の供給を受け、ダブルコイル空調機による単一ダクト方式で24時間空調をしており、展示室内は常に温度22度、湿度50～55%に保たれている。

資料収集と展示方法

浜松市は国内洋楽器産業発祥の地であるため、かねてから楽器博物館の計画はあったものの、楽器の収集が困難であったためなかなか実現されなかった。そんな折、ニューヨークの楽器収集家故ロバート・ローゼンバウム氏の家族からコレクションを一般市民に公開するのであれば、一括して譲ってもよいという申し出があり、1991年浜松市がローゼンバウム家から459点の楽器を購入した。これをきっかけに楽器博物館の建設計画は一気に加速し、様々な楽器が世界各国から集められ、1995年４月オープンとなった。

これまで国内に楽器を収集した博物館はあったが、それは音楽大学の付属施設や個人のコレクションの公開であったり、ある特定の楽器のみを集めたものであり、あらゆる地域・時代を範疇に入れたものとしては、当館は公立で初の博物館である。

現在は第１展示室、第２展示室を常設展示、第３展示室を特別展示等に使用している。これらのスペースに、世界中の様々な地域・時代の楽器を効率よく展示し、見学しやすくするには、楽器の分類が必要となる。そのための分類法はいくつかあるが、当館ではホルンボステル＝ザックス分類法を採用している。この方法は楽器を発音原理に基づいて分類するもので、次のように５種に大別する。

①気鳴楽器（空気柱の振動によって音を発生させるもので、主に管楽器。例：尺八、トランペット、クラリネット）
②体鳴楽器（それ自体が鳴る素材で作られたもの：例シンバル、トライアングル、拍子木）
③膜鳴楽器（張られた膜や皮の振動によって音を出すもの。例：太鼓、鼓、タンバリン）
④弦鳴楽器（弦を弾いたり、擦ったり、打ったりして音を出すもの。例：ギター、ヴァイオリン、ピアノ）
⑤電鳴楽器（電気を使って音を出すもの。例：シンセサイザー、エレクトリック・ギター）

これらの分類を基に、ピアノ産業が盛んであるという浜松市の地域性を考慮し、弦鳴楽器の内、ピアノなどの鍵盤楽器を別分類とし、第１展示室に弦鳴楽器（ピアノ以外）、第２展示室に気鳴楽器、体鳴楽器、膜鳴楽器および弦鳴楽器（ピアノ）を展示している。現在のところ電鳴楽器は扱っておらず、展示品は全体で600余点、収蔵品は950点余である。

館内に入ると楽器独特の雰囲気につつまれ、博物館にはめずらしい華やかさを感じることができる。その一つの要因として、当館の特色であるオープン展示が挙げられる。楽器はガラスのケースに陳列されているのではなく、すべて露出展示されている。手を触れることはできないが、これにより展示品と来館者との感覚的距離をなくし、普段見ることのできない珍しい楽器を、より身近に感じることができる。さらに展示品の前にヘッドフォンが2台ずつ設置され、目の前の楽器の音を聴くことができる。楽器は音を奏でる道具なので、その姿を見ればどうしてもその音を聴いてみたくなるであろう。ヘッドフォンが設置されていることで、そのような欲求も十分満たされるはずである。現在、展示ブースごとに設置されたヘッドフォンは71箇所あり、それぞれ代表的な楽器の音を聴くことができる。また鍵盤楽器は、カットモデルという楽器内部の構造を観察できる模型により、鍵盤を押してから発音するまでのしくみの違いを理解できるようになっている。

展示品紹介

次に展示品の一部を紹介すると、代表的なものにイタリアのバルトロメオ・クリストフォリのピアノの復元品がある。彼はピアノの発明者として知られ、そのオリジナルはメトロポリタン博物館、ライプツィヒ大学楽器博物館、ローマ楽器博物館に現存する。展示品はこの3台を詳しく調査し、それを基にクリストフォリの作ったピアノ第一号機を復元したものである。現存する3台は1720年代のものなので、実際の演奏には耐えられないが、この復元品により当時の音（本当の音がどんなものであったか誰も確かめられないのだが……）を再現することができる。昨年11月にはこのピアノを使ったコンサートも行い、聴衆も古のピアノの響きに聴きほれていた。



ピアノの発明者クリストフォリ(伊)のピアノ第1号機の復元品

来館者が非常に興味を示すものの一つに自動ピアノがある。現在、自動ピアノといえばコンピューターを使ったものが一般的であるが、展示品は機械式で、その発明はなんと19世紀に遡る。展示品は1926年製（ロンドン）、1927年製（ニューヨーク）で、コンピューターはもちろん、1926年製の方は電気すら必要ないのである。しかも演奏は現在のコンピューター制御のものと比較しても遜色ないのである。この仕組みは大変複雑だが、簡単にいえば、穴をあけた紙製のロールによって演奏されるのである。つまりオルゴールの応用と考えれば分かり易く、オルゴールのドラムをロールにし、ドラム上のピンをロールの穴にしたものである。これをコンプレッサーまたはリード・オルガンのような足踏み式のふいごを使って吸気する。すると穴のあいた部分だけが吸われ、その部分の鍵盤が下がり、音が発するといったしくみである。

この自動ピアノは、ピアニストの人件費削減のために発明されたと考えられている。また、蓄音機の発明以後、衰退したことを考えると、演奏を残すために考え出された録音・再生装置ともいえるであろう。つまりロールはレコードやCDのようなものであり、録音技術がなかった頃にどのような演奏をしていたかを知る唯一の術である。なかにはドビュッシーやパデレフスキーが実演したものもあり、当時の名作曲家の演奏を楽しむこともできる。現在1日4回実演しているので、当時のピアノ演奏を堪能されてみてはいかがであろうか。

むすび

楽器はその素材や形、音の出し方や音色、そこから生み出される音楽を通して、それぞれの地域と時代に生きた人々の知恵や感性を、鮮明に映し出してくれる。そこには先人達の創意工夫や地域による考え方の違いなど、今まで気付かなかった新たな発見があるだろう。

我々が楽器というものを考えるとき、音楽との関わりはもちろんだが、それ以外にも様々な角度からの見方や考察ができる。例えば、楽器に描かれた絵を通しての美術学的な見方、楽器の存在意義、使われ方などを考える文化人類学的な見方、楽器にまつわる神話などを考える宗教学的な見方、数百年前にどのような素材を使っていたかという材料学的な見方、現代のような工作機器がなかった頃、どのように製作していたかという技術学的な見方など、来館者がそれぞれのテーマで見ていけば、その楽しみ方は無限である。

楽器の展示以外にも、展示品が使われていた頃の音楽を、実際に聴くことができるレクチャーコンサート、工作気分で楽器を作る体験学習、楽器の背景にある文化を考察するセミナー等様々な催しがあり、楽器・音楽を中心とした生涯学習の絶好の場であろう。現在はヨーロッパと日本の楽器が中心だが、今後はアジア・アフリカ・南北アメリカ・オセアニア等の楽器を中心に、西暦2000年に収蔵品2000点を目標に、収集活動を展開していく計画である。そうなれば、楽しみ方もさらに倍増するはずである。このように浜松市楽器博物館は、様々な時代や地域で作られた楽器を眺めながら、「人間」と「文化」を考えていくことを目的としている。

（さとう　たけし／浜松市楽器博物館）

フォルテビル

浜松都市開発㈱

事業の目的

本地区は、ＪＲ浜松駅北口バスターミナルに面し、また、中心商業ゾーンである西街区への導入部に位置している。

駅周辺は、東海道本線連続立体交差化事業、遠州鉄道連続立体交差化事業並びに浜松駅周辺土地区画整理事業の各事業の施行により大きく変貌し、56万都市浜松の玄関口として、さらには、浜松地域テクノポリスの母都市として、21世紀に向け高次な都市機能の集積と個性あふれるまちづくりが進められている。

フォルテの建設された11街区は、一部旧国鉄用地を含むものであったが、市民共有の貴重な財産としての観点から、浜松市がこれを取得することとなった。

浜松市では、「浜松の顔づくり」として多くの市民が注視し、多くの期待が込められ、市民各界各層からの様々な要望が出され、この開発整備について、駅前としてふさわしい整備の検討を重ねた。

この結果、隣接土地所有者である遠州鉄道株式会社との共同により一体開発を図るものとなり、交通結接点機能を活かし、周辺の商業集積との有機的な連携や一体性、魅力ある都市景観の形成、さらには、市民の憩いの場の創出という観点にたち、人々の都市活動における賑わいを演出する中核施設として位置づけたものである。

この事業主体として、浜松市、日本開発銀行及び民間企業の出資を受け、昭和63年（1988年）２月、第三セクターとして「浜松都市開発株式会社」を設立した。

フォルテビルの特徴

当ビルは浜松都市開発株式会社と遠州鉄道株式会社の共同ビルであり、それぞれが床面積の2/3及び1/3を区分所有している。遠州鉄道株式会社は本社機能及びテナントへの賃貸、浜松都市開発株式会社はテナントへの賃貸とホール・ガーデン及び会議室の貸館とを主な業務としている。

しかし、フォルテビルは単なる経済効率一辺倒の箱ビルとして意図されたビルではないことは、その外観からもわかると思われる。構造的には建物の中央通路によって東側のアトリウム棟（８階までの吹き抜け＝高さ36m）と西側のオフィス棟のふたつに区分される。

アトリウム棟には吹き抜け部分をコの字型に囲むようにレストラン、国際交流テラス、カルチャー教室、パソコンショップ、年金相談センター、喫茶店、ATMコーナー等のテナントが入居し、各フロアーごとに多彩な展開を見せている。「ビル内を自由に人々が回遊する」ことを想定したテナント構成を目指している。

一方、オフィス棟は市民サービスセンター(浜松市)、地元テレビ局、信販会社、コンピューターソフトハウス等のテナントが入居している。

当社の管理する部分のうちで最も特徴のある施設はアトリウム棟１階のガーデンと地下２階にあるホールである。



浜松駅前バスターミナルに対峙するフォルテビル



正面外観

フォルテビル建築概要
事 業 主　浜松都市開発㈱・遠州鉄道㈱
主要用途　ホール等文化施設及びオフィス、店舗
工　　期　平成元年１月～平成２年11月
竣　　工　平成２年11月14日
敷地面積　3,253.2 ㎡　　建築面積　2,851.98㎡
延床面積　21,494.85㎡　　建ぺい率　87.28%　　容積率　599.96%
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造　地下３階　地上12階　塔屋１階
高　　さ　50.995m　　軒　　高　45.00m

ガーデンは８階までの吹き抜け構造となっている。面積はおよそ580㎡、気積33,800㎥。ここは前述したように「市民の憩いの場の創出」「人々の都市活動における賑わいを演出する中核施設」をコンセプトに設けられた。中空には「雲システム」――アリーナ型スピーカーを内蔵した音響・照明一体型システム――を備え、定期コンサート、展示会、各種フェスティバル、農産物の展示即売会等広く市民の利用に供されている。平成７年度の週末の稼働率は80%台となった。三々五々休息に立ち寄る人たち、ノートを拡げる学生も多く見られ、また夕刻ともなれば待ち合わせの場としても利用され、「屋根のある公園」としてガーデンは市民の生活に定着した観がある。

また、２階ガーデン（面積250㎡）は、１階ガーデンのイベントと連携した利用のほか、イベントのない時は浜松市の市政・サービスの紹介をする広報展を実施し、年間を通じて利用されている。

一方、ホールは面積497㎡、最大客席数810席、その他に楽屋５室、シャワー室、搬入用リフト（2.1m×4.8m）がある。音響、照明、舞台等には最新のシステムを備え、さらに可動床機構（17のブロックに分割された床が上下2mの範囲で動く）と椅子を床下に収納する機構を採用することで様々なステージレイアウトを組むことができ一各種講演会、映画会、記念式典、ファッションショー、コンサート、演劇、展示会等一多目的ホールの機能を有している。利用状況は、オープン初年度（平成２年11月オープン）の40%台から平成７年度は70%台（見込み）へと着実な伸びを見せている。

５年間を振り返って…雑感

都市景観としてのフォルテビルを考えてみれば、おおいに健闘しているのではないだろうか。ここ浜松も地方都市の例にもれず、駅前には銀行、証券、生保会社のビルがあり、それらは夕刻にはシャッターを下ろし、通りは街路灯だけとなる。当社が年中無休、午前７時開館、午後10時閉館という方針をとるのは、こうした駅前の無機質さに少しでも温もりを感じさせることができればという思いもある。

オープン当初「そこ（フォルテ）は無料で入れるんですか」という問い合わせが多く寄せられた。コンサートがあれば「入場料は～？」と考えるが、ガーデンでの催し物については料金を徴収したことはない。ガーデンが吹き抜け構造のため、上階のテラスから見ることができるので、有料にする意味がないのである。多くの人々が気軽に来館し、楽しんでいただければ良いのであって、それこそ建設の根幹精神に他ならない。

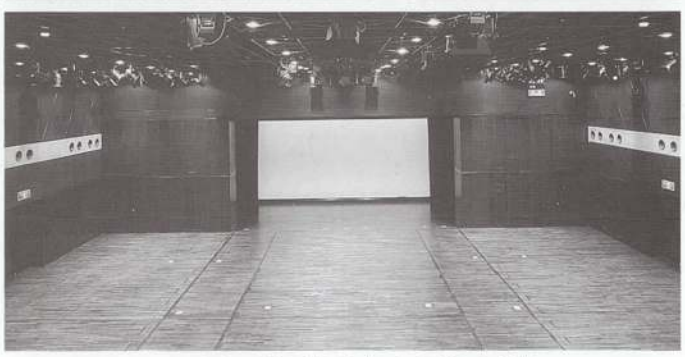
オフィスビルが大半を占める浜松市。その中でフォルテはオフィスでありながら、イベントスペースや休息のスペースもあるといささか毛色の変わった異端的な性格を持ち合わせた多機能ビルである。浜松市におけるこの種の前衛的な実験ビルの先駆けとしての自覚をもって、これからも管理運営に職員一同全力を投入していきたい。

（文責 小川博一）



ガーデン





ホール（下の写真は椅子を床下に収納した状態）

フォルテの設計にあたって

原田　鎮郎

音楽都市・浜松の顔

われわれがフォルテの設計に着手する以前に、浜松市に対してこの駅前の一等地をいかに活用すべきかという意見が幅広く一般市民から寄せられた。その中で駅前にこそ広大な都市公園をつくるべきであるという意見も数多くみられた。それは単にフォルテの敷地にとどまらず、東街区とよばれる現在のアクトシティ全体の敷地までを含めての指摘であった。それらの指摘はいくつかのねらいがあったように思える。一つは、人々が集積する都心部こそ都市公園の有効性が高いとする考え方であり、また、今後の浜松市の長期的な発展のためのリザーブドスペースとして余白の都市公園を残しておくべきとする考えもあった。これらの主張は、この地域に配置すべき盛りだくさんの機能が現実的になるにつれて現実性を失っていったけれども、公園の持つだれもが、いつでも自由にアクセスでき、そこでリフレッシュできるというコンセプトは、たとえ建物をつくるにしても、引き継がれるべき基本的な考え方であると思えた。そして現実的には公園のような空間をつくるにしても、冬期の北からの季節風を考えると、屋外の吹きさらしの公園よりも、屋内化された公園のような空間の方がより有効性が高いと考えるに至った。例えばニューヨークのIBMの竹の植えられたアトリウムやワールドファイナンシャルセンターのウィンターガーデンのような空間である。

屋内型都市公園を核に

そこでフォルテの設計にあたっては、求められた個々の機能を満たすだけでなく、それらを結びつけるロビー空間を十分にかつ魅力的につくりあげることが重要であると認識するに至った。求められた個々の機能は700人規模の多目的ホール、これは、音楽会、演劇展示、パーティなどの各種イベントに対応できるように、可変型の床と椅子の機構を組みこんだ。そして遠州鉄道の本社ビルとしてのオフィス機能、そして大小いくつかの会議室、飲食、物販などのテナント機能、それに市役所のサービス窓口機能などであった。幸いにして空間ボリュームとしてはそれらの個々の機能を含んでも余裕のある容積を確保することが可能であった。そこで求められた個々の機能を立体的に配置し、それらの機能の間を自由に動きまわれる屋内型の新しいタイプの駅前公園をつくりだし、それを浜松の顔とすることにした。遠鉄の本社ビルとしてのオフィス機能を背面にして、前面の駅前広場に面して屋内型都市公園をつくり、地下に多目的ホールを置くという基本的な空間構成は、設計の早い段階で決められた。問題は、その屋内型都市公園の具体的なデザインであった。ここでわれわれが最初に提案したタイプは、この公園都市を完全な屋内空間とはせずに、半屋外的な空間として冬の北風や、雨は防ぎながらも、中間期の自然通風が確保できるようなものであった。屋根はガラスにルーバー等を組みこんで日射をコントロールし、雨を防ぐシステムとした。壁にあたる垂直部分は、原則として共用部分は開放し、強風雨時に横風をコントロールするスクリーンを設けて、特に機械的な空調は行わないことを提案した。結果的にはこの提案は猛暑や寒さの厳しい期間には、ここを訪れる人々の空調への期待感が大きいこと、技術的に完全空調エリアと半屋外公園を空間的に区分する必要があることなどから、かえって空間構成が複雑になることなどのいくつかの理由から実現には至らなかった。しかし大きな空間ボリュームを持つアトリウムを単純に機械力で空調していく発想ではなく、特に中間期から初夏にかけての換気に十分留意し空調負荷の軽減につとめた。

その後、われわれの事務所においては、先日中止が決定された東京都のフロンティア博覧会における屋外環境のエコロジカルな空調システムを共同開発した。これは水の蒸発潜熱を利用した空調システムで屋外環境でも涼風が得られるものである。このようなスポットクーリングやヒーティングのようなシステムを持ったベンチや広場、シェルターを組みこんで半屋外型の公園をつくりだせればと思っている。

透明感の確保

アトリウムの形態については、直線的なノコギリ屋根のようなものから、最終案となった曲面を持ったタイプのものまで、いくつもの案が比較検討された。

フォルテはそのデザインにおいて浜松の顔となるべきアイデンティティと、周辺環境、ランドスケープと一体となるハーモニーという二面性を求められていた。当時、浜松駅のユニークなバスターミナル広場と名鉄ホテルが完成し、駅ビルのメイワンおよびフォルテに隣接する遠鉄百貨店が建設中であった。それぞれの建物は地下でバスターミナルに連結されてはいたが、ランドスケープ的にバスターミナルは周辺建物をひきつける求心力を持ってはいなかった。フ

ォルテはその配置において、完全に軸線をバスターミナルの中心に合致させることはしなかったが、ほぼ正面を向いて相対し、バスターミナルの中心部に建てられているモニュメントと呼応するライティングやレーザーのイベントなども構想した。

やや余談になるが、フォルテには、アメリカの環境彫刻家ロブ・フィッシャーの作品が、アトリウムとオフィスロビーの間に吊り下げられている。

フォルテとバスターミナル中央のモニュメントとの間のさまざまな光のイベントの企画についてもロブ・フィッシャーからアイデアを提供してもらったが実現には至っていない。なおロブ・フィッシャーは、今夏アトランタで開催されるオリンピックの期間中、アトランタで最高のネーションズバンクヒルを使って、光のページェントをくりひろげるイベントのデザイナーに選ばれている。

ガラスの外装は、半屋外公園をつくり出すためには透明感の確保が不可欠であることから、ガラス以外の材料は考えられなかった。結果的には、現在、バスターミナルを囲んでいる主要な建物のファサードにはガラスのカーテンウォールが使われていて、ある程度イメージの共有化が行われている。

この透明感のある都市公園の内部空間化のコンセプトは、実はフォルテにとどまってはいない。フォルテに引き続いて計画が具体化され、事業コンペとなった東街区の計画においても、われわれは同様のコンセプトを持つ超高層ビルコンプレックスをデザインし、提案した。西欧型の、外部空間と内部空間を厳密に区分するシステムではなく、超高層ビルの周辺にわが国の伝統的建築の持つ内部空間と外部空間の間の中間的な領域を持つ超高層ビルの提案であった。超高層ビルの外被によってつくられる半屋外空間は下層部から上層部に至るまで自然とのインターフェースを持ったユニークなものであった。私はABC（アドバンスド・ビルディング・コンプレックス）と名付けたこの超高層ビルがフォルテと対峙することを夢みたのだが、残念ながらわれわれの案は実現に至らなかった。

身近な市民広場

フォルテが完成した後、ガーデンとよばれるアトリウムの中央で行われるイベントの際に空中をはしる2本のブリッジに鈴なりの観客が並んだり、ガーデンに置かれた椅子とテーブルを予想以上に高校生が積極的に利用して勉強していたり、早朝から散歩やジョギングの人々が立ち寄って休んだり、はじめの設計段階では予想しなかったような使われ方がされているのはうれしい限りである。アクトシティが完成し、その圧倒的なボリュームの前にフォルテの存在感が薄れたかのように見えるかもしれないが、最初のコンセプト通りに、いつでもだれでも自由に気楽に立ち寄れる都市公園、または都市のお茶の間のような空間として、アクトシティとは違う市民の身近な存在として生き続けてほしいと願っている。

（はらだ　しずお／環境システム研究所所長）



ガーデン



ガーデンにおけるイベント風景

施設利用体験記

―フォルテホール―

上保　節子

劇場と劇団

外国では、劇場のあるところには小屋付きの劇団があるという話をよく聞きます。劇場と劇団と地域が密接に結びついた文化環境が、劇団を育て、結果的には良質な演劇を鑑賞できるという関係を構築できる。理想的な環境だなと羨ましく思います。

そこまで行かないが、私たち劇団たんぽぽとフォルテホールは特別の関係を築いて来ました。築いたといってもフォルテ側の理解に寄るところが大なのですが。

地域にある劇団と劇場は共に地域住民に何を提供できるかで協力し合う関係が大切なのだと思います、ハード（劇場）とソフト（演劇）は一組と考え共に力を出し合うことでいろいろなことが可能になると思うのです。

そういう意味でもフォルテは地域にある劇団を大切にしてくれます。利用回数を問わず優先的に考えてくれるし、また利用料金についても便宜を図ってくれます。

地域で活動しているとその地域での社会的責任というか、社会的存在理由を問われるわけです。劇団だから素晴らしい劇をつくることがもちろん第一の社会的責任なわけですが、その他にも地域の潤滑油的な活動もあるわけですよ。たとえば、浜松市は外国人就労者が一万人はいるといわれています。その子弟を対象にしたクリスマスチャリティー公演を毎年やるわけですが、その時会場を提供してくれるのがフォルテホールなんですよ。



K・チャペック原作「長い長い郵便屋さん」より

利用者として

私たちが、利用者として気持ちよく使えるかどうかは大切なことです。構造的に使いやすいかどうかが問われることはもちろんですが、利用者としては、管理面から委託のスタッフの対応をふくめて、気持ちよく利用できるかどうかが問題です。

ホールのスタッフも地元のステージループという委託会社が入っていますが、まるで自分の劇団のように対応してくれるわけです。こういう小屋付きのスタッフに恵まれていることも有難いことです。

私たちの劇団は、年間多くて百箇所ぐらいの貸しホールを利用しますが、時にはとても不愉快な気分にさせられるスタッフに会うこともあります。その都度フォルテホールと比較してしまいます。演劇空間を提供するということは、演劇の成立に力をかしているという意識をなくしてほしくないと思うのは手前勝手なのでしょうか。

演技スペースの自由さ

児童劇に限らないと思いますが、作品によってはどうしてもプロセニアムを出て、客席の中で演じたい芝居が多々あります。従来のホールはどうしても固定席が常識になっているので、なかなかこちらの意図した演技空間を創り出すことが難しいのです。

観客としての子供たちを、ただの観客とせずに、ともに空間を共有しあい、見る人と演ずる人が一緒になって劇を成立させたいと思うと、プロセニアムを出て客席の中で演じる空間がほしくなるのです。しかも、客席の中にあてる照明設備もほしいのですから、そんな要求に答えてくれるのも、フォルテなんです。客席の床面が自由に上げ下げ出来るので客席内のどこにでも演技空間を創ることができるわけです。おかげで観客に囲まれるような場所での公演も可能となるわけです。

反面、スタッフの方は床面を自由に上げ下げする時、床面をそろえる技術、微調整が大変なようです。また、わずかな隙間に物が落ちることがあるようで、その辺も心配の種だそうです。

これからも自由に演技空間を広げ、色々な可能性に挑戦して行きたいと思っています。そして、いつの日か社団法人教育演劇研究協会の直属劇団として、児童演劇専用の劇場を持てる日をめざして頑張りたいと思います。

（かみほ　せつこ／㈳教育演劇研究協会 劇団たんぽぽ事務局長）

旬の味・採れたてバザール

―フォルテにて―

黒柳　康江

「おはよう。この間の里芋すごくおいしかったよ。」「今日は、卵屋さんはまだこないの？」「次回のパンフレットをください。」

賑やかな声が飛び交う。新鮮でおいしいものを納得して買いたいというお客さんの真剣な目。あちこちで笑顔の輪が広がる。ここは、静岡県浜松駅前にあるフォルテ１階のガーデン。農産物の泥臭いイメージとは似つかわしくないおしゃれな吹き抜け空間で、快いBGMも流れる。ここで毎月１回『旬の味・採れたてバザール』が開かれ、毎回大勢のお客さんで賑わい、親しまれている。

始まりは女性たちの手から

静岡県西部地域は、県内でも有数の農業地帯である。温暖な気候変化に富んだ土地条件、東西大消費地への交通の利便性を背景に、野菜や花や果樹等の園芸作物、畜産等、高品質で多品目の農畜産物が生み出されてきた。しかし、そのほとんどは関東・関西方面に出荷されている。

地元生まれの農産物を浜松市の街中の人たちに届けたい、農業・農村の紹介や生産者と消費者とのふれあいをと、各地の農業女性たちが地域で行っていた朝市を集めてスタートして３年が経った。主催は「地域農林水産物をＰＲする女性の会」(仲田昌子会長)。この会は西部地区生活改善グループが中心となり、中遠・北遠地区の農林水産業に携わる者が参画した広域ネットワークである。女性の会といっても女性ばかりでなく、現在は多数の男性も加入している。



バザール会場風景

開催日の出店数は平均30店。朝採りの新鮮な野菜やくだもの、花、漬物やみそ、コンニャク、国産小麦を使ったパンやクッキー、ハムやウインナーなどの農畜産加工品、浜名湖産の鰻やのりなどの海産物…、自慢の品々が所狭しと並ぶ。

売ることに慣れていない農業者

フォルテの１階ガーデンは市民に開放されているオープンスペースで、立ち寄る人々は様々だ。待ち合わせをするカップル、談笑するお年寄り、買い物帰りにアイスクリーム片手にちょっと休憩する家族連れ、雑踏の中で宿題やテスト勉強をする学生…。新幹線の待ち時間にブラリ訪れる遠方の人。
皆思い思いに時を過ごしている。

通常、農産物は農協に出荷すればそれでおしまい。後の販売は農協頼みである。自分の農産物に自分で値を付け、自らが販売する経験は無い。いままでの地元の朝市・青空市は、農村という背景下での農産物販売である。ちょっと辺りを見回せば、畑やビニールハウスがある。農産物に対する充分な説明がなくても買ってもらえる。しかしフォルテではそうはいかない。特に最初の頃は買うことが目的の人ばかりではないので、声を掛けて説明するのになかなか勇気がでなかった。意外に葉付きや泥付きのものが好まれ、虫が付いていても嫌われない。お客さんは自然の形のものを求め、健康に気を配っていた。農村に対しても関心を持っている。明らかに周辺部の「市」とは客層が異なっていた。

消費者との新たなお付き合い

回を重ねるごとに常連のお客さんも増え、主催者側にもゆとりがでてきた。消費者との新たなお付き合いも生まれてきた。漬物がおいしかったからと直接農家まで買いにくるお客さん。隣近所に声を掛けお茶を注文してきた北海道のお客さん。田舎の親戚がほしいと農家に遊びにくる人もいる。「地元産の野菜には香りがある。甘味がある。」と生産者にとっては当たり前過ぎて気付かないことを教えてくれる方もいる。フォルテは生産者が消費者の求めること、考えていることを肌で感じ、生産者の考えを伝える絶好の場となっている。双方のふれあいの中で農業のヒントを探り、農業経営に活かしていけたらと思っている。

(くろやなぎ　やすえ／静岡県西部農業改良普及センター)

NTSシステム総合研究所の設計について

水谷　碩之

この総合研究所は、コンピューターソフトウエアの研究・開発を行う施設である。その知的作業に対し、21世紀に向けて理想の環境創出をめざし、計画し建設した郊外型オフィスである。

計画地の条件として、広々とした敷地で豊かな緑と水辺に恵まれた自然環境が必要とされ、用地が選定された。浜名湖岸地帯は、いまだ良好な自然が残っており、近年、情報産業の研究施設の立地として脚光を浴びている。敷地は、奥浜名湖に面し、緑豊かで起伏のある25haの丘陵地であった。もとよりこの地域は市街化調整区域であり、さらに自然公園の指定を受けていた。

この建設の基本テーマは「人間と自然と科学の調和」である。これを受け、計画に当たっては、欧米の事例の模倣にならないことに留意し、日本における郊外型オフィスを目標とした。それは日本的な伝統と日本人の自然に対する感性に基づく空間構成であり、自然と建物との関わり方にあると考えた。

まず、この25haに及ぶ大規模な開発行為に対しては、自然と人間との共生する環境をめざし、地形の原型を極力生かした造成とし、緑を特に大切に扱い、周囲の景観との調和をはかった。配置する各建物は、自然に対立するような高く、大きく、マッシブなものではなく、日本の集落や桂離宮にみられるように自然と建物とが、緊密でやわらかい関係をもつように配置した。

建物は研究棟をメインに管理棟・食堂棟を含む研究所、社員研修を主とする研修センター、男女の単身者用社員寮からなっている。更に将来予定として研究棟増設、体育館等がある。これらの用途別の空間を相互にボリュームの調和をはかり、低層で分散配置し、経路でつなぐ構成とした。日本建築の〝雁行〟配列、廊下・縁側などの〝ずれ〟・〝透かし〟の扱いを取り入れた。この配置によって、建物間に自然を組み入れ、ガラス面を透かして内部、外部の一体化をはかった。また、用途機能の異なった各建物の空間構成については、いくつかの共通する構成手法を考え、これらを組み合わせ適用することによって、形態・外観において、それぞれの個性を表現しながらも、群としての統一感が形成されるよう留意した。

研究・開発施設のメインである研究所は、オフィス環境としての効率性・快適性・対応性・安全性を確保し、特に「感性の刺激」、「人間性の回復」と「創造力の発揮」をキーワードとし、設計した。

とりわけ、研究オフィスは中央にトップライトをもつ吹抜部を設け、最適な広さに計画された2フロアー4ブロックのオフィス構成で、それぞれの空間の独立性と立体的連続感を創り出した。外部に面する窓も床面より天井までの大型ガラス面とし、中央のトップラ



管理研究棟中庭

撮影 村井　修 P.112, 113, 114

イトと合わせ豊かな自然光を採り入れると共に、外の緑が十分眼に入るよう考慮した。また、高い天井高、変化をつけたその形状、工夫された照明方式、加えて独自開発のワークステーションによって、画一的になりがちなオフィス空間を快適にし、差別化をはかった。

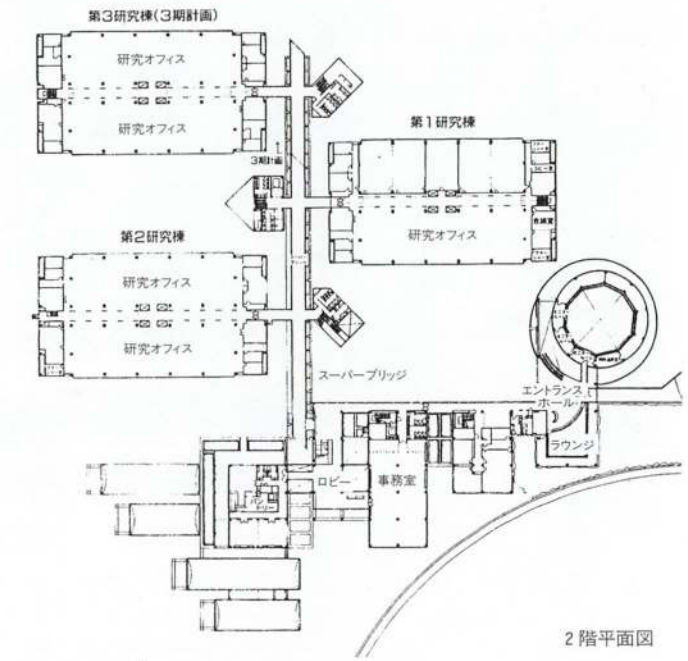
一方、各建物を結ぶ経路空間は、この研究所の特徴的空間である。単なる動線としてではなく、回廊・道空間の役割をもつ、人と人とのふれ合いの場、リフレッシュコーナー、更にひらめきの空間と考え、その広さ・長さ・天井高・ずれ・半外部的開放感・ガラス張りの透明感等を組み合わせ、視界を変化させ、心理的な効果をねらっている。またこの経路は施設間のエネルギー・情報の中枢機能ルートであり、特に情報系に関しては、人体の神経の如く、有機的ネットワークを形成し、信頼性と対応性の高いシステムとなっている。更に増築・変更・更新の作業にも対応しやすくなっている。

このようにこの研究所においては、広々とした自然そのものに接することに加え、建築の空間構成による四季の移り変わり、光と影の変化、遠い緑と近い緑、風音と静けさ、そしてハイタッチ感のあるインテリア・アートワークを体感することにより、感性が刺激され、人間性が回復し、創造力が発揮されることを期待している。

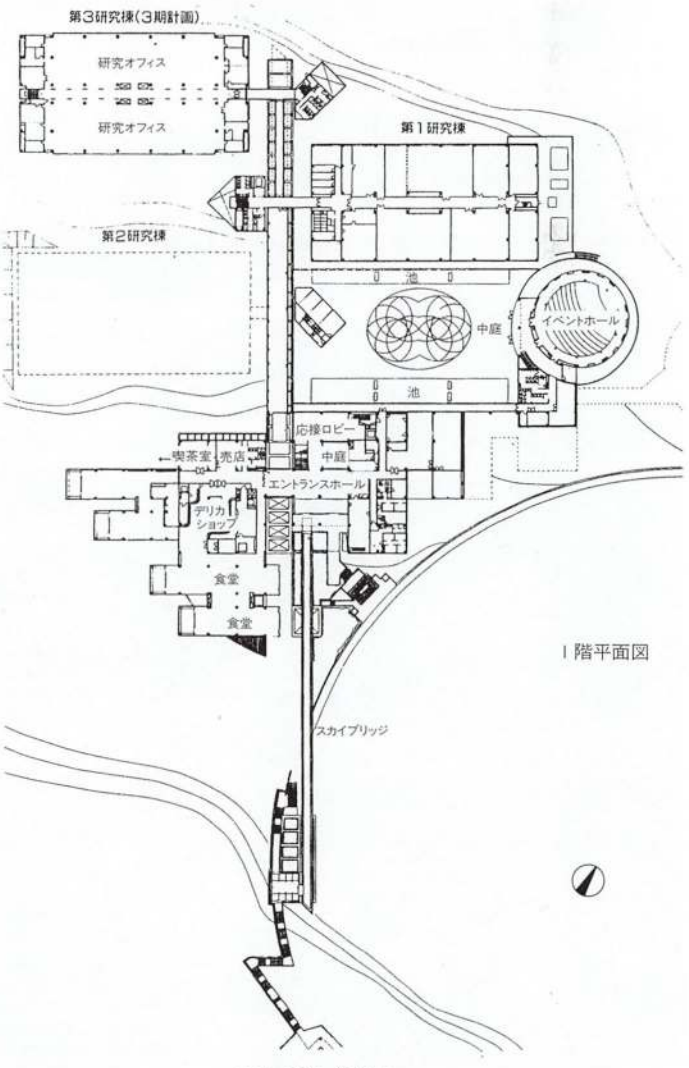
（みずや　ひろゆき／アーキプレーン建築研究所代表）



イベントホール



2階平面図



1階平面図

管理・研究・食堂棟



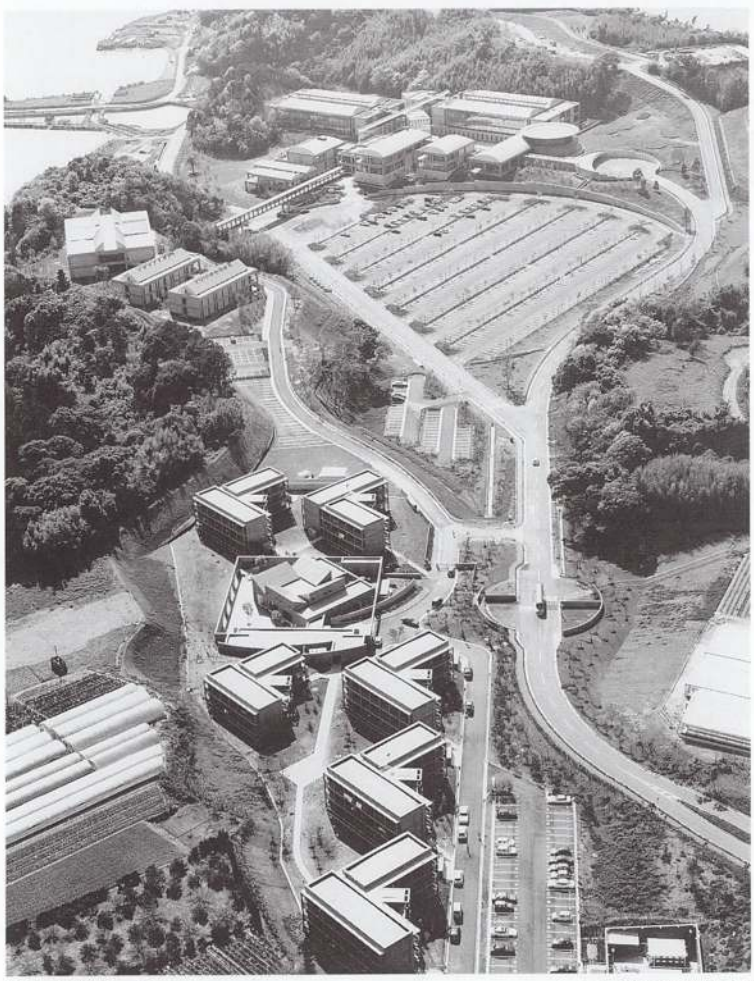
エントランスからスカイブリッジを見る



管理・研究・食堂棟全景



奥浜名湖と管理・研究・食堂棟



撮影 青山賢三 上、下

システム総合研究所全景



A 管理棟
B 食堂棟
C 第Ⅰ研究棟
D 第2研究棟
E 研修センター
F 社員寮管理棟
G 守衛所
a 第3研究棟
b 食堂棟
c 体育館
d エグゼクティブハウス
e レストラン
(a～eは将来計画)

配置図

ひとと自然が調和する・静岡ファクトリー

横山　研介

健康をテーマとする企画開発集団

遠く縄文・弥生時代、古代・中世の時代、そして近世を経て私達日本人が築きあげてまいりました食文化、それは日本人が人として豊かで明るい生活を送るために、自然環境とともに育てあげてきたものです。

私達ロック・フィールドがその食の分野に新しく神戸のテイストとしてデリカテッセンメニューを紹介したのが昭和47年のことでした。以来24年間にわたり神戸発食の情報発信企業（神戸コロッケ、カリー元年など）として、生産から販売までを手掛けてまいりました。その間時代の変遷とともに日本人の食に対する考え方も、量から質へ、さらに個々の価値観にもとづく食シーンの演出にと大きく変換してまいりました。

そして現在、人々が食生活に対して最も大きな関心を示すことに「健康」があります。そこで私達ロック・フィールドは健康を第一テーマとして捉え企業の価値観（企業理念に相当します）を「私達は健康をテーマとする企画開発集団です。」と定めました。

私達はすべての業務をこの価値観に沿って展開しています。

静岡ファクトリーの建設

平成元年になり「新しいそうざい」（私達が展開してまいりました商品をそのように称しています）の需要増に伴い、新工場建設の必要性が生じました。

当時、商品は神戸ファクトリー（一部川崎のキッチン）で生産され京阪神を中心とした西日本、名古屋中京地区、首都圏へと配送していましたが、首都圏の需要の伸びが大きく、配送を考えると名古屋以東、神奈川までの間に工場を建設することがベストと決定し、計画を進めることとなりました。

工場に対する基本的な考え方

1．新工場はサラダを中心につくる、そのための環境として自然が多く残っている農業地帯が望ましい。
2．新工場は社員が快適な環境で働けること、機能最優先の考え方だけではレイアウトしない。
3．新工場は地域と調和し、開かれたオープンな工場とする。
4．新工場はサラダを中心とした「新しいそうざい」をつくるにふさわしいモダンなデザインとする。
5．新工場は変化に対応し、ライン変更が容易な工場とする。

以上を基本コンセプトに工場ＰＪをスタートいたしました。

用地の取得と設計の依頼

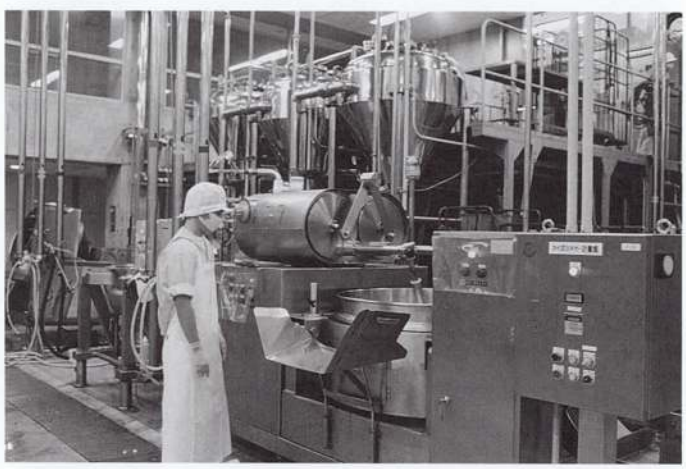
基本コンセプトに相応しい工場用地それは静岡県磐田郡豊岡村にある造成中の新平山工業団地でした。

天竜川が山間から平野部分に流れるところ、天竜市の南に豊岡村があります。

磐田原の北端の高台部分を整地した工業団地からは、天竜川の流れに沿った緑豊かな田園風景が展開され環境としては申し分ありません。また、豊岡村の村長さんをはじめとした人々の温かい対応と



料理教室



生産ライン

熱意は、私達が考えていた環境にピッタリの用地でした。

つぎに、工場の設計ですが、今回は計画当初からこれらのコンセプトを盛り込んだ設計を、建築家の安藤忠雄さんにお願いしようと考えていました。

幸い安藤さんとは私どもの社長と懇意であり、お受けいただけることとなりました。

設計から建設に

静岡ファクトリーまでの当社の工場建設では、建築規模に対して生産機能をどのように配置し全体としてのレイアウトをまとめるか、といった進め方で設計してまいりました。

しかし静岡ファクトリーについては、当初からサラダをつくりたい、それについての機械はこのようなものです、全体のスペースはこれぐらいほしい、ユーティリティとしては、これこれしかじかの設備、施設が必要です。といった情報をお出しして、まず安藤さんに工場全体のデザインを決定していただきました。

そのデザインの中に生産ラインをレイアウトし、はめこんで行く方式を今回は取りました。

安藤さんのデザインによる工場は、外観としては、美術館か屋内スポーツ会館のようなイメージであり、およそ工場らしくないファクトリーで、まさに、私達ロック・フィールドが望んでいた工場そのものになりました。

建築規模と生産能力

建築規模としては、地上3階建てで。

床面積は　1階　5,091.72㎡

　　2階　1,959.86㎡

　　3階　1,098.62㎡　　合計　8,150.20㎡です。

1階は、生産ラインと各種ユーティリティが配置され、2階は事務所、ロッカールーム、それとコンセプトを実現する、開かれたオープンな工場としての見学者通路があります。

3階には研究開発室、その対面に従業員カフェテリアとラウンジがあり、社員の快適なスペースとなっています。

また、一部分工場の天井が高くなっているスペースの屋上には芝生が植えられ、カフェテリアから芝のグリーンが社員の目に安らぎを与えてくれています。

生産能力は、竣工時（平成3年5月）にサラダが15万食／日、コロッケが10万食／日、社員は120人でスタートしました。

静岡ファクトリー(愛称:神戸ポテト工場)の竣工

待ちに待った工場が竣工しましたのは、平成3年5月27日のことでした。

社員の90%以上は地元での採用であり、また、食品の生産は未経験の人が多く少々心配の船出でしたが、新工場の環境はそんな心配を吹き飛ばして余りあるものであり、全員の盛り上げで順調なスタートをきることができました。

社員が働きやすい環境には色々な要素がありますが、とりわけユニフォームは大きなウエイトを占めています。この点においても新工場では考えました。男女を問わず、黄色のセーラー服を採用したのです。それまで男子はコック服、女子は白の作業服を用いていましたので、決定当初社員にかなりの抵抗感（本来セーラー服とは船乗り、男子のユニフォームですが、男子社員に特に大きな違和感があったようです）を持った人が多くいましたが、実際に着用して作業しますと、コンクリートの柱、床との配色も鮮やかで動きやすく、ピッタリ新工場にマッチしました。

5年間を経緯して

工場を建設し運営することの目的には、企業であるかぎり営利を伴うことは否めません。しかし、私達ロック・フィールドの社員も工場の外に出れば、地域住民の一人です。

そこで稼働以来私達は、月に一度の料理教室を地元の主婦を対象に実施してまいりました。食品工場の特色を生かして、フランス料理、イタリア料理をはじめとする洋食、家庭のそうざいメニューを中心とする和食など毎回大変好評です。

このように地元に開かれた工場のコンセプトを実現できたのも、建物のデザインの持つ魅力と考えています。また、工場が建物としてあるかぎり地元の風景にとって特異な違和感を醸し出してはいけません。静岡ファクトリーは、その点でも5年を経過してしっかりと豊岡村の景観としてなじんでまいりました。

私達はこの静岡ファクトリーをさらに磨き上げ、地元のみなさんとともに育てて行きたいと考えています。

（よこやま　けんすけ／㈱ロック・フィールド経営企画室室長）

ロック・フィールド静岡ファクトリー

安藤忠雄建築研究所



全景、手前はアプローチ回廊

敷地は静岡県の、西に天竜川を望む高台に位置する、工場団地として整備されたエリアの一画にある。建物は惣菜を中心とした食品加工販売会社のサラダ工場である。

食品工場は一般に温湿度等の条件が生産ラインの各工程ごとに設定されるため、しばしばそれは労働者にとって過酷なものとなる。このような労働環境を少しでも良くするために、随所に屋上テラスや庭園を配し、建物内にふんだんに自然を取り入れることによって、暗くなりがちだった工場のイメージを払拭し、内外共に明るい印象の工場にしようとした。

全体は84m×42mの長方形平面をもち、その短辺に沿うように2つのヴォールトをのせた矩形部分と、半径36mの円弧に沿ったコロネード、その内側の段状になった庭園が組み合わされた構成になっている。

矩形部分の1階では、一方の短辺から材料を搬入し、他方から製品を配送するようになっており、その間の生産ラインが各工程にそって置かれている。2階には事務所が配され、3階にはヴォールトの下に食堂・ホワイエとロビーが屋上庭園を挟んで対峙する。

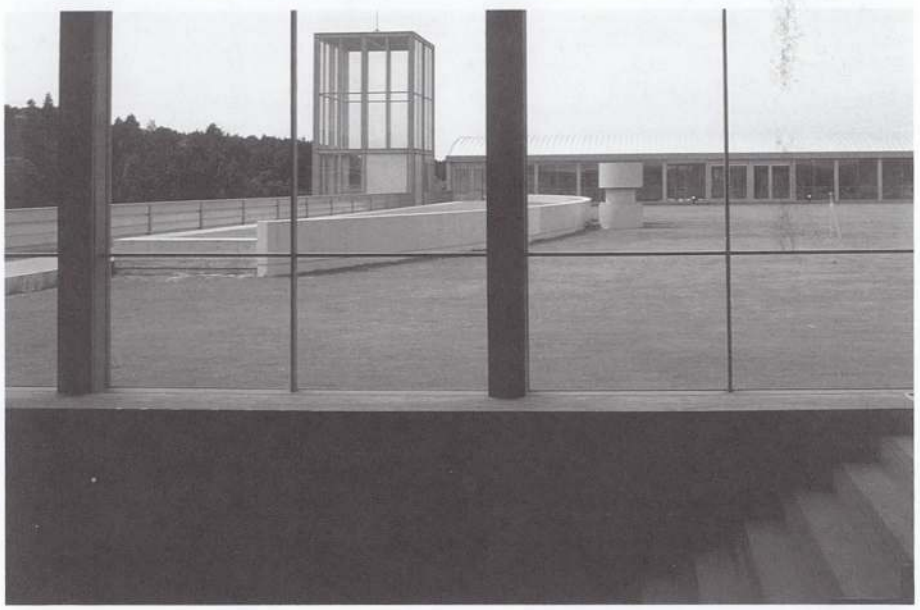
コロネードは内部に、工場へ人を導くスロープをもつ。その内側の段状の庭園の下部には機械室等が配される。

現在完成されているのは第1期の部分である。

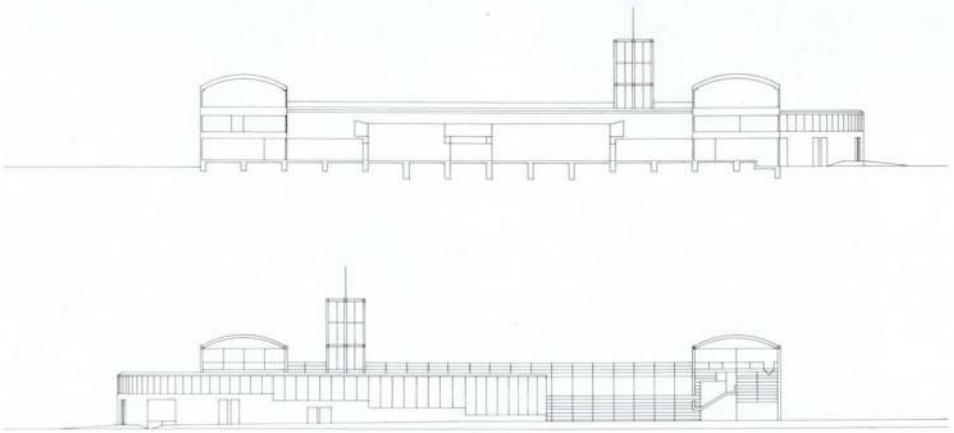




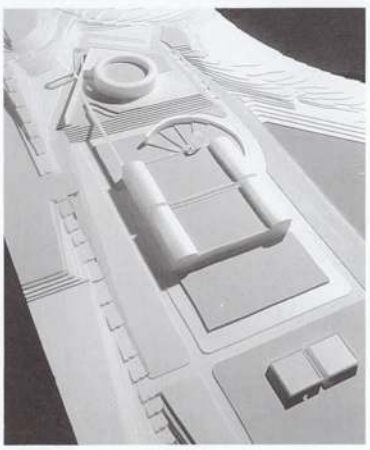
妻側より見る（ブリッジは上段の敷地と 3 階を直接結ぶ）



3 階ルーフテラスを見る

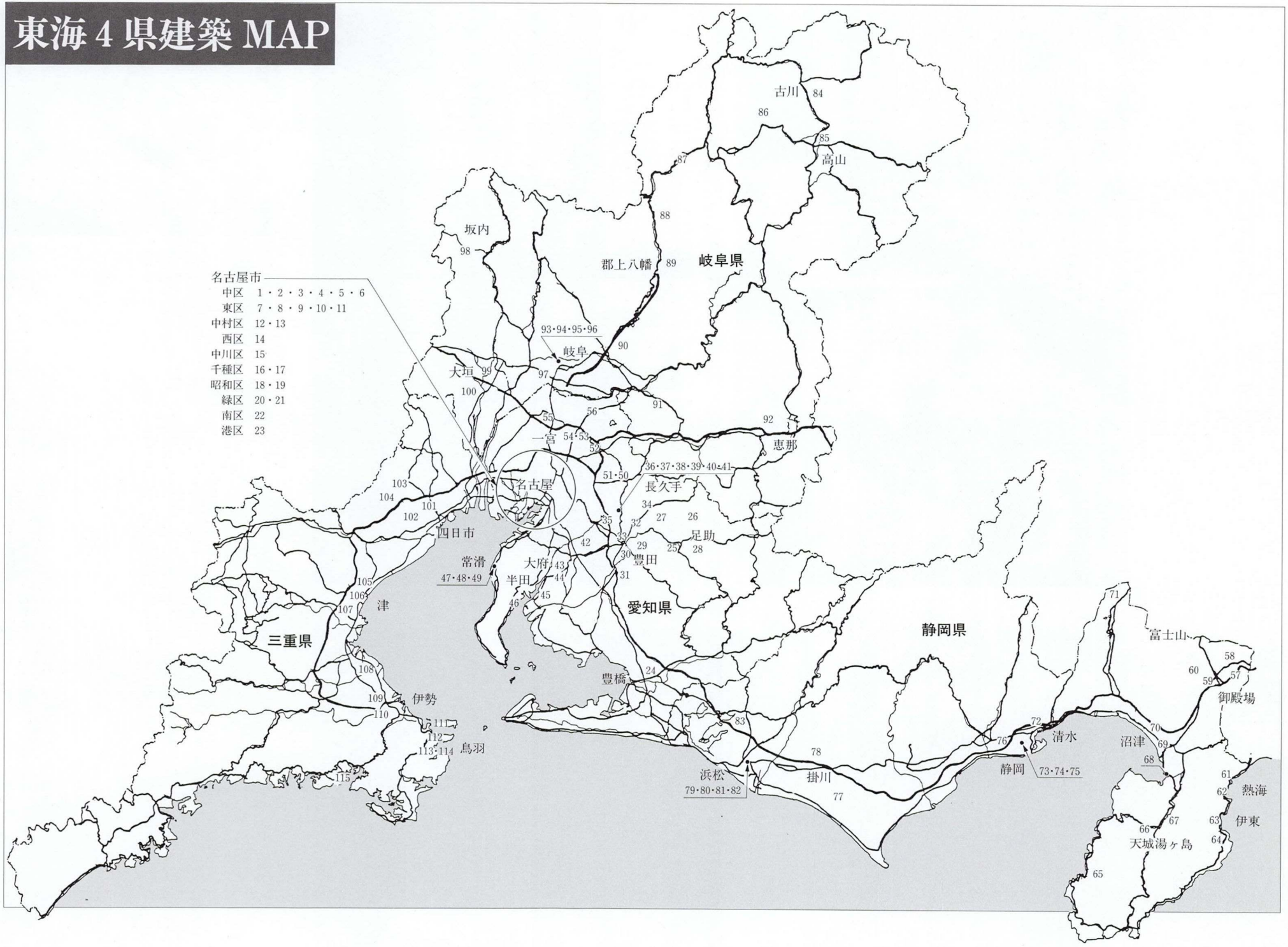


立面図



模型写真

東海4県建築MAP


名古屋市
中区 1・2・3・4・5・6
東区 7・8・9・10・11
中村区 12・13
西区 14
中川区 15
千種区 16・17
昭和区 18・19
緑区 20・21
南区 22
港区 23
古川
高山
坂内
郡上八幡
岐阜県
岐阜
大垣
一宮
惠那
名古屋
長久手
四日市
足助
常滑
大府
半田
豊田
津
三重県
愛知県
豊橋
伊勢
鳥羽
浜松
掛川
静岡県
静岡
清水
富士山
沼津
御殿場
熱海
伊東
天城湯ヶ島

東海4県 建築MAP作品リスト(1986—1995)

主要な建築関連雑誌に掲載された作品より独自に選出した。表中のNo.は地図中番号、掲載雑誌は、発行年を示す西暦の下2桁と月の4桁(「選」は年号のみの2桁)の数値と略号で表示した。
略号「新」は新建築、「日」は日経アーキテクチュア、「文」は建築文化、「社」は建築と社会、「選」は建築雑誌増刊作品選集、「画」は建築画報を表す。
但し日経アーキテクチュアは発行月の表示までにとどめた。また、「94—95選」は、建築雑誌増刊作品集1994—1995を示す。

愛知県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
1	生長の家愛知県教化部会館	小場瀬令二	宗教建築	1987/6	名古屋市	8709新　8708日
2	名古屋市美術館	名古屋市建築局 黒川紀章建築都市設計事務所	美術館	1987/7	名古屋市	8801新　8801日　8801文　8903画
3	名古屋東急ホテル	名古屋東急ホテル設計監理室	ホテル	1987/7	名古屋市	8711新　9111画
4	アムナット・スクエア 名古屋ヒルトン・インターナショナル	竹中工務店	ホテル・事務所 店舗	1989/2	名古屋市	8906新　8907社　9102画
5	愛知芸術文化センター 愛知県図書館	愛知県建築部営繕課 日建設計・名古屋	図書館	1991/4	名古屋市	9203社
6	十六銀行名古屋ビル	日建設計・名古屋	事務所	1994/2	名古屋市	9503社
7	徳川美術館	日建設計	美術館	1987/3	名古屋市	8709日
8	名古屋市市政資料館	文化財建造物保存技術協会	記念館・資料館	1989/6	名古屋市	8908日
9	モーニングパーク主税町	鹿島建設　KMD	特殊集合住宅	1991/3	名古屋市	9106新　9203日　9203社　92選
10	NHK名古屋放送センタービル	日建設計・名古屋	放送局・事務所	1991/8	名古屋市	9203社　9212日
11	愛知芸術文化センター	A&T建築研究所	劇場・コンサートホール 美術館	1992/6	名古屋市	9212新　9211日　9203社　93選 9212文　9405画
12	JR東海太閤ビル	安井建築設計事務所	事務所	1992/6	名古屋市	9303社
13	ホテルセンチュリーHYATT名古屋	小田急ホテル設計室	ホテル	1992/8	名古屋市	9305画
14	産業技術記念館	竹中工務店	展示施設・記念館	1994/1	名古屋市	9503社　9410日
15	響相のいろ ENERGY EARTH	TAKASAKI物人研究所	住宅	1989/8		8909日　8910文
16	東山スカイタワー	名古屋市建築局・日本総合建築	展望塔	1989/6	名古屋市	8909新
17	名古屋大学シンポジオン	竹中工務店	大学・ホール	1992/2	名古屋市	9303社　93選
18	中山邸	吉柳満アトリエ	住宅	1988/6	名古屋市	9001日　9002文
19	中京テレビ放送センター	伊藤建築設計事務所	放送施設・事務所	1990/10	名古屋市	9103社
20	名古屋市緑スポーツセンター	名古屋市建築局営繕部 丹羽英二建築事務所	体育館・プール	1992/3	名古屋市	9303社　9312画
21	BASE長田電機工業名古屋 工場・中央研究所	アーキテクトファイブ　川村純一 堀越英嗣　松岡拓	工場・研究所	1992/5	名古屋市	9305新　9305日　93選
22	名古屋市総合体育館	梓設計	スポーツホール	1987/3	名古屋市	8710新
23	名古屋港水族館	名古屋港管理組合計画部 大建設計	水族館	1992/3	名古屋市	9302日　9303社
24	ライフポートとよはし	大建設計名古屋事務所	コンサートホール	1994/3	豊橋市	9503社
25	足助町営桑田和住宅	現代計画研究所	住宅	1986/3	東加茂郡	8605日
26	愛知県旭高原少年自然の家	伊藤建築設計事務所	宿泊施設	1989/3	東加茂郡	8903社　90選
27	セントクリークゴルフクラブクラブハウス	田辺博司レーモンド設計事務所	スポーツクラブハウス	1989/8	東加茂郡	9004日
28	足助町福祉センター百年草	浦辺設計	宿泊・老人福祉施設	1992/10	東加茂郡	9305新
29	豊田市鞍ヶ池植物園	青島設計	植物園・温室	1991/2	豊田市	9107新
30	カバハウス	八木幸二	会館・ホール・体育館	1992/7	豊田市	9210新　9210文
31	フォレスタヒルズ	日建設計・名古屋	ホテル・スポーツ施設	1993/5	豊田市	9403社
32	南山国際高等学校・中学校	青島設計	学校	1993/10	豊田市	9503社
33	豊田市美術館	谷口建築設計事務所	美術館	1995/6	豊田市	9601新　9601日
34	紀重　空を把む触手	笠嶋建築工房	ゲストハウス	1992/3	西加茂郡	9209日　93選
35	文化センターサンアート	三好町都市建設部建築営繕課 東畑建築事務所	ホール コミュニティーセンター	1993/6	西加茂郡	9403社
36	トヨタ博物館	日建設計　トヨタ自動車	博物館	1989/3	愛知郡	8905日　90選
37	法隆寺金堂壁画模写展示館	竹中工務店	展示館・資料館	1989/4	愛知郡	9003社
38	名古屋商科大学コミュニティーセンター	竹中工務店	大学	1990/3	愛知郡	9103日　9012社
39	愛知たいようの杜	NOV建築工房	特別養護老人ホーム	1991/3	愛知郡	94—95選
40	豊田中研福利厚生センター	竹中工務店	スポーツ施設	1992/12	愛知郡	9403社　94—95選
41	愛知青少年公園センターゾーン施設	愛知県建築部営繕課 東畑建築事務所	スポーツ施設	1994/10	愛知郡	9503社
42	豊明市文化会館	村瀬舛市計画事務所	文化会館	1993/10	豊明市	9405社
43	大府市勤労文化会館	安井・加藤設計共同企業体	文化会館	1991/2	大府市	9203社
44	空を孕む波 大府市いきいきプラザ	笠嶋建築工房 市浦都市開発建築コンサルタンツ	コミュニティーセンター	1992/3	大府市	9209新　9212文　9207社　93選
45	碧南市民病院	久米建築事務所・名大柳沢研	病院	1988/3	碧南市	89選
46	新美南吉記念館	新家良造建築工房	記念館	1994/3	半田市	9407新　9407日　9407文
47	常滑トイレットパーク	象設計集団	公園	1988/9	常滑市	8911文
48	INAX本社ビル	竹中工務店	事務所	1991/4	常滑市	9203社　92選
49	常滑市体育館	住宅・都市整備公団 仙田満　環境デザイン研究所	体育館 コミュニティーセンター	1993/3	常滑市	9410新　9410日
50	竹中土木瀬戸竹親寮	竹中工務店	研修所・宿舎	1994/10	瀬戸市	9503社　9602新
51	中部電力旭名東営業所	伊藤建築設計事務所	事務所	1992/6	尾張旭市	9303社　9212画
52	東海記念病院	田中綜合設計	病院	1989/6	春日井市	9003社
53	メナード美術館	東急建設建築設計総括部	美術館	1986/10	小牧市	8804新
54	小牧ロイヤルホテル	清水建設名古屋支店	ホテル	1991/9	小牧市	9303社
55	一宮市博物館	内井昭蔵建築設計事務所	博物館	1987/10	一宮市	8803新　8802日　8903画
56	扶桑文化会館	山崎泰孝＋AZ環境計画研究所	文化会館・劇場	1995/3	丹羽郡	9512新　9509日

静岡県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
57	嶽之下宮御社殿	竹中工務店	神社	1989/11	駿東郡	9104新　9003社
58	ローソン東富士ゲストハウス	圍・青島建築設計事務所 青木豊建築設計事務所	研修所・ホール	1994/6	駿東郡	9409日
59	カトリック御殿場教会	金澤良春　アーク・クルー	教会	1993/3	御殿場市	9312新　9311文
60	オムロン御殿場リゾートセンター	若林広幸建築研究所	保養所	1993/3	御殿場市	9307新　9306日
61	熱海リフレッシュセンター	横内敏人　前川建築設計事務所	保養所・プール	1989/12	熱海市	9003新　9002日　9003文
62	水／ガラス	隈研吾建築都市設計事務所	ゲストハウス	1995/3	熱海市	9507新　9507日
63	エースプラザ(春宵館)	新居千秋都市建築設計	研修所	1990/3	伊東市	9009新　9008日　9009文
64	伊豆高原泉郷コンドミニアムホテル	小宮山昭　ユニテ設計・計画	ホテル	1992/12	伊東市	9302新　8902日　8909文
65	郷土民芸館カサエストレリータ	石山修武　ダムダン空間工作所	レストハウス	1986/11	加茂郡	8707新　8707文
66	布井邸	三浦周治アトリエ	住宅	1988/9	田方郡	8810日　8811文
67	天城ドーム (天城湯ヶ島町立体育館)	橋本文隆設計室	体育館	1991/6	田方郡	9109新　9109日　9109文　9312画
68	淡島ホテル	椎名政夫建築設計事務所	ホテル・コンサートホール	1991/9	沼津市	9205新　9305画
69	沼津市立病院	佐藤総合計画	病院	1988/3	沼津市	8810画
70	沼津市立図書館	日建設計	図書館	1993/3	沼津市	9403社　9405画　9212近
71	東京農業大学 富士畜産農場研修センター	大野秀敏 アプル総合計画事務所	研修センター 宿泊施設	1990/5	富士宮市	9008日　92選
72	清水市立中央図書館	清水市教育委員会社会教育部 安井建築設計事務所	図書館	1993/3	清水市	9303社
73	静岡県立大学	日本総合建築事務所 アトリエK	大学	1989/3	静岡市	8911新　90選
74	静岡県立美術館	高橋茂弥　高木滋生　田中忠雄	美術館	1986/3	静岡市	8606新　8606日　8903画
75	静岡県立美術館ロダン館	日総建	美術館	1993/11	静岡市	9407日　9303社
76	静岡赤十字病院	内藤建築事務所	病院	1987/1	静岡市	8707画
77	菊川文化会館〝アエル〟	岡設計	文化会館	1992/2	小笠郡	9207日　93選
78	掛川城天守閣	竹林舎建築研究所	展示施設	1993/8	掛川市	9405日
79	浜松科学館	仙田満環境デザイン研究所	科学館	1986/4	浜松市	8608新　8607日　8903画
80	クリエート浜松	久米建築事務所	コミュニティーセンター	1988/7	浜松市	8811新　90選
81	フォルテ	環境システム研究所	事務所・店舗・ホール	1990/11	浜松市	9102新　9101日
82	アクトシティ浜松	日本設計　三菱地所 都市・建築総合研究所	事務所・ホテル・店舗 ホール・劇場・展示場	1994/8	浜松市	9412新　9411日　94—95選
83	NTSシステム総合研究所	アーキプレーン建築研究所 竹中工務店	研究所・研修所 宿舎	1991/3	浜松市	9107新　9106日　9107文 92選

岐阜県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
84	飛騨古川まつり会館	デザインシステム	資料展示館	1992/3	吉城郡	9208日
85	高山屋台会館	大江宏建築事務所	資料展示館	1988/8	高山市	8810新　8810日
86	ウッドフォーラム飛騨	西建築設計事務所	集会施設	1988/3	大野郡	8807日
87	ランズビーひるがの	伊藤建築設計事務所	ホテル	1994/10	郡上郡	9503社
88	古今伝授の里フィールドミュージアム	瀧光夫	展示館・研修施設	1993/5	郡上郡	9401新　94—95選
89	やなか水のこみち	アトリエ修羅	環境デザイン(道路)	1988/5	郡上郡	9209日
90	NBK関工園事務所棟・ホール棟	大野秀敏 アプル総合計画事務所	事務所・ホール	1992/5	関市	9210新　9209日　9210文　93選
91	花の地球館・花のタワー	大野秀敏＋アプル・岬建築	温室・展望レストラン	1995/3	可児市	9508新　9507日
92	博石館	小栗廣正＋建築計画工MA-TRICKS	博物館	1986/4	恵那郡	8610新
93	ゆりかご幼稚園	藤木隆男建築研究所	幼稚園	1994/3	岐阜市	9406新　9406文
94	加藤栄三・東一記念館	吉村順三設計事務所	美術館	1990/11	岐阜市	9110新
95	岐阜県県民ふれあい会館	日建設計・名古屋　岬建築	ホール・コミュニティーセンター	1993/10	岐阜市	9503社
96	岐阜県未来会館	日建設計・名古屋　山清設計	記念館・ホール	1994/10	岐阜市	9503社
97	アピタ岐阜	ロッシ・アジミ・堀口＋エス・ディー・エー	店舗	1993/5	岐阜市	9308日
98	村のテラス・坂内村森呼吸	渡辺誠／アーキテクツオフィス	カフェ・案内所・コミュニティ	1995/10	揖斐郡	9601新　9510日
99	JA大垣グリーンパーク	永田・北野建築研究所	事務所・ホール・公園	1994/3	大垣市	9408新　9407日
100	養老天命反転地	荒川修作＋マドリン・ギンズ	公園施設	1995/10	養老郡	9511新　9511日

三重県

No.	建物名	設計者	用途	竣工	所在地	掲載雑誌
101	四日市大学	藤川原設計	大学	1992	四日市市	90選
102	小山田記念温泉病院	藤川原設計・東畑建築事務所	病院	1986/10	四日市市	8701社　89選
103	国際環境技術移転研究センター	A&T建築研究所名古屋事務所	研究所	1992/10	四日市市	9403社
104	鈴鹿市文化会館	東畑建築事務所	文化会館・科学館	1988/3	鈴鹿市	8810社　8906画
105	三重県総合文化センター	三重県土木部都市住宅局建築 営繕課営繕室　A&T建築研究所	コミュニティーセンター・ホール 図書館・会館	1994/6	津市	9412新　9411日
106	三重県議会棟・講堂	東畑建築事務所	県議会場・ホール	1990/11	津市	9103社
107	R.F.ヤマカワ・アネックス	設計組織A・D・H	事務所・店舗	1992/12	久居市	9304新　9304文
108	斎宮歴史博物館	三重県土木部・梓設計	博物館	1989/3	多気郡	9003新　9109画
109	おはらい町　おかげ横丁	清水建設　竹中工務店 高橋徹都市建築設計工房	店舗・博物館	1993/7	伊勢市	94—95選
110	式年遷宮記念神宮美術館	大江宏建築事務所	美術館	1993/3	伊勢市	9309新　9309文
111	鳥羽水族館新館	大成建設名古屋支店	水族館	1990/7	鳥羽市	9103社
112	タラサ志摩	清水建設	ホテル・中間医療施設	1992/6	鳥羽市	9209新　9208日　93選
113	海の博物館	内藤廣建築設計事務所	博物館	1992/6	鳥羽市	9211新　9006日　9303社　9007文
114	志摩 museum	内藤廣建築設計事務所	美術館	1993/8	鳥羽市	9311新　9311文
115	ネットワークリゾートなんせいセンターハウス	菊竹清訓建築設計事務所	ヨットクラブハウス・レストラン	1994/10	度会郡	9508新　9508日

超微粉末混和材を用いた高流動コンクリート

梶山　毅　かじやま　つよし　㈱鴻池組技術研究所主任研究員
平　弘毅　ひら　ひろき　研究員

コンクリート構造物の形状の多様化や大規模化、配筋の高密度化などにより、コンクリートの十分な打ち込み・締め固め作業が困難となる場合がある。このような状況の中で、高流動コンクリートは締め固めを必要とせずに型枠の隅々まで充填され、豆板やジャンカなどの発生がなく耐久性に優れた躯体を構築することが可能なことから、現在、官民を問わず盛んに研究開発が行われている。

現在、各方面で開発済みまたは開発中の高流動コンクリートは、その使用材料により、①超微粉末混和材を使用するタイプ、②分離低減剤を使用するタイプ、③超微粉末混和材と分離低減剤を併用するタイプ、④特殊セメントを使用するタイプの4種類に大別することができる。これらの使用材料の一例を**表1**に示す。

表1　使用材料の一例

タイプ	セメント	混和材	分離低減剤・増粘剤
①	ポルトランドセメント 高炉セメント フライアッシュセメント シリカセメント など	高炉スラグ微粉末 石灰石微粉末 フライアッシュ　砕石粉 シリカフューム 膨張材　など	―――
②			セルロース系 アクリル系 バイオポリマー系 など
③		―――	
④	高ビーライト系セメント 粒度調整セメント 球状化セメント　など	―――	上記を使用する場合あり

ここでは、これらの中から鴻池組が建築工事を中心に適用している超微粉末混和材を用いた高流動コンクリートについて、実施例を中心に述べる。

RC壁式構造物への適用

適用した建物は、集合住宅に付属した**図1**に示す集会所施設の壁・梁部材である。配筋は、特に高密度ではなく通常配筋のもので、設計基準強度は210kgf/cm²である。コンクリートは、ポンプ車を使用し、まず図中のAから開始し、流動状況をみながらBに移動させ、連続的に打設した。打設速度は20m³/hで、締め固めは一切行っていない。

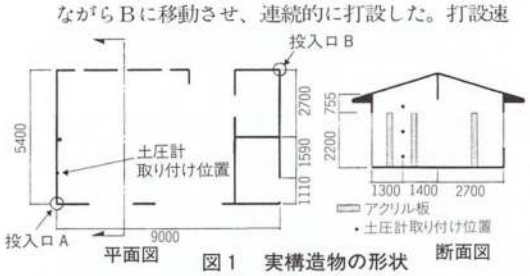


図1　実構造物の形状

高流動コンクリートのスランプフローおよび空気量は、それぞれ65±5cm、4.5±1.5%である。石灰石微粉末を使用した調合を**表2**に示す。

高流動コンクリートは、**写真1**のようにほぼ水平に流動しながら、開口部の前後でも同時に上昇し、流動勾配は**図2**のように平均で約1/14であった。また、事前に実施した模擬部材実験では、**写真2**に示すような凹凸のある化粧型枠への充填性も良好で、コア強度も流動距離にかかわらず**図3**のようにほぼ等しい結果となった。

型枠の側圧は、打設速度や打設方法などにより異なるが、今回の計測では液圧の約70%であった。

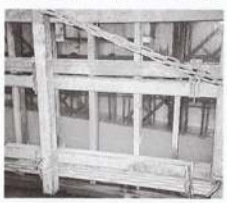


写真1　流動状況



写真2　充填状況

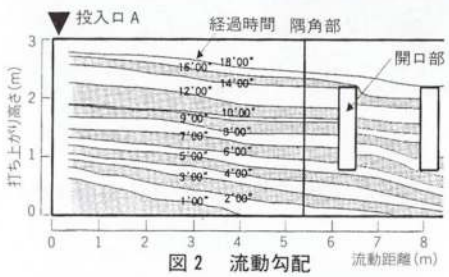


図2　流動勾配

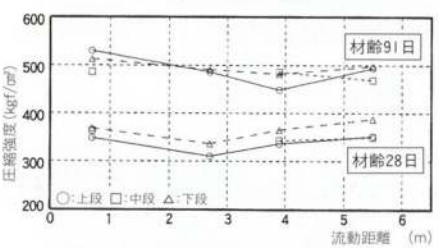


図3　流動距離とコア強度の関係

CFT構造柱の充填コンクリートへの適用

適用した建物は、柱部材を設計基準強度420kgf/cm²のCFT構造柱とした、8階建てのホテル棟である。柱は、○−508.8〜558.8×15〜22mm、高さ28.8mの内ダイアフラム形式のもので、ダイアフラム中央にはϕ-280mmの開口がある。柱本数は93本である。打設には、ポンプ車を使用し、鋼管下部から圧入するポンプアップ方式を採用した。高炉スラグ微粉末を使用した調合を**表3**に示す。

表2　調合(石灰石微粉末を使用)

W/C (%)	粗骨材の最大寸法 (mm)	粗骨材かさ容量 (m³/m³)	単位量 (kg/m³) 水	セメント	石灰石微粉末	細骨材	粗骨材	高性能AE減水剤 (P×%)
49.0	20	0.50	170	347	180	782	802	2.7

P：セメント（C）+石灰石微粉末

表3　調合(高炉スラグ微粉末を使用)

W/B (%)	粗骨材の最大寸法 (mm)	粗骨材かさ容量 (m³/m³)	単位量 (kg/m³) 水	セメント	高炉スラグ微粉末	細骨材	粗骨材	高性能AE減水剤 (B×%)
34.0	25	0.50	170	250	250	827	847	1.2

B：セメント+高炉スラグ微粉末

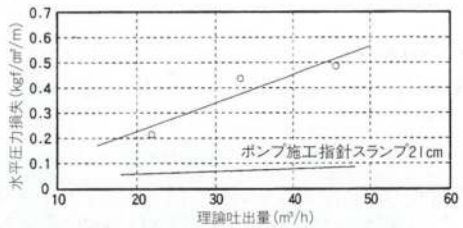


図4　理論吐出量と水平圧力損失の関係

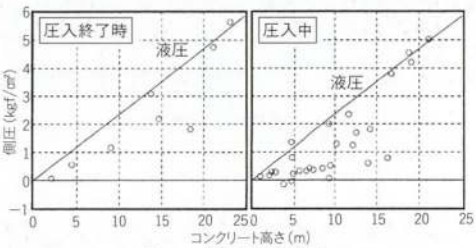


図5　側圧計測結果

圧入時の理論吐出量と水平圧力損失との関係を**図4**に示す。水平圧力損失は、理論吐出量の増加に伴い増加し、ポンプ施工指針の普通コンクリート（スランプ21cm）の値に比べ、約2〜4倍であり、また、鋼管の側圧は、**図5**に示すように下部では液圧にほぼ等しい結果となった。

鋼管天端で採取したポンプアップ後のコンクリートのスランプフローは、標準期では圧入開始時にほぼ等しいが、夏期では鋼管表面温度の上昇などにより低下する傾向にあった。鋼管天端の沈下量は約0.6mmで、打設後6時間で終了した。

また、別途、鋼管内でのコンクリートの充填性および強度を確認するために、9階建て事務所ビルを対象として、本設柱(□−500×500×19〜22mm、高さ33.2m)の上部に、**図6**に示すようなダイアフラムのコンクリート打設用開口径を変化させた試験鋼管を取り付け、圧入を行った。

その結果、**写真3**に示すように、ダイアフラム下面には未充填箇所はなく、コア強度も設計基準強度を十分に満足することが確認されている。

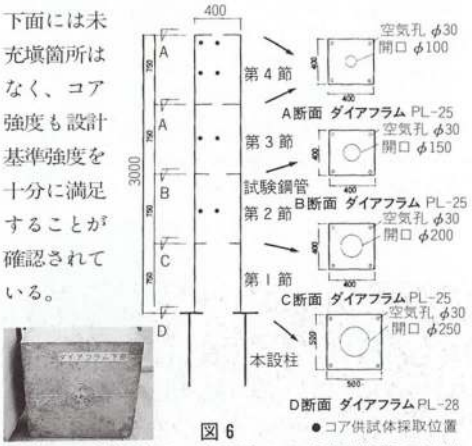


図6　本設柱および試験鋼管の形状

写真3　充填状況

平成8年度のJASS 5の改定では、高流動コンクリートの節が新たに設けられる予定であり、今後のより一層の普及が見込まれている。

設備の頁 250

香りと空気質

梶井宏修 かじい ひろのぶ
近畿大学理工学部講師

香り

香りは、われわれの生活に重要な役割をはたしている。食べ物、衣服、住まいや交通手段等あらゆるところで、われわれは香りの情報から多くの判断を行っている。この香りをかぎわける能力に関しては、法華経には、千以上の香りを分別することも修行によって可能であると紹介されている。

積極的に香りを利用する方法としては宗教儀式、死体の保持（ミイラ）があり、仏教が渡来した頃に、わが国に沈香が伝わったと言われる。以後、香りの積極的な利用が続き、現代においては、香りの有効性はハイテクビルにも応用され、医学、化学、農学、バイオテクノロジーや心理学、ファッションや販売戦略まで、幅広い開発がなされている。

香りによる治療はアロマテラピーとして現代では周知されているが、これは古代エジプトで始められたものである。

夜中の3時頃研究室内でレモンの皮の香りを噴霧すると、睡魔に襲われていた私は明瞭に覚醒レベルが上がり、頭がすっきりし、また作業を続けることが出来た。鳥居らの随伴性陰性変動という脳波の変動を分析した結果でも、心理的な影響が大きく示されている。また、ジャスミンには覚醒効果、ラベンダーには鎮静効果が認められ、仮眠後にコーヒーを飲んだ時と同様な効果がジャスミンに見られたとするデータも出ている[1)]。これらを有効に利用した事務所空間があることは、マスコミでも報道されている。

良いにおいの総称を香りと呼ぶと、においの問題は空気の質の一部と考えられる。においの種類は非常に多く、悪臭と感じる、ものが腐ったにおいとしては二酸化メチル、アセトアルデヒドなどの刺激性のにおいが顕著なものであり、その臭気濃度は、有臭空気を無臭空気で希釈し、人が臭気を感じなくなるまでに何倍の無臭空気を要したかで示す。

においをそれ以上の加臭剤でマスキングする方法では、それらの物質がさらに付着するなどの問題が発生している。一方、脱臭の研究も盛んに行われており、紫外線を受けて脱臭する光反応型の材料（タケダ、クラレ）が開発されている。これは、繊維の外周断面に機能を負荷した樹脂を取り付け自然光や蛍光灯程度でも脱臭するので、寝具やその他脱臭する繊維として仕上げられ、普通の繊維と同様の風合いを有している。今後その需要は高まるものと思われる。締め切った車の中でのタバコなどのにおいはかなり気になるが、車室内のシート地や内装に脱臭繊維を利用すると車重や部品点数を増加させず、快適な環境を創造することが可能であろう。建物内部にも同様のことが言える。建物内部には化学物質が多く利用されている。各種ワックス、カーペット洗剤、天井材や接着剤など多岐にわたり、生体への影響に関する研究が進められている。

空気の質

春を迎える頃は、花粉症に悩む人にとって厳しい季節となる。空気中には多くの物質が含まれており、これらを排除するために多くの技術を駆使する必要がある。

室内の空気汚染の発生源を**表1**に示す。近年の省エネルギー化にかかる高気密高断熱化が空気汚染を助長しているようである。また、ビル設備の面からもダクトや加湿器にかかわる問題が台頭している。水分があり、適当な温度条件下では細菌や微生物の発生源となることが予想される。これらが原因で多くの人が感染した例もある。冷却塔の水分飛沫が外気取り入れ口に入らないように設計段階で十分配慮すべきであり、単に設備の高度化に頼るべきではないと考えられる。

表1　室内空気の汚染発生源の代表例

発生源	汚染源
建築設備関係	
冷却塔	真菌・細菌
ガス・石油式開放型燃焼器具	一酸化炭素・二酸化炭素 窒素酸化物 二酸化硫黄 アルデヒド類
石炭式開放型燃焼器具	同上＋粉じん
薪だき式開放型燃焼器具	同上＋有機化合物
静電式空気清浄器・コピー機	オゾン
加湿器	真菌・細菌
内装仕上げ材関係	
パーティクルボード	ホルムアルデヒド
天井タイル	ホルムアルデヒド
塗料	非メタン系炭化水素 気化水銀
カーペット・カーテン	ホルムアルデヒド 真菌・細菌 かび・ダニ 粉じん
コンクリート、石こうボード	ラドン
居住者の活動関係	
ヒト・動物の代謝	感染源 アレルゲン アンモニア 有機ガス
清掃（掃除機使用）	粉じん 真菌・細菌
清掃（洗剤使用）	有機化合物
殺虫剤使用	有機化合物
喫煙	粉じん 一酸化炭素 窒素酸化物 ホルムアルデヒド シアン化水素 放射性元素 有機化合物ほか
趣味・工作	有機化合物 粉じん アスベスト
土壌	ラドン・レジオネラ細菌

池田耕一：室内空気汚染のメカニズム、空気調和衛生工学便覧Ⅰ,1995,p382

われわれは、大阪駅前地下街が改造される以前の昭和58年に、空気中の落下細菌、真菌の調査と、粉塵、炭酸ガスおよび一酸化炭素濃度等の調査を行った。浮遊粉塵が多かった人の通行が激しい地域では細菌や真菌の数が多く示され、外気の取り入れ量が多い所では非常に少なかった。温度や湿度の条件が良い時に真菌は胞子を媒体に増殖するので、その繁殖条件を欠落させるのも汚染防止に役立つ。しかし、人の快適な条件と一部一致する季節は注意を要する。

有害ガスを測定する高性能ガス分析機器は高価であるが、人の嗅覚ほど多くの種類を即座に分析できるには至っていない。しかし、炭酸ガス、一酸化炭素、揮発性ガス分析機器などは非常に高性能である。最近、車庫内の車の排気ガスによって尊い命を落とした一酸化炭素中毒事件があったが、これは、車庫の、配置計画と出入口の関係を設計段階で十分配慮していなかったために起きた人災と思われる。便利なように設けた車庫に通じる出入口や浴室の開口部からガスが侵入したものと考えられる。それらの環境の悪化をいち早く検知するには、空気環境の監視装置を導入する必要があると思われる。

炭酸ガスに関する基準は、建築基準法やビル管理法では1000ppm、学校環境衛生基準では1500ppmに定められている。健康な人でも0.1%の炭酸ガス濃度の環境下では軽い呼吸障害が起こり、8～10%になるとけいれんが起こり意識がもうろうとする。不完全燃焼にかかわる一酸化炭素中毒では、血液中のヘモグロビンと結びつく割合は酸素の数百倍あり、人体への影響は大きく、5ppmの濃度に20分間さらされると反射神経が変化、30ppmで視覚神経障害、1000ppmでは2～3時間でけいれんを伴う失神などが起こる。したがって一酸化炭素は、建築基準法やビル管理法では10ppm以下、学校環境衛生基準では20ppm以下に定められている。

近年、屋外と隔離し密閉した人工環境をつくり、高度な環境調整を行い、快適環境を維持する方向にあるが、一方、住宅やある程度の規模の施設では自然と共生する建物も建設されている。神戸市の淡河地域福祉センターでは、自然エネルギーを用いたシステムを採用し、運用している。これは、基本的に外気を有効利用する方法であり、排気ガスや汚染物質濃度の高い地域環境ではないので行えるものであるが、個々の条件に該当したエネルギーの有効利用と空気質の向上が課題であると認識している。

引用文献
1）S.ヴァントラー、G.H.ドット、印藤元一訳：香りの感性心理学、フレグランスジャーナル社、114—117、1994、2

『ル・コルビュジエ―水の記憶―』展



ル・コルビュジエ「2人の浴女、漁船と木」(1937)

生まれ故郷のアルプスの雪に始まり、レマン湖、エーゲ海、セーヌ川、そして地中海…、その生涯において絶えず水とかかわり続けたル・コルビュジエは、水への想いを様々な形に変えて作品の中で表している。

彼の建築を中心に、絵画、著作の中に表れた表現を検討することで、ル・コルビュジエにおける水の存在を解読する展覧会がギャルリー・タイセイで始まっている。入場無料。

●取り上げる建築…レマン湖の母の家、ユニテ・ダビタシオン、リエージュ「水の季節」パビリオン計画、ロンシャンの礼拝堂、東京国立西洋美術館初期プラン、カプ・マルタンの小屋と墓、アーレンバーグ氏の美術館計画、ル・コルビュジエ・センターなど。

●絵画…油彩『女性と平底漁船』、詩画集『直角の詩』『二つの間に』、スケッチブック『東方旅行』(復刻)、その他ル・コルビュジエによる直筆スケッチなど。

会　場　ギャルリー・タイセイ（新宿センタービル）
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL03-5381-5510

会　期　1996年3月18日(月)～5月31日(金)10時～17時
土日祝日、4月27日～5月6日は休廊

『自然の素材を生かす生活のかたち』―HRフォーラム"WAZA(和座)"―

(財)京都伝統建築技術協会[*1]と㈱ヒューマンルネッサンス研究所[*2]は共催で、自然との共生を楽しむ住まい方、それを実現するために求められるものについて、建築、哲学、生活文化、人間工学の分野で活躍する講師を招き、講演とディスカッションの場をもつ。

名　称　HRフォーラム"WAZA(和座)"
『自然の素材を生かす生活のかたち』

日　時　1996年5月18日(土)　13：30～17：00

会　場　京都私学会館　075-344-6201
京都市下京区室町通高辻上ル

入　場　無料

定　員　300名（定員に達し次第締め切り）

申込先　(財)京都伝統建築技術協会　TEL075-781-3245
㈱ヒューマンルネッサンス研究所
TEL03-3438-0931

●講演「木の文化、石の文化」梅原　猛氏（哲学者）

●討論「自然の素材を生かした生活のかたち」
――中村昌生氏（京都伝統建築技術協会理事長）
エルマー・ヴァインマイヤー氏（哲学者）
加藤　力氏（京都工芸繊維大学助教授）
佐藤友美子氏（サントリー不易流行研究所）
三澤康彦氏（Ms建築設計事務所）

＊1　(財)京都伝統建築技術協会
1978年設立。大工技術を母体とした伝統建築技術の啓蒙、調査研究、後進の養成などを推進し、文化財の保全、建築文化の発展に貢献することを目的とした活動を行う。

＊2　㈱ヒューマンルネッサンス研究所
1990年、オムロン㈱によって設立され、人間を尊重した21世紀の"最適化社会"の実現に向け、「人間・生活・社会」を視野に入れた研究、提言、推進などの活動を行う。

平成7年度「ひろしま街づくりデザイン賞」表彰作品・活動

広島市の都市景観表彰制度「ひろしま街づくりデザイン賞」は2回目を迎え、応募数109通の中から8作品1活動を選考した。

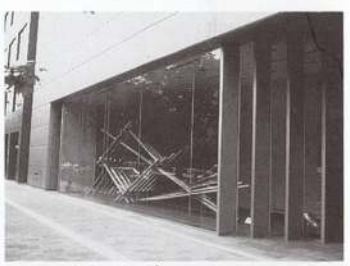
大賞は、様々な工夫を試みた一連の建築を中心に、サイン・アート、植栽などで雄大なスケールの街区を形成したA. CITYヒルズ&タワーズに決定した。



A.CITYヒルズ&タワーズ(広島市安佐南区)



広島修道大学ハーモニーロード(広島市安佐南区)
〈緑化推進部門〉



エビデンビルギャラリー(広島市中区)
〈サイン・アート部門〉



広島牛田新町郵便局(広島市東区)



CEC domitory(広島市南区)



NTT DoCoMo中国ビル(広島市西区)



カーパーク八丁堀(広島市中区)
〈街並み部門〉



アートの描かれた仮囲い(広島市中区)
〈サイン・アート部門〉



市街地再開発組合の施行した五日市駅北口地区(広島市佐伯区)〈まちづくり活動部門〉

旧朝鮮総督府庁舎保存・再生を

韓国のソウル特別市世宗路に建つ国立中央博物館（旧朝鮮総督府庁舎）の一部取り壊し工事が始まったのは、昨年の８月15日。

この旧朝鮮総督府庁舎の保存・再生を求めて韓国大統領に要望書を提出してきた明治建築研究会（代表・柴田正己氏）は、全面撤去から一部を残す方向に動いている韓国の最近の状況をとらえ、２月に再び金泳三大統領に要望書を出した。

96' 建築専門学校卒業設計作品展示会

大阪工業技術専門学校、修成建設専門学校、中央実務専門学校の合同企画で、３校の建築系学科学生の卒業設計作品が展示される。入場無料。

この展示会は、建築系の専門学校・学生の実情を卒業制作作品を通じて知らせるとともに、工業系専門学校のあり方や社会の中での役割を思索する契機となることを願って企画されたもの。問い合わせは、大阪工業技術専門学校内展示実行委員会（TEL06-352-0091）へ。

日時　1996年 4 月23日(火)～28日(日) 10：00～18：00

会場　大阪梅田東生涯学習ルーム（阪急・梅田、ヤンマーデーゼルビル北東隣）

中之島の中央公会堂保存・再生、設計者が決まる

北区中之島に建つ中央公会堂（設計：辰野片岡建築事務所、竣工：大正７年10月31日）の保存・再生計画について、大阪市は昨年11月30日から公募型プロポーザル方式で設計者の選定を進めていたが、２月29日にその審査結果を発表した。

海外を含め参加した15企業の中から選ばれた設計者は、㈱坂倉建築研究所、㈱平田建築構造研究所、㈱青山建築積算事務所、㈱新日本設備計画の設計共同企業体。

選定理由は、以下の通り。

●建物南側に市民に開かれたサンクンガーデンを設け、カフェテラスとしての利用も可能なようにし、これに面してレストランを地下１階に配置するなど、巧みな平面計画・外構計画を提案している。

●免震構法を導入するための構造計画、施工計画も確実性、安全性を考慮した妥当なもので、さらに全般的に建物の保存・再生に配慮した設計姿勢がうかがえる。

●類似業務の実績や組織力についても評価でき、総合的に最もふさわしい優れた提案であった。

審査委員は金多潔京都大学名誉教授―委員長―、大阪市の森田雅美教育長、岡本宏行都市整備局長、奥野晴夫教育委員会副理事、川畑雅一都市整備局営繕部長。

今後は平成８年度に基本設計を終え、９年度には実施設計、工事着工し、平成13年度完成予定で、中央公会堂の保存・再生計画が進められる。

堺市、５月１日に新用途地域を施行

大阪府堺市は、５月１日の新用途地域施行に伴い、同日から新用途地域による建築規制等を適用する。

●現在確認申請中または確認予定の建築に必要な措置

①確認申請中（確認後未着工のものを含む）の建築物

――新用途地域の施行により不適格となるものは、建築確認後、新用途地域施行前日（４月30日）までに着工（掘方や杭打などを開始し、継続的に工事を行う）すること。４月30日までに着工できない場合は新用途地域による建築規制に適合するよう計画変更が必要。

②現用途地域に基づく確認申請

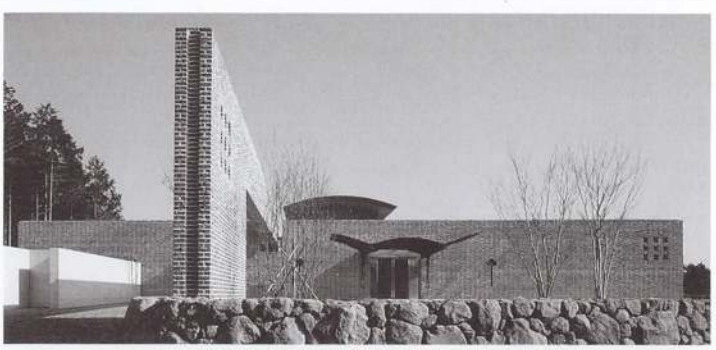
――現用途地域の規制で建築確認を受ける場合は、４月30日までに確認を受け着工する必要があるので、期間的な余裕をもって申請すること。

問い合わせは、堺市建築指導課（TEL0722-33-1101）へ。

第27回中部建築賞入賞作品８点



一般部門●竹中土木瀬戸竹親寮（愛知県瀬戸市）　設計／竹中工務店



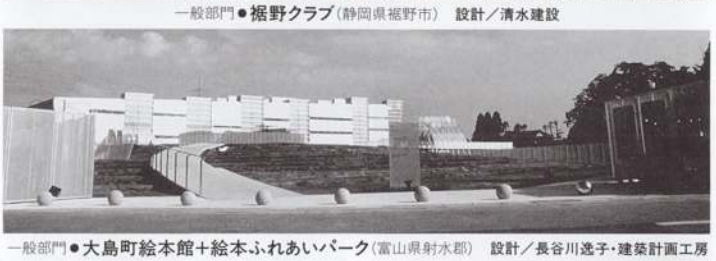
一般部門●裾野クラブ（静岡県裾野市）　設計／清水建設



一般部門●トタンの茶室・茫々庵（名古屋市）
設計／出江建築事務所



一般部門●MICHÉ（岐阜市）
設計／iBC 設計室



一般部門●大島町絵本館＋絵本ふれあいパーク（富山県射水郡）　設計／長谷川逸子・建築計画工房



一般部門●三重県総合文化センター（三重県津市）
設計／エイアンドティ建築研究所



住宅部門●２つの空（愛知県西加茂郡）
設計／笠嶋建築工房



住宅部門●於奈田工房（岐阜県多治見市）
設計／長田雅弘・環境計画＋内川敏男

日本建築協会

月間の動き

【平成8年1月分】

理事会

第4回常任理事会
24日・4時～4時50分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか13名
議　事　(1)名誉正会員推挙の件
(2)平成7年度第2回通常総会開催の件
(3)80周年記念事業開催について
(4)後援・共催名義使用承認の件
(5)入退会者承認の件
(6)事業報告
第4回会勢理事会
24日・3時～4時・於本会会議室
出席者　岡本、錢高副会長ほか6名
オブザーバー　市川会長、三品副会長
議　事　会員増強の進め方について

編集委員会

第10回会員企画小委員会
9日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　稲木副委員長ほか4名
議　事　(1)「建築と社会」(シリーズもの)の報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第3回計画系分科会
16日・6時半～8時半・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか3名
議　事　8月号計画系特集の企画
第3回計画系—インテリア・住宅—分科会
16日・7時20分～8時40分・於本会会議室
出席者　小梶幹事ほか4名
議　事　平成8年7月号予定本分科会特集のテーマ検討
第10回設備分科会
17日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　田ノ畑幹事ほか7名
議　事　(1)「設備の頁」の企画
(2)「立体駐車場設備」特集の企画
(3)新年度の設備分科会委員
第2回法令分科会
18日・2時～5時・於本会会議室
出席者　入江田幹事ほか2名
議　事　(1)5月号「災害と法」特集の企画
(2)「法令コーナー」の企画
第6回施工材料分科会
18日・4時～6時・於本会会議室
出席者　有光幹事ほか4名
議　事　(1)特集企画(平成8年6月号予定)の検討
(2)今後のスケジュール
第10回作品作風小委員会
25日・6時半～9時半・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか2名
議　事　(1)前回編集委員会の報告
(2)作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3)作品の選定
(4)「Gallery」掲載報告・予定
(5)「SKETCH BOOK 欄」の掲載予定
第4回計画分科会—建築系—
30日・7時～8時・於本会会議室
出席者　山本幹事ほか7名
議　事　平成8年9月号の本分科会担当特集のテーマについて

事業委員会

第9回若い会員の集い小委員会
8日・7時～8時45分・於本会会議室
出席者　南、杉本副委員長ほか3名
議　事　今後の予定について
第6回広報小委員会
10日・6時～8時20分・於本会会議室
出席者　南、原見副委員長ほか13名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第1分科会からの報告と検討
(3)第2分科会からの報告と検討
(4)その他のこれからの企画について
(5)事業委員総会について
第6回見学会小委員会
12日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　南、福島副委員長ほか9名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告
(3)今後の予定について
(4)今後の候補について
第6回事業委員会
17日・4時～5時・於本会会議室
出席者　多井委員長ほか9名
議　事　各小委員会からの報告と検討
第2回近代建築見学分科会
23日・6時～8時40分・於本会会議室
出席者　南副委員長、福家幹事ほか5名
議　事　近代建築見学会(第5回)及び東京国際フォーラム見学会の企画について

教育委員会

第3回工高生教育小委員会
17日・6時～8時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか10名
議　事　(1)平成8年度・第42回工高生デザインコンクール募集規定原案の検討
(2)今後の作業日程

出版委員会

第9回出版委員会
18日・5時～6時半・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか5名
議　事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)「プロのノウハウ」講座シリーズ

見学会

OAP見学会
11日・1時～4時半・参加者61名
近代建築見学会
諸戸精文邸と六華苑を訪ねる
20日・1時～4時10分・参加者30名

話題建築を聞く

大阪府立看護大学
山下　弘氏に聞く
22日・6時半～8時半・参加者29名

スライド・レクチャー

第4回西地中海の建築—モロッコ、スペインを訪ねて
23日・6時半～8時半・参加者34名

30's EYE—21世紀へのエスキス

井野瀬久美恵
「田園都市神話—『イギリス的なるもの』の捏造と都市復権への道程」
26日・6時半～9時・参加者36名

建築クラブ

新年宴会・於大阪グランドホテル
9日・6時～7時半・参加者56名

入会者(敬称略)

〔団体会員10社〕
アルフレッシュ㈱
浦安工業㈱名古屋支店
鹿島建設㈱名古屋支店
三和シヤッター工業㈱大阪支店
昭和アルミテクノ㈱大阪支店
昭和鋼機㈱大阪支店
日本設備工業㈱名古屋支店
福田鋼機㈱
松下精工エンジニアリング㈱
YKKアーキテクチュラルプロダクツ㈱大阪支店

〔個人会員7名〕

川畑　元(朝日機器)	久保　政未(大成建設)	佐藤　紀英(大成建設)
齋藤　利昭(きぬた建築設計室)	成田　正明(青島設計)	水野　久(水野建築設計事務所)
森本　信明(近畿大学)		

◀会員の訃報
名誉会員　森岡武夫(8年1月28日死去)
正会員　桝谷博行(8年1月13日死去)

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59 電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号 電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3 電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　三田村　嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話06(202)3071(代表)
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131代
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・宮崎・鹿児島

技術と信頼で人と企業に貢献する
青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤　孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪（06）768－5031 代表
メンテナンス部　電話　大阪（06）768－1651 代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話（03）5689－2351 代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier
冷暖房は
CARRIER
キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役 土井敏裕
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

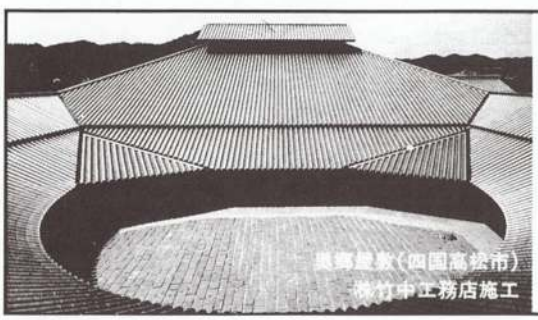
電気設備 ㊋ 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06(385)1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34-6 電話06(385)1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話 大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本社 大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所 天理市丹波市新町49

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO
三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL.078(881)5571・FAX078(871)6261
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
ファックス 五六一～七四五四
五六一～七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、
施工中 三秀商店施工

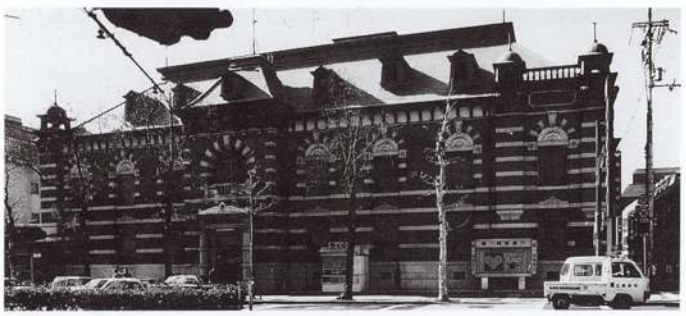
学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL06(792)5858 FAX06(792)2810

新鮮
情報処理／編集・企画／印刷・製本
ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。
ND
日本電植株式会社
〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3・4F
TEL. 06-352-7502㈹ FAX. 06-352-7486

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

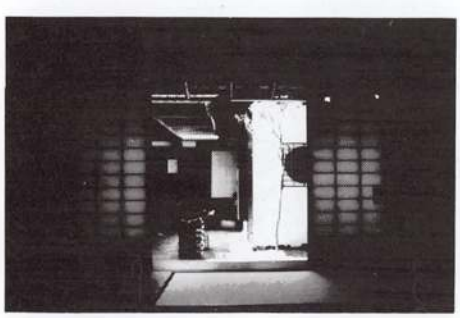
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

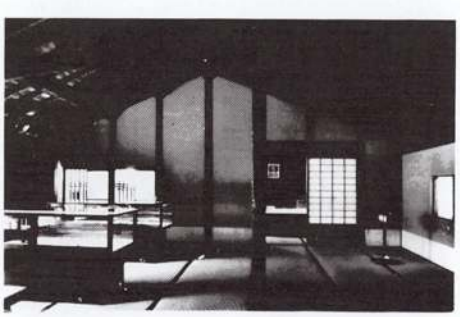
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

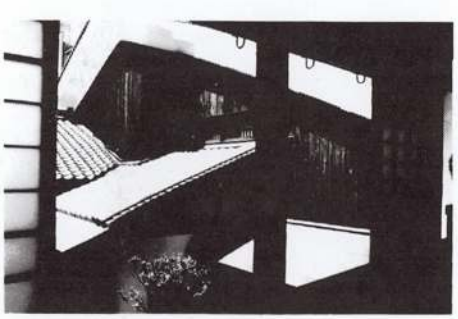
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１







テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10（TSビル）
TEL（06）943－6571（代）

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

建築技術選書〈特装版〉
企画/日本建築協会
学芸出版社
〒600京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
(Tel)075-343-0811(Fax)075-343-0810

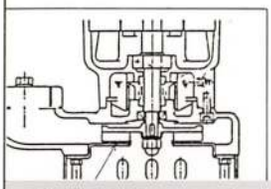
水にまつわるトラブルの事例・解決策

建築編

「建築漏水」編集委員会編
B5判/208頁/2色刷
定価4120円（本体4000円）

設備編

「設備漏水」編集委員会編
B5判/184頁/2色刷
定価4120円（本体4000円）



建築編

大林組，鹿島，清水建設，竹中工務店，大成建設，松村組の6社を中心に，実際に発生した事例をもとに社内教育メンバーが整理・分析

〈目次〉

陸屋根/勾配屋根等/パラペット
外壁/サッシ・開口部/トップライト/出入口まわり/バルコニー
樋/床・その他/地下/結露
用語解説/チェックリスト

設備編

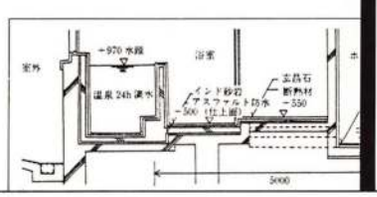
淺沼組，朝日工業社，安藤建設，奥村組，鹿島，金山工務店，熊谷組，鴻池組，五洋建設，佐藤工業，清水建設，新菱冷熱工業，須賀工業，住友建設，西武建設，錢高組，大成建設，大和ハウス工業，竹中工務店，鉄建建設，戸田建設，東海興業，東急建設，東洋建設，飛島建設，南海建設，西原衛生工業所大阪店，西松建設，日産建設，日本国土開発，ハザマ，長谷工コーポレーション，フジタ，不動建設，前田建設工業，真柄建設，松村組，三井建設の38社が情報提供

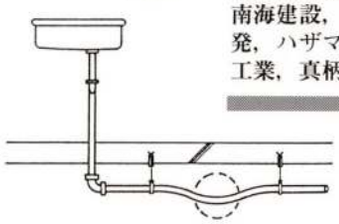
〈目次〉

給水/給湯/排水
器具まわり
換気/空調/電気/その他/腐食
チェックリスト

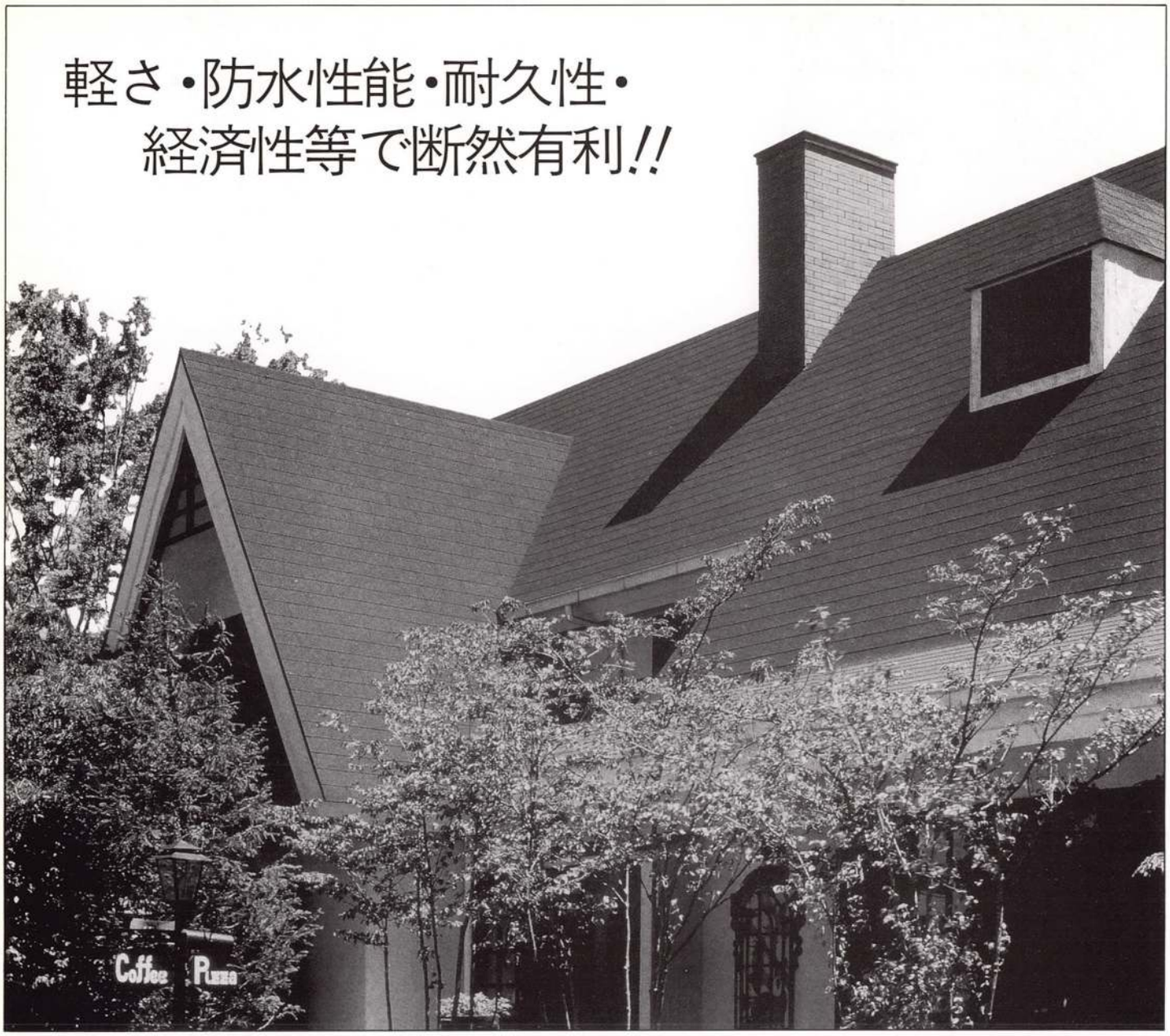
✹解決のノウハウ集

あり得ないと思っても，不具合となっているのが現実
各社で実際に生じた事例をもとに整理・分析
現状⇨原因⇨処置⇨再発防止策までを図解で詳説
トラブル予防と対策にすぐ役立つ《チェックリスト》掲載
デザイナーを目指す人，施工監理のオーソリティーを志す人へ





軽さ・防水性能・耐久性・
経済性等で断然有利!!



くっきり、鮮やか。

――屋根はいま、新しい表情をもった

三星フネンシングルは、ガラスマット１００%の芯材と耐候性にきわめて優れた特殊合成樹脂混入無機物からなる不燃認定を受けた屋根仕上げ材です。
耐久性、柔軟性に優れ、表面は環境に調和する彩色砂粒を圧着してあります。軽量にもかかわらず風に対しても十分な安全性を持っています。どの様な形状の屋根にも容易な施工が可能です。
不燃性とソフトな化粧性を合せ持ち、下葺防水材との防水システムの併用も相まって、屋根仕上材の自信作です。
現代感覚あふれる超モダンな屋根から純和風屋根にいたるまであらゆる屋根にセンス良く調和します。

建設大臣認定 不燃(個)第1552号
三星フネンシングル
一文字
サティオン

西日本三星シングル工事協同組合
田島ルーフィング株式会社

大　阪　〒550 大阪市西区京町堀１－10－５　TEL06 (443)0431
神　戸　〒650 神戸市中央区栄町通5-1-22日宝栄町ビル　TEL078(362)6121
広　島　〒730 広島市中区西平塚町8-13 立駐広島ビル　TEL082(246)8625
福　岡　〒810 福岡市中央区大名２－４－35　TEL092(724)8111
東　京　〒101 東京都千代田区岩本町３－11－13　TEL03(5821)7711

社団法人 日本建築協会　〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634 振替口座〇〇九一〇一九一三九九七五
定価1、200円（本体1、165円●消費税35円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収
雑誌 03379-3